

No.13 >>> Contents

●提携支援センターから

蚕糸・絹業提携システムの構築により、西陣産地の活性化を目指す 西陣織工業組合 専務理事 碓山俊光	1
平成 22 年度第 2 次純国産絹マーク使用許諾状況（黄八丈を初めて認定） 社団法人日本絹業協会	8
純国産絹製品の魅力を発信 社団法人日本絹業協会	10
提携システム確立事業計画書の策定に当たっての 各項目の考え方及び留意事項等について	13
「良いものづくり」に向けて	34
緊急対策事業実施上の検討課題への対応（Q&A）	43
提携支援センター活動日誌 No. 13	50

●今月の話題

良いものづくりに向けて蚕と糸と織りが一緒に研究 (財)大日本蚕糸会 蚕業技術研究所 所長 井上 元	51
------------------------------------------------------------	----

●国内情報

「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録と蚕糸業振興 群馬県世界遺産推進課 補佐 土屋 真志	58
----------------------------------------------------------	----

●トピックス

国内産地情報、海外情報（中国）	63
-----------------	----

●イベント情報	66
●登録コーディネーター一覧	68
●純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧	72
●蚕糸関係博物館一覧	73
●蚕糸関係団体ホームページ一覧	74
●統計資料	75

(統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。)

蚕糸・絹業提携システムの構築により、 西陣産地の活性化を目指す

西陣織工業組合
専務理事 碓山俊光

蚕糸・絹業提携システムの構築により、西陣産地の活性化を目指して西陣織工業組合は、平成21年11月3日、(財)大日本蚕糸会の助成と群馬県立日本絹の里の協力を得、西陣織会館1・2階に「純国産絹織工房」を開設・オープンしました。そして、はや半年余りが経過しました。

同工房の開設の背景やオープニングの様子、工房の内容等は本誌(2010年1月号No.10)に掲載いただいたとおりです。

工房オープン以降、本年に入り、米国で発生した経済危機、また、インフルエンザ風評がようやく終息、ありがたいことに来館者が前年対比で70%の増加となっています。加えて、本年6月25日、同会館の3階に「京和装・伝統産業職人工房」を開設しました。これの相乗効果で年間100万人突破を目指しているところです。

純国産絹織工房開設以降、一部の業者(織屋)が、国産生糸の使用に取組み始めていることは、最大の喜びであります。他方、会館を訪れる大勢の観光客・一般市民・学生さん達が、興味を持って同工房に見入っている姿、また、蚕の神秘性や生糸、とりわけ純国産生糸に高い関心を払っている姿を散見するにつけ、やはり蚕糸・絹業が一体となった取組み・ものづくりをしていかなければなりません。それを大々的にアピールし、硬直化した業界の活性化を図り、両者を繁栄・発展させていくことが一層重要であると改めて考えさせられる今日この頃であります。

「純国産絹織工房」オープン以降

純国産絹織工房は、西陣織会館1・2階に開設しています。

工房は、①蚕の飼育、②生糸が出来上がるまでの「工程パネル」の掲示、③ジオラマ(立体模型)を使っの「養蚕・製糸・加工・流通小売り」に関する解説、④モニター(映像機)を使っの「生糸や西陣織」が出来上がるまでの解説、⑤(希望者への)国産生糸を使ったミニ手機体験学習、⑥座繰り機を使った「繭の座繰り」の実演等々を行い、



写真1 桑を食べ、成長する蚕

多数の来館者から好評を得ています。

中でも、蚕の飼料となる「桑」は、群馬県と日本絹の里から新たに「枝垂れ桑」を譲り受け、西陣織会館周辺に植樹し、栽培を始めたところ、周辺住民の目を引き興味と話題を集めています。

また、蚕の飼育ではオープン以降、約9,000頭の蚕を育てました。(写真①)

「繭棚」(蔀)は紋紙(パンチカードともいいます。織物の設計図にあたる「紋意匠図」に基づいて、経(タテ)糸の上げ下げを指令する穴をあけた短冊型のボール紙。これを繋ぎ(紋編みという)ジャカードに連結し、①経糸を上げる、②ヨコ糸を通す、③経糸を下げる作業を繰り返す、織物を織り上げる)を活用しています。この繭から生糸を引く「繭の座繰り」を実演し、工



写真2 紋紙を活用した「繭棚」(蔀)。十分に成長した蚕が繭を作る

程パネルを使ってこれらを説明すると、その神秘性に関心が持たれ、<驚きと感動の声>が数多く寄せられる現状です。(写真②)

同様に、ミニ手機の体験学習(所要時間3時間、費用:一般5,000円、学生4,000円)では、(希望者に)これら国産生糸を使ってマフラーの製織をしていただき、出来上がったマフラーを持ち帰っていただいておりますが、リピーターも多く、大好評です。

(写真③、④)

さらに、ジオラマやモニターの解説には、勉強の一環なのでしょう、学生さん達が熱心にメモを取る姿が見受けられます。

このように、純国産絹織工房は、古(いにしえ)からの製法による工房として来館者に郷愁の念を与え、「蚕の飼育から製織まで、一貫して見る事が出来る充実した施設に感動しました」、と話す観光客の声が証明するように、伝統の技と文化性を強くアピールしている工房ということができます。

私は仕事柄、全国の産地へよく出向いて行きますが、共通した声として、国産生糸の品質の良さを耳にします。すなわち、裏を返せば国産生糸を使って良いものを作りたい、というのが本音だと思われま

しかし、希少価値といわれるまでに生産量が減少した国産生糸ですから、調達の問題、価格の問題等が壁となって入手が困難になっており、残念でなりません。しかしながら、西陣産地で国産生糸を使用し、裂地・ネクタイ・マフラーをテスト生産して



写真3 ミニ手機の体験学習

いますが、高付加価値の製品は助成なしでも採算点に達することがわかりました。

『風神雷神図屏風』をつづれ織で製織

純国産絹織工房の隣では、俵屋宗達筆の最高傑作といわれる建仁寺（京都市）所蔵の国宝『風神雷神図屏風』を、爪搔本つづれ織の技法を使って製織（実演）しています。（写真⑤）

原材料は、もちろん純国産生糸を使用。微妙な色を表現するため、4本合わせの色糸を緯（ぬき・ヨコ）糸として使用。本金の金糸・箔もふんだんに使っています。

製織者は、爪搔本つづれ織に関して高度な技術を有する伝統工芸士。「爪と工夫をして作った手筈を使って織っていますが、一日1cmは織れないでしょう」とこの工芸士は話します。

したがって、完成までにはまだ3～4年は掛かりますが、タテ180cm×ヨコ160cmの2曲1双の屏風に仕上げる予定です。

当組合は昭和57年、西陣の技術を後世に残そうと、最高の技術者と原料を駆使し、



写真4 体験学習で織り上げ、完成したマフラー

「昭和の能装束」として「紅地籠目枝垂桜べにししだれざくら糸巻鳳凰文様唐織いとまきほうおうもんようからおり」と「萌葱地花籠垣秋草もえぎじはなごかきあきくさ文様長絹もんようちようけん」の2領を製織。地元紙はもとより全国紙の1面を、大きく飾りました。

今回の『風神雷神図屏風』の製織は、同屏風の図を忠実に表現すべく、筋骨隆々・躍動感あふれる風神・雷神の迫力、表情等を、織物ならではの特性を生かして織り上げ、平成の爪搔本つづれ織『風神雷神図屏風』といわれるものにしたいと奮闘しています。来館の際は、是非ご覧下さい。

日本の絹ギャラリーコーナー

本年に入り、同コーナー（会館1階メインギャラリー）で「皇后陛下御親蚕」パネル展を開催しています。

展示パネルは、（財）大日本蚕糸会の貸与を受けたもので、来館者に感動を与えています。

「京」和装・伝統産業職人工房

本年6月25日、『西陣ホール』（西陣織会館3階：従前は、講演会・コンサート・会議場等として使用）を改修・改装し、「京」和装・伝統産業職人工房を開設・オープンしました。（写真⑥）

同工房は、行政（京都府・市等）の助成を得、伝統産業の将来を見据え、伝統の技の継承とその人材を育成していくことを主眼に、①枯渇化道具類の開発・伝承、②蚕糸（国産生糸）・絹業（ものづくり）のPR、③観光客誘致、等を推進するものです。

そのため、数十台の手機・つづれ機を設置し、西陣織会館で実演にあたる優秀な織師達が技術指導を行い、将来の織師を養成していく。これを通じ、高齢化・後継者難対策に繋がることを期待しているところです。

このほか、①絹織工房とは別途のミニ手機の体験学習、②西陣織・京友禅染の実演、

③枯渇化道具となった「竹箴」の製作・実演、④関連工程（工業）の実演、⑤和装品を中心とした展示・販売コーナーの設置など、『西陣ホール』は伝統産業と染織融合、準備工程（段階）から製織まで、いわゆる西陣産地が一体となったものづくりを大々的に見せ、体験していただく『工房』に生まれ変わりました。

このことによって、「純国産絹織工房」と「京」和装・伝統産業職人工房の両工房がうまくマッチングし、相乗効果が生まれ、評判は上々です。

イベントでも純国産生糸をPR

西陣織と本場奄美大島紬の「コラボレーション展」を昨年10月（西陣織会館で）と、本年2月（本場奄美大島紬会館で）開催しました。（写真⑦）

その際、来場者に養蚕と「繭の座繰り」の実演を見せ、併せて、純国産生糸の良さ



写真5 「風神雷神図屏風」を爪搔本つづれ織で製織。織師の後ろに立ててあるのが、「紋意匠図」（一部）、その手前が美術書、これを見ながら、一越一越織り進めていく



写真6 「京」和装・伝統産業職人工房の看板



写真7 西陣・奄美コラボレーション展でのテープカット

(左から池島隆二 本場奄美大島紬販売協同組合理事長、浜崎幸生 奄美大島商工会議所 会頭、黒木雄平 京都市産業観光局 商工部 伝統産業課主任、朝山毅 奄美市長、三輪有弘 京都府商工労働観光部 染織担当 副主査、世門光 奄美市議会 議長、田川盛二 本場奄美大島紬協同組合 前理事長、山崎清一郎 西陣織工業組合 副理事長)

をPRするコーナーも設置し、共感を得るとともに、「国産生糸をぜひ使用したい」との要請を受けました。(写真⑧)

このように、同展は、奄美大島（鹿児島）の県民・市民・紬業者から絶大な支持を受け、大好評であったことから、今秋から来秋に掛け、さらに5回、コラボレーション展の開催を予定しています。

また、5月30日～6月3日、国産生糸とこれを原材料にした製品の普及を目的に、京都市内で開かれた（社）日本絹業協会主催のイベントにも、当組合は国産生糸を使用した〈つづれ機の実演〉、〈ミニ手機によるマフラーの製織体験〉などを行い、協力しました。

新商品きものショー

きものショーは、1日7回、西陣織会館1階のオープンステージ上で上演していま

す。

これは、観光客誘致の目玉企画として上演しているもので、文字通り絶大な人気を集め、延10万回以上の上演回数を誇ります。上演時はステージ周辺はもとより、2階へ向かう階段から2階（1階を見下す）フロアーまで、鈴生りの観光客らがショーに釘付けになります。

純国産絹織工房オープン以降は、国産生糸を使った帯やきものをまとっての「新商品きものショー」を定期的に上演しています。

「新商品きものショー」では、ナレーターが「本日のきものショーは、純国産生糸を使って製作したきものを着、帯を締めています」とナレーションを流しますが、この時、一段と大きい拍手・喝采が沸き起こります。

これを見聞きしていると、やはり絹

織工房との相乗効果を感じずにはおれません。(写真⑨)

結びに

現在、和装業界・西陣業界は需要の減少から、非常に厳しい局面を迎えています。

すなわち、①組合員（織屋）や図案・糸染などの関連工業（西陣織の特徴である分業体制を支える（職人）企業）が、休・廃業に追い込まれ、②職人の高齢化・後継者難が益々進行し、③生産基盤である（製織していく上で必要不可欠な）織機の部品や道具類が枯渇化するなど、難問が山積みしている状況です。したがって、これらへの早急な対応が望まれています。

そこで当組合はその対応策として、当組合が中心となって、①関連工業とのコラボレーション・イベントを開催し、西陣産地が一体となった取組みを進めるとともに、②京都の伝統的工芸品を製作する産地を結集させ、行政も交えて〈京都伝統産業道具類協議会〉を、平成20年の秋に建ち上げました。〈協議会〉は先ず、会の趣旨・目的を認（したた）めた書き物を添え、全国の産地に対して枯渇化部品・道具類等に関する実態調査を実施しました。そして、この調査結果を踏まえ、会の趣旨・目的に賛同する産地を中心に再度呼び掛け連携し、枯渇化部品・道具類の安定的調達に向けたシステムの構築を確立すべく、現在その取組みを進めています。

翻って、西陣産地が永々と築き上げてきた伝統の「技」は、こうした部品・道具

類を使うことによって生まれたものなのです。

さらに近年、消費者を惑わすような表示、すなわち、皇室を騙って（イメージさせて）あたかも「小石丸」「新小石丸」を使用（実際は、これらの糸を使用していなかったり、ごく微量を使用）しているがごとの不正表示（悪質販売）が相次いで発覚しています。

当組合はこれへの対応策として、組合独自の監視・指導・（罰則規程を含む）取締りを強化し、事実関係を明らかにしたのち、断固たる処置を取っています。また、例年、全国の和装産地が結集して開催している「きものサミット」でもこれを取り上げ、「サミット宣言」の中に盛り込み、全国ベースで追放運動を協力を推し進めています。

右肩下がりの経済、少子高齢化、格差社会、低炭素社会の実現、生活者の意識・購買行動の変化、等々の時代の潮流の中にあって、現代、経済最優先から人間性を見直し、心の時代に変わってきました。

伝統的工芸品、とりわけ、日本古来のきものや帯といった和装品を作り続け、千数百年の歴史と伝統を育み、和装文化・きもの文化を生み出した西陣産地（和装業界）。そして、これらへの原材料（純国産生糸）を供給し続けてきた蚕糸業界。

〈古（いにしえ）への回帰〉が、活性化への一つの手立てだと考えます。

本文のテーマである〈蚕糸・絹業提携システムを構築〉し、こうした時代の変化（人間性を見直し、心の時代）を追い風として

捉え、手を携え、ともに活性化を果たし、生活者に喜ばれる本物の製品を生みだし提供すること。その果実として両業界が繁栄・発展し、その技術を次世代に継承していく

こと。これこそが、半世紀にわたって西陣に身を置いた私のいま現在の最大の関心事であり、そのお手伝いをしていくことが今の私の仕事だと考えています。

いかりやま としみつ
西陣織工業組合 専務理事



写真8 西陣・奄美コラボレーション展での一コマ座繰り機を用いて、繭から生糸を引く



写真9 新商品きものショー

平成 22 年度第 2 次純国産絹マーク使用許諾状況 (黄八丈を初めて認定)

社団法人 日本絹業協会

純国産絹マークの平成 22 年度第 2 回審査会を 6 月 9 日（水）に開催しました。今回、11 件（うち、新規の申請 4 件、生産履歴、数量の追加申請が 1 件、生産数量の追加申請が 6 件）から申請があり、審査委員会で審査した結果 11 件に対し、6 月 16 日（水）付けで純国産絹マーク使用許諾する旨を通知しました。

純国産絹マーク使用許諾者は次の 11 件です。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
株式会社鶴屋百貨店 代表者名 本田 一 熊本県熊本市手取本町 6 番 1 号 (担当者：本田 一) TEL 096-356-2111 表示者登録番号 1 1 6	胴裏絹	800 枚	制作企画 日本蚕糸絹業開発 (協) 繭生産 熊本県養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 (株) カブト 精練加工 (有) 江島屋染工場
黄八丈めゆ工房 代表者名 山下 誉 東京都八丈島八丈町中之郷 2 5 4 2 (担当者：山下 誉) TEL 04996-7-0411 表示者登録番号 1 1 7	先染反物 (黄八丈)	300 反	蚕品種 新小石丸 繭生産 群馬県安中市養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 染 織 自工房
京屋呉服店 代表者名 清水 正哉 長野県塩尻市大門一番町 8 番 5 号 (担当者：清水正哉) TEL 0263-52-0553 表示者登録番号 1 1 8	後染反物 (色無地)	20 反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物 (株) 染 色 小林染工房 制作企画 (株) 猪井
合資会社車屋呉服店 代表者名 吉原 清次郎 神奈川県横浜市南区大岡 2-21-13 (担当者：吉原清次郎) TEL 045-731-6108 表示者登録番号 1 1 9	後染反物 (色無地)	20 反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物 (株) 染 色 小林染工房、(株) 路考 きもの和楽、藍田正雄 (株) 貴久樹 制作企画 (株) 丸上 意 匠 自社
(生産履歴、数量の追加) 株式会社さが美 代表者名 小野山 晴夫 横浜市港南区下永谷 6 丁目 2 番 11 号 (担当者：小野山春夫) TEL 045-820-6000 表示者登録番号 0 3 1	後染反物 (色無地)	230 反	繭生産 J A たむら・J A すかがわ 岩瀬管内養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 河芳織物 (有) 染 色 (有) 西崎染工

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
(生産数量の追加) 桜井株式会社 代表者名 桜井 実 京都市北区衣笠荒見町5の4 (担当者：桜井 実) TEL 075-461-0246 表示者登録番号 053	先染帯	120本	企画 (株) 深田商店 繭生産 JAたむら・JAすかがわ 岩瀬管内養蚕農家 製糸 松岡(株) 染色 にしき染色(株) 製織 自社
(生産数量の追加) 株式会社きものアイ 代表者名 吉澤 政敏 新潟県十日町市686番地 (担当者：吉澤政敏) TEL 025-757-9529 表示者登録番号 008	後染反物 (色無地)	20反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 三共織物(株) 染色 小林染工房 制作企画 (株) 丸上 意匠 自社
(生産数量の追加) 日本蚕糸絹業開発協同組合 代表者名 小林幸夫 群馬県高崎市問屋町3-5-3 (担当者：土井芳文) TEL 027-361-2377 表示者登録番号 021	白生地 (世紀21) 胴裏絹 (群馬羽二重) (ぐんま比 ^ア) ぐんま200 (灰汁浸加工) (トルマ ^ン 加工) 五ツ星 ぐんま200 よろこび 世紀21	60反 2400枚 7200枚 3300枚 1700枚 1000枚 400枚 300枚	蚕品種 世紀二一、ぐんま200 繭生産 安中市、富岡市など群馬県内 養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 坪金工業(株)、(株)カプト、 丸進機業(株)、山直織物(株) (有)長島織物 加工 (株)京都紋付 (有)江島屋染工場 キヌテック(株) 精練加工 (有)江島屋染工場 企画製作 絹小沢(株)
(生産数量の追加) 株式会社京扇 代表者名 鈴木 康裕 東京都中央区東日本橋3-6-6 (担当者：鈴木康裕) TEL 03-3249-6001 表示者登録番号 061	胴裏絹 (パールト ^ン 加工)	600枚	制作企画 日本蚕糸絹業開発(協) 繭生産 群馬県養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 (株)カプト 精練 (有)江島屋染工場 加工 (株)パールト ^ン
(生産数量の追加) 株式会社きもの潮見 代表者名 潮見 憲一 愛媛県西条市玉津558-2 (担当者：潮見憲一) TEL 0897-56-0999 表示者登録番号 074	胴裏絹 (パールト ^ン 加工)	300枚	制作企画 日本蚕糸絹業開発(協) 蚕品種 ぐんま200 繭生産 群馬県養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 丸進機業(株) 加工 (株)パールト ^ン
(生産数量の追加) 株式会社細安 代表者名 小林 慎二 福井県福井市手寄1丁目9番18号 (担当者：小林慎二) TEL 0776-22-7878 表示者登録番号 076	胴裏絹 (酵素精練)	200枚	制作企画 日本蚕糸絹業開発(協) 蚕品種 ぐんま200 繭生産 群馬県養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 山直織物(株) 精練加工 (有)江島屋染工場

次回審査会の予定は8月3日(火)です。申請される方は審査会の10日前までに申請書を提出してください。

純国産絹製品の魅力を発信

社団法人 日本絹業協会

5月30日(日)から6月3日(木)まで、当協会は、京都の京都産業会館4階展示場にて「純国産絹製品展」((財)大日本蚕糸会、(社)日本絹人織織物工業会、京都織物卸商業組合、(社)全日本きもの振興会後援)を開催しました。

この時期は、京都・室町の主要前売問屋の商談会が開催され、全国のきもの販売店が京都に集まる機会が多いことや、きもの愛好家の一般消費者にも多数参加を得られやすいよう日曜日を含めた5日間を会期としました。

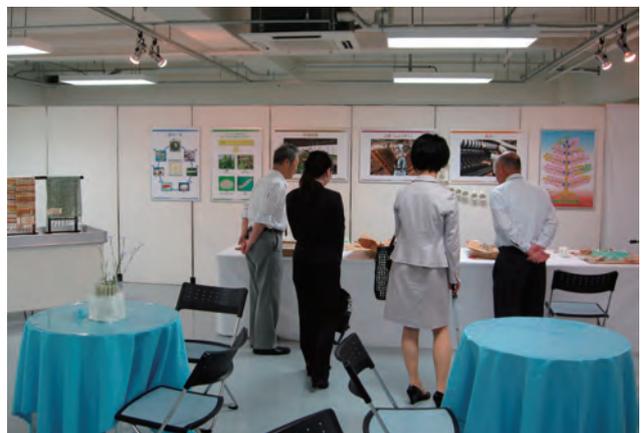
また、本展示会は、(財)大日本蚕糸会が実施している「蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業」の一環として当協会が開催したものであり、来年からの提携システムへの本格的な移行を目的としたこの事業の準備

期間が本年度で終了する重要な節目に当たり、提携システムへの円滑な移行を加速するため、昨年を引き続いてきもの一大集散地である京都にて一般消費者並びに業界に純国産絹製品の魅力を発信・アピールすることを目的としたものです。

出展者は19者で、うち洋装関係者も3者が参加し、300余点の純国産絹製品を展示し、来場者に出展目録のほかに、各社の製品の特長を簡単に記述した「製品概要パネル」で説明し、生産者が提携して素晴らしい純国産絹製品づくりをしていることを表現しました。また、純国産絹製品の生産過程のパネルを展示するとともに、蚕糸絹業提携システムの概要、純国産絹製品の生産の過程を映像でも分かりやすく提供しました。



(写真1) 純国産絹製品展示会の風景



(写真2) カイコの飼育展示の説明

出展各社の展示等絹製品とその特徴

出展者名	展示等絹製品	製品の特徴
(株) 高島屋	振袖 (誰が袖好み)	那須南に繭生産地を特定した優良繭を丁寧に繰糸した生糸を用い、光沢のあるシワになりにくい絹製品。
(株) 千總	振袖、色無地、白生地	徹底した飼育管理による優良繭から繰糸した生糸を用いた絹製品。
(株) 伊と幸	又昔絵羽色無地、又昔色無地、松岡姫色無地	蚕品種「松岡姫」「上州絹星」繭から繰糸した生糸を用いた絹製品。
(株) 銀座もとじ	プラチナボーイ訪問着、プラチナボーイ付下げ、プラチナボーイ大島紬、プラチナボーイ帯	蚕品種「プラチナボーイ」繭から繰糸した生糸を用いた男物きもの。
日本蚕糸絹業開発協同組合	新小石丸白生地、世紀二一白生地、世界絹遺産白生地、世紀二一紋付地、世紀二一長襦袢地、胴裏絹、八掛地	群馬県が多様な蚕品種繭から繰糸した生糸を用いた生地にトルマリン加工、灰汁加工等を施した絹製品。
門倉メリヤス (株)	蚕太紳士ベスト、蚕太5本指靴下、蚕太ハーフコート	太織度蚕品種「蚕太」繭から繰糸した生糸を用いた洋装絹製品。
(有) ミラノリブ	ニットスーツ、ワンピース、ボレロ、ストール	上州座繰り生糸による洋装絹製品。
山音 (株)	かぐやきぬ (三越、駒紬)	群馬県の繭に水撚り、先練りの技術を駆使した絹製品。
(株) 丸万中尾	色無地、江戸小紋、草木染訪問着	製造を信州にこだわった製品を蚕品種「ぐんま 200」でつくった江戸小紋。
(株) 小倉商店	本場結城紬着尺 絵羽 帯	蚕品種「朝・日×東・海」繭から繰糸した生糸を用いて開発した独自製品。
(株) 榎屋高尾	着物 (輪繫ぎ文) 帯 (彫金鹿牡丹文)	正倉院に現存する渡来錦を「新小石丸」生糸で再現した織物。
田中種 (株)	極小紋人間国宝型 京友禅小紋 平紋付組み合わせ 黄櫨染	極小紋型・伊勢型による極小紋。蚕糸・絹業提携システムによる絹製品。
(有) 織道楽塩野屋	柳条縮緬 緋 マフラー 九寸緋帯	京都府の色繭蚕品種「都浅黄・黄白」繭を生繭繰糸した生糸を用いた絹製品。
綾の手紬染織工房	着尺 (芙蓉×つくばね)、着物 (小石丸)、ショール	蚕品種「小石丸」の繭を座繰り繰糸した生糸を用いた草木染め絹製品。
織匠 万勝	袋帯、先染着尺	優良繭から繰糸した生糸を用い、西陣織が持つ高度な技術の融合による絹製品。
(株) 岩田	袋帯	蚕品種「あけぼの」繭から多条機生繰り繰糸した生糸を西陣で培われた工芸技術を生かした絹製品。
(株) 平田組紐	冠紐、綾竹組紐、貝ノ口亀甲組紐、貝ノ口浮舟	蚕品種「ぐんま 200」の特徴を生かしたコシのある風合いと美しい染色、しなやかな締め心地の帯締。
(株) 菱健	色無地着尺	群馬県産繭を用い、唐織組織でコシのある風合いと美しい染色、しなやかでしわの修復性を高めた織物。
西陣織工業組合	マフラー	ふい絹、紡ぎ糸を使用した手織りのマフラー

カイコの飼育展示と実演

5 齢期のカイコ(ぐんま 200、世紀 21(群馬県蚕糸技術センター提供))と1 齢から5 齢までのカイコの飼育展示、昭和時代の養蚕器具(日本蚕糸絹業開発協同組合提供)の展示、座繰り器による繰糸、手機機による製織の実演(西陣織工業組合提供)を行い参集者の大きな関心を得て、展示会への関心を高めることができました。

来場された呉服屋さんの中には、上族中のカイコ、玉繭、小粋に巻き取った生糸を了承を得て持ち帰る方もいましたし、また、呉服の販売会で実演をしたいが協力をしてくれるかどうか、上毛式座繰り器はどこで購入できるのかの問い合わせもありました。

貴重なご意見

絹製品を販売する展示会において、今回のような純国産絹製品の展示に加えて展示実演を行い、きもの愛好家に対して判り易く絹製品の生産工程を説明し、純国産絹製品の魅力を発信することが必要とのご意見

もきものの流通、販売者の方々からいただきました。

また中には、日本から繭の生産がなくなれば日本のきものは存在しないとの声もあり、さらに、純国産絹製品を単に展示するだけでなく、純国産絹製品は生産履歴が表示されていることによる販売戦略がより必要であり、そのためには、生産履歴の特長をより深く説明することにより、販売者、消費者に純国産絹製品の良さを分かってもらえるのではないかとのご貴重なご意見もいただきました。

おわりに

今後も、今回のような展示会の開催を継続し、多くの方々に純国産絹製品の存在を知っていただく運動が必要であり、呉服の流通の方々との意見交換を重ねることがより必要であると感じた次第です。

最後に、本展示会に参加していただいた方々をはじめ、展示会の開催告知、展示会の模様を取材協力していただいたプレス関係者の方々に感謝いたします。



(写真3) 織物製織の実演(協力:西陣織工業組合)



(写真4) 養蚕器具と座繰り器の展示

提携システム確立事業計画書の策定に当たっての各項目の考え方及び留意事項等について

平 2 2 蚕提携第 4 1 号

平成 2 2 年 5 月 2 4 日

財団法人大日本糸会会頭通知

改めて申し上げるまでもなく、蚕糸・絹業関係者が蚕糸・絹業提携システムを構築して、蚕糸・絹業提携システム確立対策事業（以下「確立対策事業」という。）を実施するためには、提携システム確立事業計画書（以下「確立事業計画書」という。）を作成し、財団法人大日本蚕糸会会頭の承認を受けることが必要とされています。また、この確立事業計画書には、確立対策事業を実施するグループ（以下「提携グループ」という。）の事業運営の基本となる事項について合意した内容を、当該提携グループの規約又は契約書（以下「規約等」という。）の形にし、確立事業計画書に添付することになっています。

このような確立事業計画書は、養蚕農家をはじめ提携グループの構成員全員が十分話し合い、合意の上で作成されたものでなければならないものであり、時間を要するものがありますが、この確立事業計画書の承認を受ける期間は平成 2 2 年度までとなっており、残すところ一年となっています。

このような状況を踏まえ、この度、確立対策事業の実施を希望する提携グループが、確立事業計画書を円滑に作成できるよう、これまでの関係者の意見を考慮しつつ、確立事業計画書作成の流れ、各項目の考え方、留意事項等を取りまとめましたので、参考にして下さい。

また、規約等に関しては、財団法人大日本蚕糸会蚕糸・絹業提携支援センター（以下「提携支援センター」という。）が作成した「コーディネート活動ハンドブック」のⅦに、その模範例が示されていますので、参考にして下さい。

なお、確立対策事業実施後 3 年度目を迎える提携グループは、2 年間の事業実施状況を踏まえて確立事業計画書（規約等を含む。）の見直しを実施することとなっていますが、その見直しを実施するに当たっての参考にもして下さい。

提携システム確立事業計画書の策定に当たっての各項目の考え方及び留意事項等について（目次）

I 繭代及び繭流通に関する合意の形成について

1 養蚕農家の再生産が可能となる繭代について（実施要領別記様式第1号別紙の3関係）

（1）確立対策事業以前における繭代補填方式の考え方（一般蚕品種の場合）

（2）確立対策事業における考え方

ア 一般蚕品種の場合

（ア）実施要領別記様式第1号別紙の3及び規約書等の「養蚕農家の再生産が可能となる繭代」の欄への「標準繭」の価格の記入及び欄外への以下の事項の明記

① 当該提携グループで定めた「標準繭」について、その繭質の種類及びその品質水準並びに生糸量歩合

㊦ 標準繭に求める繭質の指標

① 前記㊦で決めた繭質の品質水準

㊧ 生糸量歩合

② 繭品質格差金の考え方

（イ）記入する標準繭の価格水準

（ウ）標準繭に換算する具体的数値の算出方法

① 当該提携グループの養蚕農家の繭生産費を自ら調査する場合

② 自ら調査しない場合

（エ）品質による格差及び生糸量歩合にかかわらず定額とする場合

イ 特殊蚕品種の場合

（ア）実施要領別記様式第1号別紙の3及び規約書等の「養蚕農家の再生産が可能となる繭代」の欄への「標準繭」の価格の記入及び欄外への「標準繭」の品質基準及び格差金の考え方並びに「標準繭」の生糸量歩合の明記

（イ）「標準繭」の価格水準

（ウ）品質による格差及び生糸量歩合にかかわらず定額とする場合

2 繭の品質による格差金について

(1) 一般品種の場合

ア 生糸量歩合を反映させる方式（掛目方式）を採用する場合

A案： 解じょ率により繭格（5A～E）及び繭格ごとの格差掛目を決め、これに生糸量歩合を乗じて格差金とする。

B案： 高品質繭を確保する観点から、表2の格差を拡げる。

C案： 選除繭率により格差を決め、これを格差掛目に換算して生糸量歩合を乗じ、格差金とする。

D案： 確立対策事業の格差金（選除繭歩合と解じょ率の組合せ）の考え方に準じた格差金とする。

E案： 上記D案では格差が大きいということであれば、一定率を乗じて格差を縮小する。

F案： 提携グループで決めた繭の形質（解じょ率、選除繭率、繭糸織度等）の品質が一定以上であれば、その繭に定額の格差金を支払う。

イ 生糸量歩合を反映させない方式（定額方式）を採用する場合

G案： 一定以上の品質の繭に定額の格差金を支払う。

H案： 品質及び生糸量歩合に関係なく、定額の格差金を支払う。

(2) 特殊蚕品種の場合

(3) 製糸段階での選除繭歩合を繭代格差に反映する場合

(4) 生糸に加工しない繭の場合の繭の格差金の考え方

3 格差金以外の養蚕農家への支払いについて

4 繭流通経費に対する負担について

(1) 関係農協への集荷指導費

(2) 繭輸送経費

(3) 繭鑑定等の料金

5 繭代の支払い期日について

6 繭代の支払い方法について

II 蚕種代関係の考え方の決定について

III 製糸等の加工賃の考え方について

- 1 製糸の加工賃の考え方
- 2 製織・製編、撚糸、精練、染色等の加工賃の考え方

IV 繭の計画的な消費について

V 提携システムの生産物の所有関係の考え方の整理について

- 1 基本的考え方
- 2 副蚕糸（きびそ、びす、揚り繭、蛹等）の所有権について
- 3 製糸段階の選除繭の所有権について

（別記）一般蚕品種と特殊蚕品種の分類

I 繭代及び繭流通に関する合意の形成について

1 養蚕農家の再生産が可能となる繭代について(実施要領別記様式第1号別紙の3関係)

確立対策事業を実施するために決めなければならない事項の一つとされる「養蚕農家の再生産が可能となる繭代水準」については、次のように対応することが適切と考えられます。

(1) 確立対策事業以前における繭代補填方式の考え方

以前における繭代補填方式の考え方は、繭取引の慣行に立脚した次のようなものでした。

(国が繭代補填として支払っていた金額)

① 定額分：1, 418円（繭1kg当たり。消費税を含まない。以下、繭代については、特段の注記がなければ同様であり、省略する。）

（繭質及び生糸量歩合を問わない。）

② 繭質加減算分：繭質による格差金（選除繭歩合と解じょ率の組合せにより、-800円～+381円の格差を金額で提示。生糸量歩合を問わない。表1を参照）

表1

解じょ率 選除繭歩合	64%以下	65%以上 79%以下	80%以上 84%以下	85%以上
1.4%以上	-800円	-300円	-150円	0
0.4%以上 1.3%以上	-300円	0	0	0
0.3%以下	-150円	0	+302円	+381円

$$\text{解じょ率 (\%)} = \{ \text{繰糸粒数} \div (\text{繰糸粒数} + \text{落繭回数}) \} \times 100$$

（製糸業者、真綿業者等（以下「製糸業者等」という。）が自己負担分として支払っていた金額）

{ 定額分（100円）÷標準生糸量歩合（18.5%）+繭格による格差掛目（表2を参照）} ×当該繭の生糸量歩合

表 2

繭格	5A	4A	3A	2A	A	B	C	D	E
解じょ率	85% 以上	84~80	79~75	74~70	69~65	64~60	59~55	54~50	49以下
格差掛目	+500	+390	+280	+140	0	-140	-280	-440	-530

(注) 製糸が従来から使用している、解じょ率による格差掛目 (繭 1 kg 当たり。以下同じ。)

(用語説明)

- 掛目： 繭取引の慣行として使われるもので、生糸 1 kg を生産するのに必要な原料繭の代金を円単位の数値 (〇〇) で現し、これを〇〇掛と称する。この掛目に、その繭の生糸量歩合を乗じると、その繭 1 kg の繭代になる。また、1 kg の繭代をその繭の生糸量歩合で除すると掛目になる。

$$\text{掛目} \times \text{生糸量歩合} = \text{繭代}$$

$$\text{繭代} \div \text{生糸量歩合} = \text{掛目}$$

なお、通常、繭代 (1 kg 当たり) は、

$$\text{繭代} = (\text{標準掛目} + \text{格差掛目}) \times \text{生糸量歩合}$$

の算式で求められる。

- 標準掛目： 当該蚕品種の標準繭の掛目
- 標準繭： 当該蚕品種の標準的な品質の繭。一般蚕品種の場合は、現在、繭格 A (表 2 参照。解じょ率によりランク分けされており、格差掛目は 0) で、生糸量歩合 18.5% の繭を指す。
この標準繭の繭代を 1,518 円/kg とすれば、上記標準掛目は、
 $1,518 \text{ 円} \div 0.185 = 8,205 \text{ 掛}$ となる。
- 格差掛目： 繭質による格差金を生糸量歩合で除したものの。したがって、格差掛目に生糸歩合を乗じると品質格差分の繭代になる。
- 生糸量歩合： 当該繭から得られた生糸量を、当該繭全体の重量で除したものの。繭が重くても、蛹が重く繭層は薄かったり、解じょ率が低かったりすると、生糸量歩合は低くなり、繭代も安くなる。

(繭代試算例)

確立対策事業以前における繭代補填方式により

㉞ 選除繭歩合：0.3%

㉟ 解じょ率：84% (4A)

㊱ 生糸量歩合：19.23% (群馬県における一般蚕品種の繭の平均生糸量歩合・・・20, 21年産繭の平均)

の繭について、その繭代を試算すると、次のとおり算定されることとなる。

$$1,418 \text{円 (前記①定額分)} + 302 \text{円 (前記②繭質加減算分)} + \\ \{ (100 \text{円} \div 0.185 + 390 \text{掛}) \times 0.1923 \} \text{ (前記③製糸業者} \\ \text{自己負担分)} \div 1,899 \text{円/kg}$$

(2) 確立対策事業における考え方

確立対策事業以前における繭代補填方式の考え方を踏まえつつ、次のように整理することが適切と考えられます。なお、一般蚕品種と一般蚕品種以外品種（以下「特殊蚕品種」という。具体的な蚕品種がどれかであるかについては、別記「一般蚕品種と特殊蚕品種の分類」を参照）とでは、1粒当たりの繭の重さ、解じょ率、生糸量歩合等の繭質が異なるので、両者は分けて考えることが適切と考えられます。

ア 一般蚕品種の場合

(ア) 実施要領別記様式第1号別紙の3及び規約書等の「養蚕農家の再生産が可能となる繭代」の欄には、当該蚕品種の「標準繭」の価格を記入するとともに、欄外に、繭代算定方法の明確化のため、以下の事項を明記します。

① 当該提携グループで定めた「標準繭」について、その繭質の種類及びその品質水準並びに生糸量歩合

㉞ 標準繭に求める繭質の指標（解じょ率、選除繭歩合、繭糸繊度等の繭質のうち、当該提携グループが指標として採用した繭質の種類）

④ 前記㉞で決めた繭質の品質水準

- ・ 解じょ率：(例) 65%以上～69%以下
(上記(1)の③の表2のA格(格差0)の品質に相当)
- ・ 選除繭歩合：(例) 1%超～1.4%以下
(後記2の(1)のアのC案の表の格差0の品質に相当)
ただし、標準繭の繭質の指標には採用しない場合が多い。
- ・ 繭糸繊度： 細繊度品種で、特に繭糸繊度を標準繭に求めるのであれば、当該品種の標準的な繭糸繊度を参考に、例えば2.4d以上～2.6d以下を標準繭の繭糸繊度と定めることとなる。ただし、標準繭の繭質の指標には採用しない場合が多い。

㉞ 生糸量歩合

一般蚕品種の場合、通常18.5%

② 繭品質格差金の考え方

当該提携グループで決定した繭品質格差について、その指標とする繭質の種類及び格差の付け方の考え方並びに適用する具体的な格差金の額(後記2の「繭の品質による格差金について」を参照)

(イ) 記入する標準繭の価格水準は、繭を生産する上で最低限の生産コストである、家族労働報酬に物財費中の現金支出を加えた額を標準繭の場合に換算した金額とし(後記(ウ)の②の数値を用いるときは、家族労働報酬に、生産費中の物財費のうちの現金支出を加えた額(2,155円/kg)を標準繭に換算した2,010円/kg)となる。)、この額を下回らないこととします。

(ウ) 標準繭に換算する具体的数値の算出方法は、以下の方法によります。

① 当該提携グループの養蚕農家の繭生産費を自ら調査する場合は、当該調査で算出された家族労働報酬に物財費中の現金支出を加えた数値を基に、下記②の換算方法を参考に標準繭の場合に換算することとします。

② 自ら調査しない場合は、財団法人大日本蚕糸会(以下「本会」という。)が実施している先導養蚕農家の養蚕経営調査の数値を用いることができることとします。

⑦ 家族労働報酬に物財費のうちの現金支出を加えた額： 2, 155円/kg
・・・A

- ・ 家族労働報酬： 1, 034円/kg
- ・ 物財費のうち、現金支出： 1, 121円/kg

上記の数値は、本会が行った養蚕経営調査農家（これらの養蚕農家の年間収繭量は、平均で2トン弱の大規模養蚕経営農家）のうち、特殊蚕品種飼育農家及び桑病等発生農家を除く養蚕農家の平均値（繭1kg当たり、平成20年産及び21年産の平均）です。

⑧ 標準掛目： 10, 864掛・・・B

⑦のAの2, 155円と、調査対象農家の繭の平均品質から、標準繭の価格を算出するための基準となる平均標準掛目を算出すると、10, 864掛となる。

$(\text{標準掛目} + 478\text{掛}) \times 0.190 = 2, 155\text{円/kg}$

478掛：当該繭の繭質（解じょ率）による品質格差上乘せ分（格差掛目）

0.190：当該繭の生糸量歩合

⑨ 標準繭に換算した額： 2, 010円/kg・・・C

標準繭の品質として、解じょ率による繭格（前記（1）の③）を採用し、その繭格をA格（格差掛目0）及び生糸量歩合は18.5%とすれば、

$10, 864\text{掛} (B) \times 0.185 = \text{約} 2, 010\text{円/kg}$

(エ) 品質による格差及び生糸量歩合にかかわらず定額とする場合は、実勢を尊重し、標準繭の場合に換算しない数値（上記（ウ）の②の⑦のA：2, 155円/kg）を下回らないこととします。したがって、上記（ア）の①及び②については、記入する必要はありませんが、定額方式においては、繭質及び生糸量歩合が繭代に反映されない（繭の鑑定等をしないことも考えられます。）、養蚕農家での自主選繭の徹底等について、提携グループ内で十分話し合っておく必要があります。

イ 特殊蚕品種の場合

特殊蚕品種の繭は、消費者に評価される優れた特長を持つ絹織物になるなどの長所を持つ反面、一般蚕品種の繭に比べて、繭糸繊度が細く解じょ率が低い、繭が小さく蚕種1箱当たり収繭量が低い、繭層が薄く生糸量歩合が低い、飼育しにくいなど

の短所を持つことが少なくないので、特殊蚕品種の標準繭の価格、その品質、品質等による格差金等については、それらの特長や一般品種との違いを考慮して決める必要があります。したがって、次のように対応することが適切と考えられます。

(ア) 実施要領別記様式第1号別紙の3及び規約書等の「養蚕農家の再生産が可能となる繭代」の欄には、一般蚕品種の場合に準じて、当該蚕品種の「標準繭」の価格を記入するとともに、欄外に、繭代算定方法の明確化のため、この「標準繭」の品質基準及び格差金の考え方並びに「標準繭」の生糸量歩合（当該地域における当該蚕品種の平均的な水準の値）を明記します。

(イ) 「標準繭」の価格水準は、当該蚕品種固有の形質等（生糸や絹織物になった場合に現れる繭の特質、更には蚕の幼虫が持つ飼育に関する特性で、生糸量歩合、繭糸長、解じょ率、繭糸繊度、単繭重（箱当たり収繭量）、耐病性、眠の揃い等飼育の難度等を意味します。以下同じ。）を勘案して提携グループで協議し、関係者合意の上、決定することとします。ただし、決定に当たっては、次の式により求められる額、すなわち、繭代への影響の大きい、生糸量歩合及び箱当たり収繭量について、一般蚕品種と特殊蚕品種の形質の差を勘案して調整を行った額を下回らないこととします。

2, 010円

+ (プラス) 2, 010円 × {(当該地域における春嶺×鐘月又は錦秋×鐘和の過去2又は3年間の生糸量歩合の平均÷当該地域等における当該蚕品種の過去2又は3年間の生糸量歩合の平均) - 1}

+ (プラス) 2, 010円 × {(当該地域における春嶺×鐘月又は錦秋×鐘和の過去2又は3年間の箱当たり収繭量の平均÷当該地域等における当該蚕品種の過去2又は3年間の箱当たり収繭量の平均) - 1}・・・D

ただし、上式により算出された額が2, 010円/kgを下回る場合は、2, 010円/kgとすることとします。

(ウ) 品質による格差及び生糸量歩合にかかわらず定額とする場合は、当該蚕品種固有の特質、形質等を勘案して、「標準繭」の価格（上記（イ）のDの額）に上乘せする額を提携グループで協議し、関係者合意の上、決定することとします。なお、上記（ア）の品質基準及び格差金の考え方並びに標準繭の生糸量歩合については、記入する必要はありませんが、定額方式は繭質を繭代に反映しない

ので（繭の鑑定等をしないことも考えられます。）、農家での自主選繭の徹底等について、提携グループ内で十分話し合っておく必要があります。

2 繭の品質による格差金について

繭は、蚕品種の違いにより、蚕期により、養蚕農家により、さらには飼育期間の気象条件等により、その品質が変わってきますので、提携グループは、「標準繭」の価格の他に、繭の品質等に応じて加算又は減算する格差金を設けることが適切と考えられますが、その考え方は、提携グループが求める繭の品質により異なると思われますので、以下に考え方の例を示しました。これらを参考にして、特に提携グループで飼育している蚕品種固有の特質、形質等を勘案して、提携グループ内、特に養蚕農家、関係農協、関係製糸等と十分協議し、関係者合意の上、決定し、実施要領別記様式第1号別紙の3及び規約等の所定の場所に明記することとします。

(1) 一般品種の場合

ア 生糸量歩合を反映させる方式（掛目方式）を採用する場合

繭の価値の中で最も重要なことは、特殊な生糸の例を除けば、その繭からどれだけの生糸がとれるか（生糸量歩合）ですが、生糸量歩合を繭の価格に反映するには、格差金についても一度掛目に換算して（格差掛目）、その数値に生糸量歩合を乗じることになります。格差金のあり方については、様々な考え方があり得ますが、以下、その例を示します。それぞれのグループで十分検討の上、適切と考えられるものを採用して下さい。

なお、格差金に生糸量歩合を反映する方式を採用した場合には、標準繭の部分についても、同様に生糸量歩合を反映した繭代算定方式にすることとします。

A案： 解じょ率により繭格（5A～E）及び繭格ごとの格差掛目を決め、これに生糸量歩合を乗じて格差金とする。（製糸が従来から用いている方式で、繰糸能率、生糸品質の両面から、特に解じょの良さに注目して格差を設ける。）

表2（再掲）

繭格	5A	4A	3A	2A	A	B	C	D	E
解じょ率	85% 以上	84～80	79～75	74～70	69～65	64～60	59～55	54～50	49以下
格差掛目	+500	+390	+280	+140	0	-140	-280	-440	-530

（注）製糸が従来から使用している、解じょ率による格差掛目（繭1kg当たり。以下同じ。）

(繭代試算例)

標準繭の繭代：2,010 円

標準生糸量歩合：18.5%

繭格：5A (+500 掛)

検定生糸量歩合：19.23%

支払繭価：(2,010 円÷0.185+500 掛) ×0.1923≒2,185 円

B案：高品質繭を確保する観点から、表2の格差を拡げる。

例えば、格差を表2の2倍にすれば、5A格の繭の格差掛目は1,000掛となります。

(繭代試算例)

標準繭の繭代：2,010 円

標準生糸量歩合：18.5%

繭格：5A (+1000 掛)

検定生糸量歩合：19.23%

支払繭価：(2,010 円÷0.185+1,000 掛) ×0.1923≒2,282 円

C案：選除繭率により格差を決め、これを格差掛目に換算して生糸量歩合を乗じ、格差金とする。(農家における、これまで以上の徹底した選繭を奨励する観点から格差を設ける。)

参考例として、下表を示します。また、当該品種の地域の平均生糸量歩合が19.23%の場合の換算掛目への変換例(格差金を0.1923で除す。)も、合わせて下表に示します。

(表3)

選除繭率 格差	0.3%以下	0.3超～ 1%以下	1%超～ 1.4%以下	1.4%超～ 3%以下	3%超
格差金	+300 円	+150 円	0 円	-150 円	-300 円
上記の 掛目換算	+1,560 掛	+780 掛	0 掛	-780 掛	-1,560 掛

(注) 選除繭率による差を設けたものである。(ランクは例示であり、0.3%以下に、更に高いランクを設ける考え方もある。)

(繭代試算例)

標準繭の繭代：2,010 円

標準生糸量歩合：18.5%

選除繭歩合：0.2%+1560 掛)

検定生糸量歩合：19.23%

支払繭価：(2,010 円÷0.185+1,560 掛) ×0.1923≒2,389 円

D案： 確立対策事業の格差金（選除繭歩合と解じょ率の組合せ）の考え方に準じた格差金とする。（当該地域における当該品種の2又は3年間の平均生糸量歩合で格差金額を除して、格差掛目に変換）

(表4) (確立対策事業における格差金：金額による格差)

解じょ率 選除繭歩合	64%以下	65%以上 79%以下	80%以上 84%以下	85%以上
1.4%以上	-800 円	-300 円	-150 円	0
0.4%以上 1.3%以上	-300 円	0	0	0
0.3%以下	-150 円	0	+302 円	+381 円

また、当該品種の地域の平均生糸量歩合が19.23%の場合の格差掛目への変換例

(表4を0.1923除す。)を下記に示す。

(表5)

解じょ率 選除繭歩合	64%以下	65%以上 79%以下	80%以上 84%以下	85%以上
1.4%以上	-4,160 掛	-1,560 掛	-780 掛	0
0.4%以上 1.3%以上	-1,560 掛	0	0	0
0.3%以下	-780 掛	0	+1,570 掛	+1,981 掛

(繭代試算例)

標準繭の繭代：2,010 円

標準生糸量歩合：18.5%

解じょ率：84%、選除繭歩合：0.2%・・・+302 円=+1,570 掛

検定生糸量歩合：19.23%

支払繭価：(2010 円÷0.185+1,570 掛)×0.1923≒2,391 円

E案：上記D案では格差が大きいということであれば、一定率を乗じて格差を縮小する。

F案：提携グループで決めた繭の形質（解じょ率、選除繭率、繭糸織度等）の品質が一定以上であれば、その繭に定額の格差金を支払う。

定額の格差金を、当該地域における当該蚕品種の平均的な生糸量歩合（群馬県の例であれば、19.23%）で除して格差掛目に変換し、当該繭の生糸量歩合を乗じる。

ただし、定額の格差金は、他の格差金との均衡から、前記1の(2)のAの(ウ)のAの額から、同Cを減じた額（145 円）を下回らないこととする。また、格差の指標とする繭質（解じょ率、選除繭歩合、繭糸織度等）の種類及びその種類ごとの格差金を支払う品質水準並びに具体的な格差金の額を明記します。

(繭代試算例)

標準繭の繭代：2,010 円

標準生糸量歩合：18.5%

定額格差金の例：解じょ率 80%以上で、かつ、選除繭率 0.5%以下の繭に対して、300 円/kg 上乘せ

生糸量歩合：19.23%

支払繭価：(2010 円÷0.185+300÷0.1923)×0.1923≒2,389 円/kg

イ. 生糸量歩合を反映させない方式（定額方式）を採用する場合

掛目方式による方式は、算定が面倒であること等の理由から、生糸量歩合にかかわりなく定額にすることも考えられます。なお、格差金に生糸量歩合を反映しない定額方式を採用した場合には、標準繭の部分についても、同様に生糸量歩合を反映しない定額方式にすることとします。

G案：一定以上の品質の繭に定額の格差金を支払う。

定額の格差金は、他の格差金との均衡から、前記1の(2)のAの(ウ)Aの額から同Cを減じた額(145円)を下回らないこととします。

また、格差の指標となる繭質(解じょ率、選除繭歩合、繭糸織度等)の種類及びその種類ごとの格差金を支払う品質水準並びに具体的な格差金の額を明記します。

(繭代試算例)

標準繭の繭代：2,010円

定額格差金の例：解じょ率80%以上で、かつ、選除繭率0.5%以下の繭に対して、300円/kg上乗せ

支払繭価：2010円+300円=2,310円/kg

H案 品質及び生糸量歩合に関係なく、定額の格差金を支払う。

定額の格差金は、上記1の(2)のAの(ウ)Aの額から同Cを減じた額(145円)を下回らないこととします。なお、この案では、繭の鑑定等をしていない場合が一般的ですが、繭の品質を確認する意味で、適時、繭の鑑定等を実施することを推奨します。

また、具体的な格差金の額を規約等に明記することとしますが、蚕期ごとに異なることとするか、蚕期にかかわらず同額とするかについては、提携グループ内で十分話し合って決めて下さい。

(試算例)

標準繭の繭代：2,010円

定額格差金の例：300円/kg上乗せ

支払繭価：2010円+300円=2,310円/kg

(2) 特殊蚕品種の場合

特殊品種は、前記1の(2)のイで述べましたように、一般蚕品種に比べ、品種固有の形質が劣っている場合(生糸量歩合が低い、解じょ率が低い、単繭重が軽い、箱当たり収繭量が低い、発育が不揃いで飼育しにくい等)が多い傾向にあります。また、細織度品種が多く、繭糸織度による格差(減額を含む。)を設けることが、目的とする繭糸織度の繭を得る上で、有力なインセンティブとなります。これらの事情を考慮し、前記(1)の一般蚕品種の格差の考え方に準じて、提携グループ内で

十分協議し、品質格差の考え方を決定することが適切と考えられます。

(3) 製糸段階での選除繭歩合を繭代格差に反映する場合

提携グループが必要とする生糸になる繭は、高品質な生糸を生産する等の目的で、製糸段階でもう一段階厳しい選繭をした繭であり、消費者に評価される絹製品を製作していく考え方を養蚕農家段階から共有していくために、製糸工場に入荷する際に行う生繭段階での選除繭歩合を繭代格差に反映する方法も考えられます。

この考え方を導入する場合は、その際に行う繭の選除の基準（選除繭の種類、繭選別機・装置の機種及び荷口単位（養蚕農家ごと、集落ごと、農協ごと、市町村ごと、県全体、グループ全体等。以下同じ。）、更に必要があれば、繭選別機・装置の光源の種類、光度等）並びに選除繭歩合による格差のランク分け及びランク別の格差金について、提携グループ内（特に、養蚕農家、関係農協及び製糸業者）で十分協議し、合意の上、実施する必要があります。合意の内容は、規約等に明記することとします。

また、格差金を決めるに当たっては、既に繭の鑑定等が行われていることを考慮し、格差金を0円とする標準的な選除繭歩合の幅を大きくするとともに、マイナス格差は小さくし、プラス格差に重点を置く配慮が必要です。

なお、生糸に加工しない場合（真綿、シルクパウダー等への加工）も、上記の考え方に準じた対応を行うこととします。

(4) 生糸に加工しない繭の場合の繭の格差金の考え方

生糸に加工しない繭（繭クラフト原料、真綿原料、シルクパウダー原料等）の繭の格差金の考え方については、繭の利用の仕方により多様であり、一般的には、定額とする場合が多いと考えられますが、繭の利用の仕方により、適切な評価方法、その評価法に基づくランク分けとランク別の具体的な格差金等について、提携グループ内で協議し、合意の上、実施する必要があります。また、合意の内容は、規約等に明記することとします。

3 格差金以外の養蚕農家への支払いについて

繭生産安定奨励金、特殊品種の場合の掛り増し経費への補填金（箱当たり収繭量の低い蚕品種に対する配慮：一般蚕品種に比べ掃立箱数が増えることに伴う、蚕種代の補填や箱当たりで決まっている稚蚕飼育料への補填等）、飼育不揃いによる飼育作業増加に対する補填金、全齢桑育に対する掛り増し経費への補填金等、養蚕農家に対する繭代以外の支払いについては、提携グループ内で十分協議して、合意の上、決定し、その内容（考え方、具体的金額等）を規約等に明記することとします。

4 繭流通経費に対する負担について

繭流通経費に関するこれまでの慣行は、養蚕農家と製糸業者等の中で協議し、両者が応分の負担をしてきましたが、提携グループにおいては、原則として、グループ全体で負担することが適切と考えられますので、下記に関する事項については、いずれも、提携グループ内（特に、養蚕農家、関係農協及び製糸業者等）で協議して決定し、その内容（考え方、具体的金額等）を規約等に明記することとします。

（１）関係農協への集荷指導費

原則として、提携グループの負担とし、関係農協等と協議の上、決定することとします。

（２）繭輸送経費

原則として、60 円/kgまでは養蚕農家の負担とし、60 円/kgを越える額は、提携グループの負担とすることとします。

（３）繭鑑定等の料金

原則として、提携グループの負担とします。なお、繭鑑定等の荷口単位についても、提携グループ内で協議して、あらかじめ決めておく必要があり、個別養蚕農家別の場合は、一部農家負担も考えられます。

5 繭代の支払い期日について

繭鑑定等の結果に基づき、春繭については原則として8月10日までに、初秋繭については、原則として10月20日までに、晩秋繭については原則として12月10日までに支払うものとし、その旨を規約等に明記することとします。

6 繭代の支払い方法について

提携グループから養蚕農家への繭代の支払い方法については、以下の方法を参考に、提携グループ内（特に、養蚕農家、関係農協、製糸業者等）で協議して決定し、規約等に明記することとします。

なお、下記③及び④の方法については、上記5の期日までに、製糸業者等が養蚕農家へ繭代を支払わなければならないことから、その期日以前までに、製糸業者等は提携グループに当該繭を加工した生糸等を納品し、当該繭代を含む生糸等の代金の支払いを受けるか又は提携グループから当該繭代を含む生糸等の代金を前払いしてもらう必要がありますので、③及び④の方法をとる場合は、このことが可能であるか否か十分留意する必要があります。

-
-
- ① 農協を経由して農家に支払う。
 - ② 製糸業者等を通じて、農協を経由して農家に支払う。
 - ③ 生糸等の代金に含めて、製糸業者等に支払い、製糸業者等が農協経由で農家に支払う。
 - ④ 製糸業者等が自らの負担で、繭代を農協を経由して農家に支払い、その繭代を含めた生糸等の代金を製糸に支払う。
 - ⑤ ②と④を組み合わせて支払う。

II 蚕種代関係の考え方の決定について

提携グループには極力蚕種関係者が加わり、各々の提携グループが、蚕種製造業者、関係農協、特に蚕種代を支払うこととなる養蚕農家と十分協議し、一般蚕種又は特殊蚕種の蚕種代を決めることが適切と考えられます。決定した蚕種代は、規約等に明記することとします。

また、蚕種代の支払いは、養蚕農家が関係農協を通じて支払うのが一般的ですが、提携グループ（提携グループの責任者）が関係農協を通じて又は直接蚕種製造業者に一括して支払うケースもあり、いずれにするかは提携グループ内で協議して決定することとします。

なお、決定した蚕種代が高額になる場合、養蚕農家が支払う蚕種代の一部を、提携グループで負担することが考えられます。

III 製糸等の加工賃の考え方について

1 製糸の加工賃の考え方

蚕品種（繭）の形質（解じょが悪い、繭層が薄く繰糸しにくい等）、繰糸方法、求められる品質、生産コスト等を考慮し、当該絹製品の製作活動に入る以前に、提携グループ内で協議して決定することとします。この加工賃は、極力規約等に明記することとし、一方、求められる生糸の品質（節、織度偏差、抱合等）についても、製糸と生糸需要者（製織、製編、撚糸、染色等関係者及び提携グループの責任者）が十分協議し、具体的水準を決めて書面として残しておくことが望ましいと考えられます。更には、必要に応じて生糸需要者が重視する品質について、製糸又は第三者による生糸検査を行う等決められた品質水準を点検する体制を構築しておく必要があります。

2 製織・製編、撚糸、精練、染色等の加工賃の考え方

織（編）物、組ひも等の加工賃については、その加工の特殊性、求められる品質、生産コスト等を考慮し、当該絹製品の製作活動に入る以前に提携グループ内で協議し

て決定することとします。この加工賃は、規約等に明記することが望ましいと考えられます。また撚糸、精練、染色等の加工賃についても同様な考慮を行い、提携グループ内で協議して事前に決定しておくことが望ましいと考えられます。

また、生糸に加工しない場合（真綿、紬糸、シルクパウダー等への加工）の加工賃の考え方については、加工の仕方により多様であり、その加工の特殊性、求められる品質、生産コスト等を考慮し、当該絹製品の製作活動に入る以前に提携グループ内で協議して決定することとします。この加工賃は、規約等に明記することとします。

IV 繭の計画的な消費について

確立対策事業における提携グループへの交付金は、当該提携グループが消費する繭の量によって決められていることから、当該繭を確実に消費する（計画に沿って、生糸、真綿、シルクパウダー等に加工する、シルク工房等や繭クラフト用に繭で販売する等）必要があり、事業年度内（3月末）までに、当該繭を生糸等に加工することが原則ですが、製糸工場等における操業の安定等を勘案し、止むを得ない場合でも、翌年の春繭の支払いまでには、当該繭の全量を生糸等に加工するなど、計画的に消費しなければならないこととします。なお、2月末時点の繭の消費状況及び残余の繭の消費計画（いずれも蚕品種別）について、3月末までに提携支援センターに報告するものとします。

V 提携システムの生産物の所有関係の考え方の整理について

1 基本的考え方

提携グループは、その構成員から独立した別の存在で、交付金の交付対象ともなっているものですので、例えば提携グループから養蚕農家に対し繭代金が支払われれば、繭は提携グループのものとなります。それ以降の過程においても、各構成員はモノの所有権は持たず（提携グループが所有したまま）、自ら行う工程の請負作業料金として提携グループから支払いを受け、当該工程を完了させることとなります。（例えば、製糸業者は、製糸加工賃を得て繰糸する、機業者は、製織賃を得て製織する等）

ただし、繭を製糸業者等が責任をもって買入れ、繰糸等を行った後、提携グループに販売するという形態も、提携グループ内の合意が成立すればあり得ることです。その場合には、提携グループは、繭代プラス製糸等加工賃を製糸業者等に支払うこととなります。

最終製品も提携グループのものであり、その販売は、原則として提携グループの名において行われることとなりますが（その実質的責任者は提携グループの代表者）、これまでのブランド等の関係もあることから、その方法については、提携グループ内で協議して決定することとします。

2 副蚕糸（きびそ、びす、揚り繭、蛹等）の所有権について

副蚕糸は、上記1の考え方によれば提携グループの所有物ですが、その処分は製糸業者等が行うことが適切ですので、原則として、製糸等工程終了後所有権を製糸業者等に移転することとともに、その代金相当額と処理費用の取扱いについては、あらかじめ提携グループ内で協議し、製糸業者等との間で合意しておかなければなりません。これらの合意内容は、規約等に明記することとします。

3 製糸段階の選除繭の所有権について

製糸段階の選除繭についても、基本的に上記2と同様の考え方とします。ただし、あらかじめ選除の基準及び選除繭の代金根拠を決定しておくこととし、その内容を規約等に明記することとします。

また、生糸に加工しない場合（真綿、シルクパウダー等への加工）においても、上記の製糸段階の選除繭の場合と同様とします。

（この選除繭は、すでに交付金の対象となった繭から選除したものであり、この選除繭を当該提携グループ以外に処分（売却等）する場合は、事前に提携支援センターと協議し、了解を得てから行わなければなりません。したがって、あらかじめ製糸等段階の選除繭を売却するのか、利用するのかについて、確立事業計画書に明示しておくことが望ましいと考えられます。

なお、この選除繭は、養蚕農家が特定されているので、この選除繭を使った絹製品は、純国産絹マークの対象になります。）

4 製糸業者等の役割について

以上述べたことは、生産物の所有関係について整理したものであり、従来から製糸業者が果たしてきた繭生産に対する助言、指導等の役割を否定するものではありません。提携グループの構成員が、よりよい絹製品づくりに向けて、それぞれの役割を果たしていくのは当然のことです。

(別記) 一般蚕品種と特殊蚕品種の分類

1 定義

- (1) 一般蚕品種： 春嶺×鐘月及び錦秋×鐘和と繭質（解じょ、繭糸繊度、繭糸長等）や生糸量歩合がほぼ同程度の蚕
- (2) 特殊蚕品種： 一般蚕品種とは異なる特性を有している蚕（在来品種（明治時代に飼育されていた蚕）及び在来品種を現代化した品種（在来品種に、現代の優れた原種を交雑して、生糸量歩合等を向上させた蚕）を含む。）

2 具体例

(1) 一般蚕品種

繭糸繊度(2.8~3.0d)： 春嶺×鐘月、錦秋×鐘和、ぐんま 200、朝日×東海、芙蓉×つくばね等

(2) 特殊蚕品種

- ① 繭糸が太い(4.0d程度)：蚕太等
- ② 繭糸が中細(2.5d程度)：世紀二一、松岡姫、蚕技研11号等
- ③ 繭糸が細い(2.2d程度)：あけぼの、かいりょう×あけぼの、白繭細1号、白繭細2号等
- ④ 繭糸が極細(1.6d程度)：はくぎん、極細1号等
- ⑤ レモン色した繭：いろどり、緑繭1号、新青白等
- ⑥ 黄色い繭：ぐんま黄金、鐘光×黄玉、黄白（雌が黄繭、雄が白繭）等
- ⑦ 雄のみの飼育目的：プラチナボーイ
- ⑧ 玉繭を多くつくる品種：玉小石等

(在来品種)

明治時代： 小石丸、又昔、赤熟、青熟、鬼縮等

大正時代： 分離白1号×支106号等

(在来種を現代化した品種)

新小石丸、上州絹星、改良小石丸、青熟×支21号、種ガ島×支21号、鬼縮×C5、世界一×中515号等

「良いものづくり」に向けて

平成22年5月24日

財団法人大日本糸会蚕糸・絹業提携支援センター

蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業（以下「緊急対策事業」という。）に参加する蚕糸・絹業提携グループ（以下「提携グループ」という。）の場合、輸入生糸に比べて数倍も高い国産生糸を原糸に用いることになることから、上代設定が高くならざるを得ず、このような純国産絹製品が消費者に評価されるためには、改めて言うまでもありませんが、その基本的条件として「良いものづくり」～繭から純国産絹製品に至るまでの一貫した品質の維持確保～が必要不可欠となります。

一方、品質にかかる問題は残念ながらすべて解決したとは言えない状況にあるのが実態です。

このため、蚕糸・絹業提携支援センターとしては、緊急対策事業による提携グループ構築の最終年となる平成22年度を迎え、「良いものづくり」のために励行すべきことを、繭及び生糸を中心に、別紙「良いものづくり」基準としてとりまとめました。その内容の多くは、基本技術にかかわることで、これまでも指摘されてきたことですが、各提携グループにおいては、この際、メンバーに対する一層の周知と実行の徹底方をお願いします。

別紙

「良いものづくり」基準

消費者に評価される純国産絹製品を製作するには、例えば絹織物の場合であれば、蚕品種の特性（繭糸織度が細い、セリシン含有が多い等）を活かした織物や、染むら、織むら等の欠点の出ない品質の高い織物を織らなければなりません。

そのためには、蚕品種の特長を活かした生糸や、節・織度偏差・糸むら等の欠点の少ない生糸が求められ、そのような生糸を生産するには、繭糸織度が細い等蚕品種固有の形質を正しく発現している繭や、解じょ等の繭質が良い繭を生産するとともに、生糸品質を落とす、薄皮繭、汚染繭等の選除繭を確実に除いた繭を出荷しなければなりません。

以上のように、消費者に求められる良いものづくりは、養蚕、製糸、撚糸、製織、精練、染色・整理等、絹製品製作までの各段階それぞれが必要な対応をしていかなければなりません。特に原料となる繭と、原糸となる生糸が出発点であり、重要なポイントとなることから、養蚕農家及び製糸段階における良いものづくりに必要な留意事項とそれらへの対応並びにその具体的な品質等の目標を示すこととしました。

I 養蚕農家段階

1 基本技術の励行

「良い繭は丈夫な蚕が良い上蔭環境の中で作り、丈夫な蚕は良い飼育環境の中で良い桑を食べて育ち、良い桑は良い土からできる。」が養蚕の基本であります。この実行は、高品質繭＝単価の高い繭の増収、すなわち、養蚕所得の増加に直結することはもちろんですが、最も重要なことは、高品質な繭の安定生産により、高品質な生糸・絹織物・絹製品の安定生産が可能となり、その結果として、消費者に高額で買ってもらえる商品として消費が増大し、当該提携グループの経営が順調に推移することとなり、ひいては、再生産可能な繭代が、安定、かつ、増額する方向となって養蚕農家自身に戻ってくることになるということです。

そのためには、以下の基本技術を着実に実行していく必要があります。

(1) 栽桑関係

- ① 土壌の種類に応じた土壌改良（桑園は、黒ボク土、褐色森林度、赤色度、黄色度等が多い。）・・・良質な桑の安定生産

ア わら類、堆きゅう肥、緑肥等の有機物の施用
イ 石灰質資材、有機質等の施用による酸性土壌の改良
ウ 深耕、リン酸資材等による下層土の物理性・化学性の改良

- ② 適切な施肥等・・・良質な桑の増収による、高品質な繭の安定生産

ア 桑園の形態別（春・秋用、夏・秋専用、密植等）に、桑の生育過程（消耗期、展開期、同化期、貯蔵期）に応じた施肥
イ 適期（春肥、夏肥、追肥、冬肥）に、適切な成分比率（窒素、リン酸、カリ等）のものを、土壌類型別（火山性、非火山性、沖積土、崩積性等）の標準施肥量を参考にして適量を、適切な施し方（全面散布施肥・ロータリ耕、溝施肥・覆土、表面施肥、土中施肥等）で散布
ウ 老朽桑園の改植

- ③ 気象災害（凍霜害、干害、風水害、雪害等）及び桑病虫害への迅速、かつ、適切な対応・・・桑の確保による、繭の安定生産

ア 気象情報の早期入手と、迅速な対応（防霜、桑園の深耕や有機物の施用、散水、枝の結束、融雪促進等）
イ 桑病（クワ萎縮病、クワ胴枯病、クワ芽枯病等）・害虫（クワシントメタマバエ、クワノメイガ、アメリカシロヒトリ、キボシカミキリ等）の種類に応じた、適切な農薬等による適期防除及び耐病性桑品種への改植

(2) 育蚕関係（稚蚕関係を除く。）

- ① 給桑・・・基本中の基本で、繭の量・質すべてに影響

5 齢期は、全食桑量の 88% を食べるので、適切な量（1 箱/2 万頭当たりの給桑量は、葉量で約 400 kg）を給桑することが重要です。給桑過多は不経済であり、蚕座ムレを起こす原因になります。一方、最食期の給桑不足は、繭が小さく、繭層が薄くなる等、繭品質の低下

に直結するので注意を要します。

また、提携グループで決めた蚕品種の持つ形質（細繭糸織度等）がきちっと発現するような飼育をすることが重要です。特に細繭糸織度の蚕品種への給桑過多は、収繭量は増えても太織度繭糸になってしまい、原料繭として不適切であるので、繭単価の減額につながるばかりでなく、提携グループが目指す高品質な絹製品製作を困難にします。

② 飼育温湿度管理（高温・多湿を避ける。通風を良くする。）

・・・丈夫な蚕の安定生産

4 齢：低温に弱い。23℃～26℃が適温。21℃以下は繭重が軽くなり、不作につながり易いので、保温が必要です。

5 齢：高温に弱い。21℃～25℃が適温。19℃以下は保温、30℃以上は防暑が必要です。また、乾燥した環境と微風に心がけることが重要です。

③ 蚕病予防（次亜塩素酸ナトリウムによる蚕室洗浄、作業移動導線を中心に消石灰上澄み液の散布）

・・・高品質な繭の安定生産

4 齢期は5 齢期に比べ、病原抵抗性が著しく低いので、稚蚕に準じた清潔な飼育が必要です。

特に4 齢期の核多角体（膿病）ウイルス感染は、5 齢期の発病から2, 3 次感染により、簇中死蚕や繭中死蚕の原因になり、違作になるばかりではなく、内部汚染繭の多発につながり、繭品質低下の主要因になりますので、特に注意が必要です。

④ 発育経過の調整・・・上簇改善につながり、高品質繭の安定生産

上簇や収繭作業の労働ピークを平準化するためには、4, 5 齢の飼育温度と、5 齢起蚕での桑付けによる飼育経過の調整を行い、早口、遅口に意図的に分ける必要があります。

(3) 上蔭関係

① 上蔭適期の熟蚕の収集・・・高品質繭の安定生産

蚕の経過を揃えておくこと、除沙をしておくこと、温度管理（22～28℃・・・外温の低い春蚕期・晩秋蚕期には、初熟蚕を見たら補温）及び明るさの調整（20ルクス程度のやや暗い環境）が重要です。

② 蔭中保護・・・特に高品質繭の安定生産の中心的技術

繭品質の良否は、上蔭後の3～4日間で決まるので、極めて重要な作業工程であり、細心の注意が必要です。（夏蚕及び初秋蚕は、解じょ率が悪くなり易いので（解じょ率が悪くなると生糸量歩合も低下）、特に注意を要します。）

温度管理・・・上蔭後吐糸終了まで（3～4日）：22℃～23℃
その後収繭まで：23℃～24℃

湿度管理・・・70%以下を目標（1箱/2万頭の熟蚕は、吐糸、尿、糞、呼吸で43.9ℓもの水分を出します。熟蚕の排尿は上蔭1日以内に終えるので、早く除去します。）

換気・・・特に解じょ率改善に効果が大きく、換気扇等による換気、温風暖房機の送風ダクトを利用した室内及び蔭間への送風（秒速0.3～0.5m）等を行う必要があります。

(4) 収繭・選繭関係・・・特に高品質繭の安定生産への最終関門であり、除繭率に直接反映（繭価格に大きく影響）

① 収繭

収繭作業は早目になりがちですが、早期収繭は蛹の皮膚が破れて出血し、生糸の品質に最も影響する内部汚染繭の原因になります。春蚕・晩秋蚕は上蔭後7～8日、初秋蚕は6～7日後を目安に、数粒の繭を切開し、化蛹状況を確認してから収繭することが重要です。

繭毛羽は、生糸繰糸の際に絡みついて、繭詰まり等の大トラブルの

原因になりますので、丁寧に除去する必要があります。

② 選繭

選繭の良否は、繭品質評価の成績に影響し、繭代に直接、かつ、大きくひびくものであり、養蚕作業の最終段階でこれまでの苦労をふいにしないよう、不良繭を丁寧に選除することが極めて重要です。

特に内部汚染繭の発生は生糸の品質を著しく低下させ、絹織物の欠点の主要因になっているので、特段の注意が必要です。下部から光線をあてて選繭をする選繭台を導入している地域では、内部汚染繭の除去に大きな成果を挙げており、個別農家ごとに導入することを推薦します。（大日本蚕糸会の事業で助成しています。）

③ 繭輸送

繭袋の積重ね、詰め過ぎ等は繭をつぶし、解じょ率の低下と節発生の原因となるので、厳に回避

2 養蚕技術目標

- ① 使用桑園10アール当たり収繭量：70kg
- ② 解じょ率：一般蚕品種の場合85%以上
- ③ 選除繭歩合：0.3%以下
- ④ 細織度品種の繭糸織度：蚕品種固有の平均繭糸織度を0.3デニールを超えて上回らない。

II 製糸段階

繭生産量の大幅な減少に伴い、原料繭事情は、原料繭の小荷口化・広域化、ブランド蚕品種の急増、多様な繭糸織度の繭の増加（極細～細織度～普通織度～太織度）、生挽き、塩蔵保存等繰糸方法や繭保存法の多様化といった、高品質生糸を製造する上では厳しい状況にあり、製糸関係者は、生産体制、生産管理等を頻繁に切り替えて対応する中で、品質の維持に努めている状況にあります。

しかし、このような厳しい状況下ではありますが、輸入生糸・絹撚糸に比べてかなり高額になる国産生糸に対しては、国産生糸の需要者の中心である製織関係者、さらには染漬問屋関係者等からは、これまで以上に生糸

品質への要求は強いものがあり、また、提携グループが純国産絹製品を高品質な絹製品として消費者にアピールしていく上でも、極めて重要な事項となっています。製糸関係者は提携グループの一員として、それらの要求に対して、迅速、かつ、適切に対応していく必要があります。

1 製糸関係者としては、日常的に対応していることですが、改めて生糸需要者の中心である製織関係者等が望む生糸品質と、それに対する製糸側の対応及び製糸側の対応に大きな影響を及ぼす繭品質と養蚕側の対応について整理をしてみると、下表のようになります。

製織側が望む生糸品質の条件	製糸側の対応	製糸側が望む繭の条件	養蚕側の対応
① 節がない。 ② 汚れ糸がない。	① 繭の乾燥・煮繭管理 ② 製糸での選繭の強化 ③ 集緒器管理 ④ つなぎ節防止 ⑤ 繭保管中のカビ防止	① 解じょがよい。 ② 不良繭がない。特に死籠繭等の内部汚染繭がない。	① 蚕病、特に膿病の防止 ② 上蔟環境の整備、上蔟時期の揃い（出殻防止） ③ 選繭の徹底 選除繭混入による節成績の低下は顕著である。異常繭はすべて節発生の原因となる。特に、うきしわ繭は大わ節、薄皮繭は小ずる節の原因になっており、このほか破風抜け繭、外部・内部汚染繭等は節多発の原因となっている。 また、ビショ繭は良繭まで汚染し、汚れ繭は汚れ糸や染色むら発生の、玉繭は大ずる節発生のそれぞれ原因となっている。 ④ 繭袋の積重ね、詰め過ぎ等で繭を潰さない。（解じょ 低下と節発生の原因） ⑤ 丁寧な毛羽取り（繭毛羽による絡みつきが繭詰まり等大トラブルの原因になる。） ⑥ 小節、ラウジネス等が多い蚕品種の場合は、蚕品種の変更。

③ 織度が均一で、織度偏差が良い。	① 繰糸管理 ② 機械管理	① 繭の粒が揃っている。 ② 解じょが良い。 ③ 繭糸織度は細めが良い。 ④ 繭糸長は長めが良い。	① 蚕を大きくしすぎないような給桑管理（織度が太くなる） ② 上記②及び③に同じ。
④ 糸が切れない。 ⑤ 分織がない。抱合が良い。	① 織度管理 ② 揚返管理 ③ 節の除去 ④ 結び目で抜けない。 ⑤ 細ムラ防止 ① 繭の煮繭管理 ② 適切なケンネルの長さの確保	① 解じょが良い。 ② 不良繭がない。 ③ 大中節成績が良い。	① 選繭の徹底

全体に共通する製糸側の課題として、原料繭の減少に伴う、解じょ不良繭（初秋繭に多い。）との混練の問題がある。

2 技術目標

織物の種類（先染、後染、撚糸の種類、精練の仕方等）により、求められる生糸の品質は異なりますが、製織関係者等からの平均的な要望をまとめますと、以下のようになります。

- ① 生糸検査による格付：4 A以上
- ② うち、節点：5 A以上（特に大、中節に留意）
- ③ うち、織度偏差：5 A以上
- ④ 汚れがない、切れない、分織しない、抱合が良い。

Ⅲ コーディネーターの役割

良いもの作りに向けて、養蚕農家、製糸業者、織物業者等の連携を深め、提携グループは何を目標にしているのかを十分に説明し、提携グループの構成員全員が目標に向けて視線を同じくして進むようにすることが、コーディネーターの最も重要な役割です。

このため、構成員間の連絡調整には十分意を配することが重要であり、特に以下の点に留意をする必要があります。

- ① 農協は、稚蚕飼育、集繭、技術指導・情報提供（特に繭品質、気象災害・桑病害虫、蚕病への対応等）等の中心的役割を担っており、また、蚕種製造業者は、多様な蚕種の製造への対応はもとより、催青や桑の生育に応じた適期掃立への対応等、養蚕開始前の重要な役割を果たしますので、極力、提携グループの構成員に加わるよう配慮してください。構成員になっていない場合にあっても、両者とは常に密接な連携を図る必要があります。
- ② 製糸業者等からの繭品質への要望を、農家・農協に十分伝えるとともに、関係者を集めて具体的な対策を講じてください。
- ③ 製織業者等からの生糸品質への要望を、製糸業者に十分伝えるとともに、養蚕農家・農協を含めて関係者を集め、具体的な対策を講じてください。
- ④ 消費者からの要望を、構成員全員に伝えるとともに、少なくとも年 1 回は全員が集まる会合を持ち、提携グループの運営、良いものづくりへの対応等についての十分な話し合いを通じて、課題等の確認と合意を行い、提携グループの意思統一を図ってください。

緊急対策事業実施上の検討課題への対応(Q&A)

平成22年5月24日

財団法人大日本糸会蚕糸・絹業提携支援センター

(Q22-1)

養蚕農家と製糸だけの提携グループは、蚕糸・絹業提携システム確立対策事業（以下「確立事業」という。）の対象になるのか。

(A) 再生産可能な繭代を継続して安定的に払っていける提携システム確立事業計画書（以下「全体事業計画書」という。）が策定できるのであれば認められる場合もあるが、実行可能性について十分精査することになる。

- 生糸が最終絹製品となっても、再生産可能な繭代が払える全体事業計画書ができるのを精査することになる。すなわち、交付金が無くなっても、グループの責任者たる製糸が、再生産可能な繭代を継続的に払っていけるような価格で生糸（太織度低張力生糸（ふい絹）、ハイブリッドシルク等の新形質生糸、扁平光沢生糸等の特殊加工生糸等のシルク新素材を含む。）を販売できることが、承認の基本的な条件となる。
- 全体事業計画書に、製糸が、撚糸や白生地等の製品を生産し、販売（委託を含む。）する計画や、繭クラフトグループやシルク工房等に繭で販売する計画を含むことも考えられる。
- 生糸での販売を担保する意味で、グループに糸商が加わることが望ましい。

(Q22-2)

確立事業では、繭や生糸での販売は認められるか。

(A) 繭・生糸での販売が提携グループの活動に必要なものであり、繭・生糸での販売を含む事業活動により、規約に基づく繭代等を、安定的かつ長期的に支払えるのであれば認められる場合もあるが、十分精査することになる。

繭・生糸での販売に限らず、確立事業で行う事業は、全て全体事業計画書に含まれており、かつ、毎年度の蚕糸・絹業提携システム確立事業実施計画（以下「年度別計画」という。）の承認及び助成金の交付決定を受けた

ものでなければならない。したがって、繭や生糸での販売（確立事業の実施）に当たっては、まず全体事業計画書として承認されている必要があり、次に事業実施当該年度に年度別計画の承認申請及び助成金の交付申請を行い、その承認及び交付決定を受けた上で実施することになる。

全体事業計画書に記載はあるが、当該年度に行う予定の事業として交付申請していない場合は、蚕糸・絹業提携支援センター（以下「提携支援センター」という。）に事前に連絡の上、その後に変更交付申請をし、変更交付決定を受けなければならない。

全体事業計画書に無い場合は、提携支援センターに事前に連絡の上、繭・生糸の販売を含む全体事業計画書の変更承認申請を行い、その承認後に年度別計画の変更交付申請をし、その変更交付決定を受けなければならない。

なお、計画の変更に急を要する場合にあっては、その様な事態に対応する手続き方法があるので、詳細については、「蚕糸・絹業提携システム確立対策事業（提携システム確立のための支援）における繭の過不足に対する運用規則（平成21年1月21日付け平20蚕提携第67号財団法人大日本蚕糸会会頭通知）」を参考にされたい。

(Q22-3)

輸入生糸との交織を前提とした絹製品を生産・販売する提携グループは、確立事業の対象として認められるか。

(A) 確立事業の実施要綱の趣旨（第1趣旨：「本対策において・・・高品質な純国産絹製品づくりを通じて、蚕糸業の再生と持続的発展を図ることとする。」）から見て、認められない。

(Q22-4)

日本で生産されていない野蚕生糸（柞蚕、ムガ蚕等）、綿、羊毛、麻等の絹を除く天然繊維及び再生繊維、合成繊維等の化学繊維を用いた、国産家蚕生糸とのハイブリッド生糸を使用する絹製品（交織を含む。）を生産・販売する提携グループは、確立事業の対象として認められるか。また、純国産絹マークの対象になるか。

(A) ハイブリッド生糸の家蚕生糸使用部分が、全て国産繭を使用した純国産生糸であれば、原則として、確立事業の対象になるが、原糸組成等を明確に表示しなければならない。（家蚕生糸部分に、輸入生糸が使用されている場合には、その量にかかわらず認められない。）

なお、家蚕生糸使用部分は、原則として、50%以上であることとするが、当該絹製品の基本的コンセプトを満たすためには50%以上にはできない合理的な理由がある場合（ホールガーメント使用やパンスト等製造方法や製品の機能からの観点、健康機能保持等できる製品が目的とする機能を発揮できるようにする観点等から、特殊な織（編）物の生産に適する原糸にする必要がある場合）には、例外としてみとめる。

また、国産の野蚕生糸とのハイブリッド糸を使用した絹製品（交織を含む。）以外は、現状では純国産絹マークの対象とはならない。なお、このような純国産絹製品にも、色違い等の違いを付けた純国産マーク等を制定すべきとの意見もあり、その可否について今後検討する予定である。

(Q22-5)

蚕期を限定した繭で確立事業を実施中の提携グループが、同じ養蚕農家の他蚕期の繭を対象にもう一つの新しい提携グループを形成し、別の確立事業を実施することは可能か。（養蚕農家をはじめ構成員は同じ場合）

(A) 既に確立事業の対象となっている繭以外の繭を対象に新しい提携グループを構築することは、交付金の対象となった繭を含んでいないことから、新しい提携グループとして認められる。したがって、養蚕農家以外の構成員が異なっている場合はもちろん、新しい養蚕農家が加わっても、養蚕農家を含めた他の構成員が全て同じ提携グループでも、これまで提携事業の対象となっていなかった他蚕期の繭を対象とした提携グループは、もう一つの新しい提携グループとして承認申請をすることができ、承認されれば、承認から3年間、当該新グループが使う他蚕期の繭の量に応じた交付金を受けることができる。（生産する絹製品が同じものであってもよい。）

なお、新しい提携グループは、実施中の既存提携グループとは異なった事業主体であるので、既存提携グループとは別に新しいグループ名（第2次〇〇グループ、新〇〇研究会等でも可）をつけ、新しい提携グループの全体事業計画書を策定し、承認申請をすることになる。

新しい提携グループとはせず、実施中の既存提携グループの計画を変更して対応することも可能であるが、この場合の交付金の単価及び交付期間は、単なる既存提携グループの全体事業計画の変更と見なされるので、留意されたい。

(Q 2 2 - 6)

既に確立事業に参加している養蚕農家の、確立事業の対象となっている蚕期の繭のうち、当該確立事業に参加していない分の繭（大規模養蚕農家で、同一蚕期の一部しか確立事業に参加していない場合等）及び当該養蚕農家が新しい提携グループのために増産する同一蚕期の繭を対象として、もう一つの新しい提携グループを形成し、別の確立事業を実施することは可能か。（養蚕農家をはじめ構成員は同じ場合）

(A) 上記5と同様な理由により、同様に認められる。

なお、同一蚕期の既に確立対策の対象になっている分の繭とは厳密に区別する必要があるので、同一養蚕農家における、既に実施している確立事業の交付金の積算基礎となった蚕期の繭量の最大量を控除した繭量を（新たに参加する養蚕農家分も含む。）、新しい提携グループの対象となる繭の量とする。

(Q 2 2 - 7)

シルク工房が養蚕もやる場合、確立事業の対象にはなるのか。また、養蚕に取り組む場合、大日本蚕糸会プロパー事業の蚕糸絹文化活性化推進事業（以下「活性化事業」という。）の助成対象にはなるのか。逆に養蚕農家が絹製品まで生産する場合はどうか。

(A) 確立事業は、養蚕農家プラス製糸業者、絹織物業者、流通・小売業者等のうち1以上の事業者により構成され、共同して純国産絹製品づくりに取り組む任意組合、有限責任事業組合及び事業協同組合が事業実施主体になることができる。

したがって、養蚕から販売まですべて自己完結の場合は確立事業の対象にならないが、シルク工房の中の特定の者（シルク工房の代表者を含む。）が養蚕農家として分離独立し、当該シルク工房は、この養蚕農家と提携グループを構築し、当該養蚕農家から繭を購入する形態（すなわち、養蚕農家とシルク工房の経営は、別人格のものとして明確に分離されているとともに、繭は販売され（販売代金が支払われ）ている形態）であれば、それ以降の工程等（製糸、染色、製織、販売等）は全てを自らやっても、この提携グループは確立事業の実施主体となり得る。

活性化事業の助成対象養蚕農家として活性化事業を行うことも、活性化事業の要件を満たせば実施できる。

また、養蚕農家が繭生産から絹製品の生産・販売まで全て自ら行う場

合は、上記と同様の理由により確立事業の対象にはならないが、製糸以降の生産工程の一部や販売等の部門（すなわち、他の事業者）と提携グループを構築すれば、対象となる。活性化事業においても同様である。

なお、確立事業の提携グループとして承認されるには、当該グループの経営が長期にわたり安定的に推移し、養蚕農家に対し規約に定めた繭代を長期的に支払っていけることが求められることから、いずれの場合も、販売を専門とする織物問屋や特定小売業者が提携グループに加わることを望ましい。

(Q 2 2 - 8)

提携システムで扱う繭量のミニマムは設けるのか。

(A) 提携グループとしての事業活動が担保され、養蚕農家に対し、規約で定めた繭代等を安定的、かつ、長期的に支払える繭量でなければならぬことから、最低限2万粒（1箱）以上（一般蚕品種の場合、35kg程度の繭量となる。）と考えている。

(Q 2 2 - 9)

真綿、絹布、シルクトウ等絹ふとんの綿を販売する提携グループではなく、絹（真綿等）ふとんの形態で販売する提携グループの場合、絹（真綿等）ふとんの側地が純国産絹製品でない場合（輸入生糸や綿、化合繊等を用いた織物等の場合）でも、確立事業の対象になるのか。また、中の真綿等は全部純国産でないといけないのか。

(A) 家蚕生糸使用部分が全て国産繭から作られた生糸を使用した側地であれば、側地の他の部分が何の繊維原料を使用しているか、原則として、確立事業の対象になるが、原糸組成等を明確に表示しなければならない。（家蚕生糸使用部分に輸入生糸が使用されている場合には、その量にかかわらず認められない。もちろん、中の真綿等は、純国産の繭から製造されたものでなければならない。）

なお、家蚕生糸使用部分は、原則として、50%以上であることとするが、当該絹製品の基本的コンセプトを満たすためには50%以上にはできない合理的な理由がある場合（ホールガーメント使用やパンスト等製造方法や製品の機能からの観点、健康機能保持等できる製品が目的とする機能を発揮できるようにする観点等から、特殊な織（編）物の生産に適する原糸にする必要がある場合）には、例外として認める。

また、国産繭からの生糸又はそれらと国産の野蚕生糸とのハイブリッド糸を使用した側地（交織を含む。）の絹ふとん以外は、現状では純国産絹マークの対象とはならない。

（Q 2 2 - 1 0）

現時点では確立事業の実施までは行っていないが、これまで長期にわたり特定の繭（農協エリア又は特定養蚕農家）を用いた生糸で純国産絹製品を生産・販売してきており、22又は23年度から確立事業の実施を予定している場合、20年産以前の繭からの絹製品は、純国産絹マークの対象になるのか。

（A）繭の産地が特定でき、かつ、確立事業を実施しているグループのもの及び確立事業を22年度又は23年度から実施する予定で提携支援センターとの協議を既に始めているグループのものにあつては、対象になる。

（Q 2 2 - 1 1）

養蚕農家段階で選除した選除繭（くず繭、玉繭等）、繭毛羽等のように、通常は、提携グループとして必要としないものであることから、提携グループに参加する養蚕農家が当該提携グループには販売しないもの（すなわち、交付金の対象にはなっていないもの）を原料とした生糸等（ふい絹、ネットロウシルク、べた繰り生糸、玉糸、紬糸、真綿、シルクパウダー等）を使った絹製品を生産・販売する提携グループは、確立事業の対象になるのか。また、この絹製品は、純国産絹マークの対象となるのか。

（A）交付金の対象にならなかったものを使い、かつ、養蚕農家も特定できるのであれば、確立事業の対象となる。交付金の額は、原料となる選除繭、繭毛羽等の量に対応した額になる。なお、養蚕農家に支払う繭代の単価、支払い方法等については、上繭の場合と同様ということにはならないので、養蚕農家、関係農協、製糸等提携グループ関係者が、選除繭等の集荷等に寄与した状況等を勘案して、十分協議して決定する必要がある。

また、純国産絹マークについては、一般の生糸と同様に、養蚕農家が特定できる繭からできる絹製品であり、純国産絹マークの管理規程及び運用基準に合致するものであれば対象になる。

（ 養蚕農家が個別に選繭する場合、共同選繭する場合、両方を行う場

合、いずれの場合においても、量の多少はあっても、全ての農家で発生するものであり、数は多くなるが関係農協、関係製糸等が協力して対象養蚕農家を整理すれば、対象地域を特定し、関係養蚕農家も特定できるはずである。すなわち、交付金の対象になっていないものであり、それらを集荷した地域（養蚕農家）を特定できるのであるから、選除繭等を、養蚕農家～関係農協～関係製糸が体系的に結びついて、極めて低いコストで集荷するシステムを構築する等、確立事業及び純国産絹マークの対象になる要件を満たすように対応していけばよい。）

(Q 2 2 - 1 2)

製糸段階で出た選除繭からできる生糸等や、繰糸段階でできる、きびそ、びす等を使った絹製品で事業を仕組む場合、確立事業の対象になるのか。また、この絹製品は、純国産絹マークの対象となるのか。

(A) 既に交付金の対象となった繭から生産されるものを対象にするものであり、二重に助成することになることから、新たな提携グループとしての確立事業の対象にはならない。

また、純国産絹マークについては、提携グループの養蚕農家の繭からできる絹製品であり一般の生糸と同様に、純国産絹マークの管理規程及び運用基準に合致するものであれば対象になる。なお、数グループの選除繭、あるいはきびそ等を集めて利用する場合にあっても、関係グループ、すなわち、関係養蚕農家は特定できるのであるから、同様に純国産絹マークの対象になる。

支援センター活動日誌No. 13 (H22.5.1 ~ H22.6.30)

年月日	活 動 内 容 等
22.5.12	J A ちちぶ養蚕部会総会にて蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業の説明 (埼玉県)
22.5.18	シルク工房型の繭・生糸需要者が参加する提携システム構築に関する 推進会議 (東京都有楽町 蚕糸会館)
22.5.24	福島県優良繭生産推進協議会総会にて蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業の 説明 (福島県)
22.5.30 ~ 22.6.3	純国産絹製品展 (京都府 京都産業会館)
22.6.1	回転簇ボール試作品の収繭状況等についての打合せ (茨城県 蚕業技術研究所)
22.6.4	碓氷製糸農業協同組合にて蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業の説明 (群馬県)
22.6.9	(社) 日本絹業協会による純国産絹マーク審査委員会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
22.6.15	結城紬事業関係者への蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業の説明会 (茨城県)
22.6.25	養蚕用資材の安定供給ワーキンググループ検討会 (東京都有楽町 蚕糸会館)



涼しげな京友禅団扇 (ジャパンシルクセンターにて)

良いものづくりに向けて蚕と糸と織りが一緒に研究

(財) 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所
所長 井上 元

はじめに

ご承知のとおり、平成 20 年から蚕糸行政は大きく変化し、蚕糸・絹業提携システムへの移行とそれによる純国産商品の開発の施策が進められています。この新しい施策を技術面から支援するために、(財) 大日本蚕糸会の蚕業技術研究所と蚕糸科学研究所は共同して、プロジェクト研究「提携システムの構築に向けた繭と絹の生産技術の開発」を、平成 20 年度から推進しております。このプロジェクト研究には群馬県蚕糸技術センター、農業生物資源研究所、(株) マルシバおよび平尾絹精練工学研究所に参加をいただいております。蚕と糸と織りが一緒になって良いものづくりに向けて研究しているのが特徴的です。

純国産の良いものづくりを考える時に、大切なキーワードは基本に忠実、夢の実現、温故知新、創意工夫と考えております。このプロジェクト研究は、このようなキーワードに基づいて設計されております。すなわち、丈夫な蚕からは良い糸がとれるとの基本を意識して、蚕を健康に育てる防疫技術を開発する、また、国産の 14 デニールの糸で風合いの良い織物を製作したいとの

夢を語る方に応えて、繭糸が極細である蚕を育種し、その糸と織りの状況を解析する、さらに、昔の着物は良いとの声に応えて、昭和初期の蚕品種を復元して糸の性質を解析する等々が、柱となっております。プロジェクト研究全体には「空気を含む」ことが共通認識とされています。先の平成 22 年 5 月大日本蚕糸会発行のシルクだより 37 号に、このプロジェクト研究で得られた知見を簡単に紹介しましたが、再度、詳しく進捗状況を紹介いたします。

1 基本に忠実—蚕を健康に育てる

人間と同様に蚕も病気になります。ウイルスやカビなどに侵されて。その対策には長年ホルムアルデヒドが養蚕現場で実施されてきました。しかし、環境や健康に害があるとの報告がでてから、その使用は大変厳しくなってきました。そのため、私たちは次亜塩素酸ナトリウムとポリリン酸ナトリウム、アルカリ緩衝剤からなる蚕飼育環境清浄剤を作出しました。環境への優しさや安全性に配慮してあり、農家での試験では刺激臭もなく使いやすいとの声がでてきます。

2 夢の実現－14 デニールの糸で織りたい

純国産の14 デニールの糸で風合いのある織物を織りたいと、夢を語る方がおります。この夢を実現するべく、私たちは繭糸が1.6 デニールの極細1号と2.2 デニールの白繭細2号を開発しました(表1)。

両品種の繭糸織度曲線は図1と図2のとおりです。これらの蚕を農家で飼育してもらいましたが、どちらもとくだん飼育に

表1 極細1号と白繭細2号の飼育成績

蚕品種	繭糸織度	繭糸長	解じょ率
極細1号	1.57 d	1,557 m	71.0 %
白繭細2号	2.21	1,547	86.8

(平成21年春蚕期)

図1 極細1号の繭糸の織度曲線

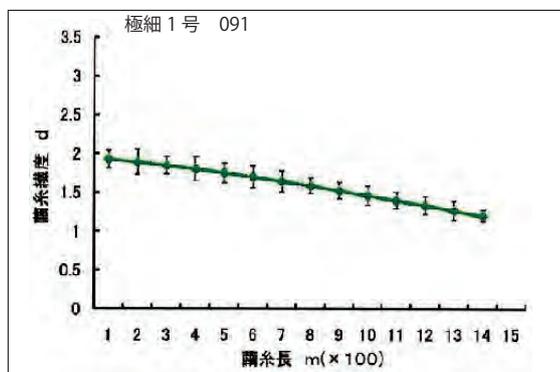
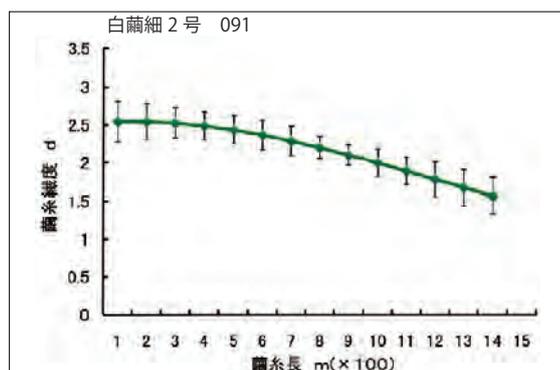


図2 白繭細2号の繭糸の織度曲線



難しさはなかったが、極細1号は回転簇から落下しやすい傾向があったとのことでした。

この繭から製糸した14 デニール糸の織度偏差はそれぞれ0.59と0.65であり、14D生糸6A規格を十分に満たしております。また、繭層のセリシン分析からは極細1号は腰が強く素晴らしい、白繭細2号は標準的な糸で使いやすいとの評価がでています。この極細1号の糸質評価は物理的な特性からも支持されます。(図3)

両品種の繭からの製糸と羽二重生地の織りの企画は、(株)マルシバが担当しました。春蚕期に生産された繭からゆっくり繰糸し、製糸された14 デニール糸が五泉で甘燃りされて、羽二重反物が製織されました。糸に節や抱合の甘いところがあってご苦労されたこととの由ですが、780gの反物は風合いが良く、また、品種ごとに感触が異なっておりました。黒紋付き用に染めたところ染め上がりはとても良いとの評価でした。今後の染色試験と着用試験での評価が楽しみです。(図4)

3 温故知新－なぜ昔の着物は良いのか

昔の着物は良い、軽くて温かくて折りシワがつかない、染め直しても生地が傷まないなどの声を聞きます。なぜなのか、その理由が十分に説明されているとは言えません。(株)マルシバ木下幸太郎氏に「昔とはいつの頃ですか」と問うと、大正～昭和初期ですとの返事でした。そこでこのプロジェクト研究で、昭和4年の名品種と言わ

図3 極細1号の強度と伸度

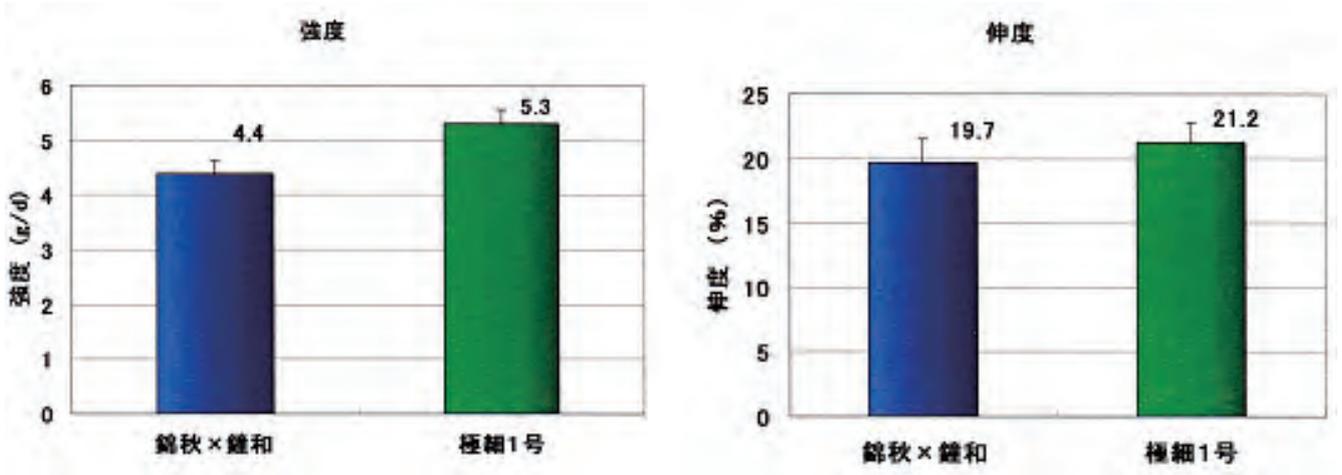
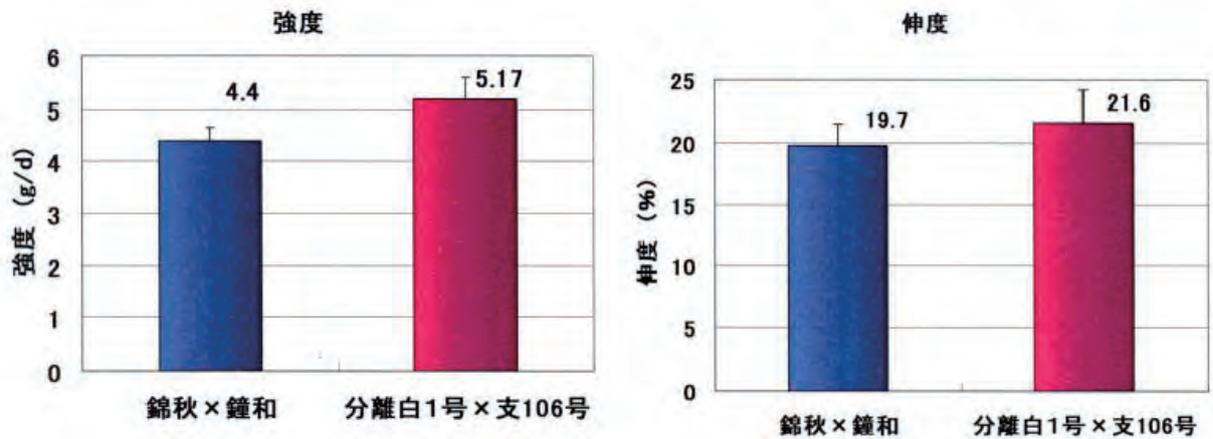


図4 極細1号（上）と白繭細2号（下）羽二重の反物



図5 分離白1号×支106号と普通蚕の強度、伸度



れた蚕品種「分離白1号×支106号」を復元して調べることにしました。この品種は当時、熊本県蚕業試験場が夏に解じょが良い繭を生産するために開発した品種です。その後、遺伝資源に長らく保存されていたので、復元して見ると昔に比べて繭糸の長さは大幅に短くなっておりましたが、解じょの良さは素晴らしく、糸を繰り始めたら最後まで引けるとのことです。驚いたのは、この糸が強度、伸度、ヤング率ともその値が現代の普通蚕にくらべてかなり良いことでした（図5）。

この成績をみて、昔の着物が4回染め直しても生地が傷まないのは、糸が強いことが関与していると思われました。なお、この糸は現代でも高級生糸になりうるとの結論ですので、シルク工房などで利用価値があると思われれます。今、繭から多条繰糸機で糸を引いており、この試験で空気を含む糸や織物が製作され、得られた知見が自動繰糸機の現代製糸技術に反映されることが期待されます。

4 繭素材と精練の結びつき

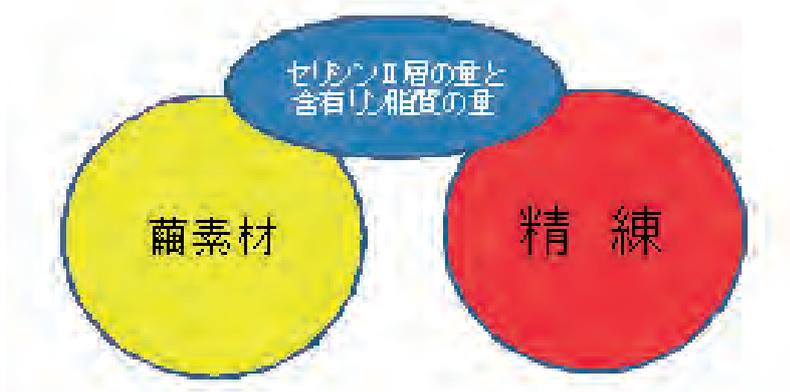
これまで私たちは特徴ある蚕品種の育成

に努めてきました。当然、それらの繭の煮繭は普通蚕の従来法とは異なるものと考えられます。今回、極細1号と白繭細2号の適切な煮繭時間が決められましたが、これからは特徴ある蚕品種ごとに適切な煮繭法のレシピをつくる必要があると認識されます。

それに加えて、特徴ある蚕品種の育成の立場からは、良いものづくりには精練が重要と漠然と感じておりました。なぜ精練が重要と感じられるのか、その理由は不明でしたが、このプロジェクト研究に平尾絹精練工学研究所の平尾銀蔵氏が参画することによって明確になりました。平尾氏の理論は、繭糸を構成しているセリシンI層、II層、III層およびIV層のうち、II層のセリシン量とそれに含まれるリン脂質の量は蚕品種によって異なっており、多いほど繭糸は精練に対する抵抗性が強くなるということです。これによって繭素材と精練が、精練抵抗性を介在して結びつき、両者の関係が重要であることを明瞭に認識するに至りました。（図6）。

これまで、27年間かけて育成された他研究機関の品種が、毛羽立ちが顕著と織物に不採択となった事例もあり、育成の途中

図6 セリシンII層の特質による繭素材と精練の関係



段階で繭糸が織物になったときにどのようなものであるか、それを予見できる化学的な分析法は無いものかと思っていましたが、この理論にもとづくセリシン分析はまさに求めていた方法であり、蚕品種育成の立場にとって大変有用と嬉しく思いました。

5 五泉での現地検討会

極細1号と白繭細2号の14デニールの糸が製糸されたので、羽二重を織るにあたって五泉で現地検討会が企画されました。今回は糸が14デニールと細いので、4本甘撚りを掛けるとの織り側からの提案が了承されました。この検討会で私は、糸質が変わってきている、それは昭和35年頃と思うのだがと話題提供してみたところ、現地の方々から「同感」の声があがりました。大変含蓄のあるやりとりでしたので再現してみます。

井上：昭和4年の蚕品種を復元してみたら、繭糸が今の普通蚕の錦秋×鐘和よりもはるかに強かった。昔と今とで糸質が変わったと思うが、それは昭和35年頃と考えている。田島弥太郎博士によれば、蚕品種改良は輸出のために糸質重視で行われてきたが、昭和35年から国内販売向けとなり作柄重視となった。その後さらに繭が大きくなったとの由。

A氏：同感である。その頃に自動繰糸機が普及し、高速で引くのでハリガ

ネ糸となった。ゆっくり引こうとすると織度がムラになった。

B氏：私が高校生の昭和36年頃に、精練の際のスレ防止のために生機（きばた）にネットをかぶせるアルバイトをしたが、中学生の時にはスレ防止ネットなどを使用する必要はなかった。

A氏：資金に余裕のある糸商は、ハリガネ糸を1年間土蔵に置いて伸びきった糸を少しでも元に戻す努力をしていた。

C氏：1年間土蔵に寝かせるのは科学的に見て正解である。糸には油（リン脂質）が含まれており、それが酸化してセリシン分子間を固化するので、糸が丈夫になる。

A氏：1991年（平成3年）頃のブラタクの糸は最高に良かった。選繭をしっかりやっていたし、ゆっくり繰糸していた。その後、経済効率化のために高速繰糸となり選繭の徹底も弱くなって糸質は低下した。

B氏：1991年当時、国内でも同じように出来ないのかと言ったが、最近のブラタク糸はそうでもない。それでも国内ではブラタク6Aが一番良い。

D氏：ブラジルも難しくなって来ているので昔のような方法で製糸できないのだろう。いずれ日本の糸は25,000円になるが、ブラジル、

中国も 10,000 円になるだろう。
これから生き残れるところと残れ
ないところがでてくるだろう。

6 良いものづくりに向けた繭素材の提供 戦略

これまで紹介してきたプロジェクト研究
で得られた知見から、良いものづくりに向
けた繭素材の提供戦略をとりまとめること
ができました。 図7に示すように、現代
の蚕には普通蚕品種と特徴ある蚕品種があ
ると考えます。そこに至る蚕品種育成の変
遷を明治元年からみてみますと、おおよそ
40年ごとに区分されることが分かりまし
た。昔から飼育されていた在来蚕品種が主
流の時代、そして、明治39年に外山亀太
郎博士がメンデル遺伝学を支持する一代交
雑種理論を発表してから、その理論に基づ
いて品種改良が進められた時代、さらに、
昭和24年に日122号×支122号が登場
し繭の量的形質が大幅に向上してきた普通
蚕品種の時代、その流れをうけている現代
に、昭和62年細織度系の蚕品種「あけぼ

の」の育成から特徴ある蚕品種が増加して
いる現代です。なお、細織度系の品種は昭
和13年の秦信親氏によるMK育成開始に
源流があり、ひたすら繭を大きくしてきた
道とは別な道を歩んできています。

普通蚕品種の時代、品種改良によって
繭の量的形質は大幅に向上しましたが、吉
武成美博士が指摘されるように飼料効率
はほとんど向上していないので、大食いの蚕
を育成してきたこととなります。前述のよ
うに、田島弥太郎博士は、日本の蚕品種改
良は輸出を視野に糸質重視で行われてきた
が、昭和35年頃から国内消費の作柄重視
へと移行し、その後繭は一層大きくなった
と述べています。このようなことから、糸
質が昔と今で変わったのは、高速繰糸の開
始とも相まって、昭和35年頃と考えまし
た。

昭和4年の蚕品種「分離白1号×支106
号」の復元試験から、「繭糸が丈夫である」
ことが良いものづくりの基本であると認識
されました。このことから、昭和4年～昭
和34年の期間に、糸が丈夫な繭素材の原

図7 蚕品種育成の変遷

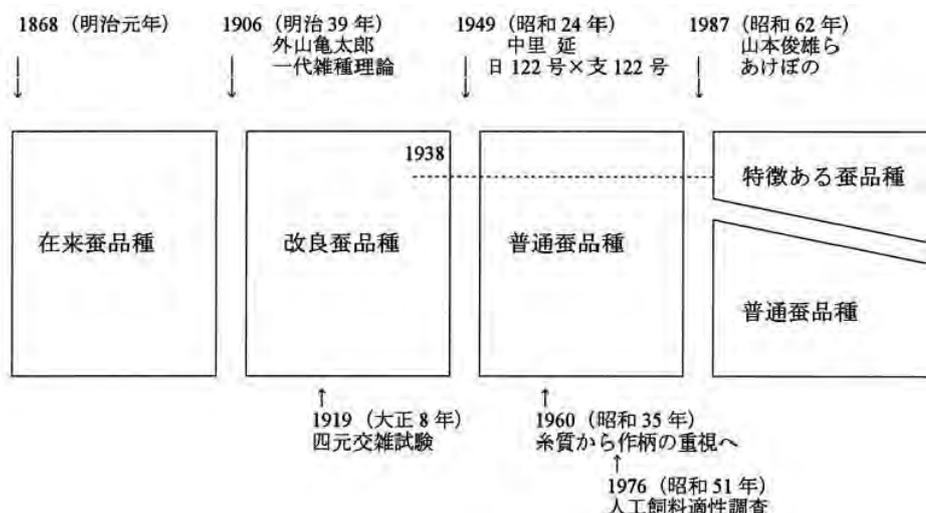
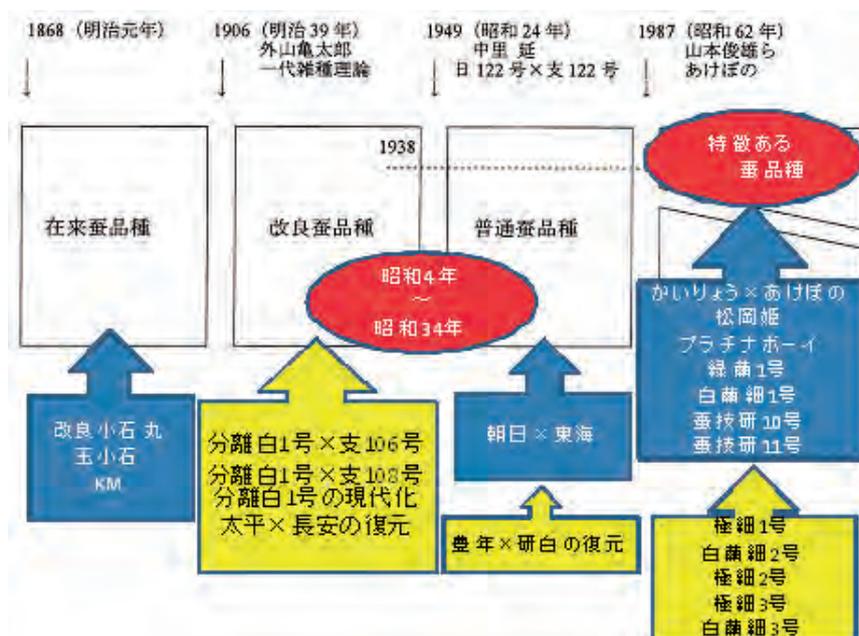


図8 プロジェクト研究における蚕品種開発の状況



点を求める視点が浮上してきました。この時代の名品種の復元と現代化によって、良いものづくりに向けた繭素材を開発・提供していく戦略です。優れた特徴ある蚕品種の開発に務めている私たちにとって、蚕品種育成のウイングが広がったこととなります。今、プロジェクト研究で進めている品種開発の現況を図8に黄色で表示しました。青色は既存の品種です。

おわりに

蚕糸・絹業提携システムのなかで懸念されるのは、蒸し暑い夏蚕期と初秋蚕期には繭糸の解じよの成績が低下するので、絹業界の方々はこの時期に生産された繭を使いたくない気持ちが窺えることです。前述の「分離白1号×支106号」の「分離白1号」は、高温高湿の熊本県が繭糸解じよの良い蚕を育成するべく総力をあげて取り組んだ産物であり、その努力に敬意を表したい。私た

ちは、この原種を手持ちの優れた原種と交雑することや、あるいは50年程前の解じよの良い品種を復元するなどの夏蚕期・初秋蚕期対策を講じたい。一方、暑い時期には蚕の成育が早く繭糸が細くなるので、細織度系の品種の飼育を推奨するために、目下、解じよの良い極細3号と白繭細3号の開発に取り組んでいます。さらに、玉繭の生産もこの時期に行えるようにしたい。

良いものづくりに向けて発想を豊にすれば、すでに数々の特徴ある蚕品種が育成されているので、これらの蚕の糸と普通蚕の糸とを複合するなどの創意工夫の視点も浮上してきます。なお、極細1号は腰が強くて洋装向けでもあるとの糸質評価がでていますので、プロジェクト研究の3年目にはドレス等の洋装分野へも挑戦していく所存でおります。

いのうえ はじめ
蚕業技術研究所 所長

「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録と蚕糸業振興

群馬県世界遺産推進課

補佐 土屋 真志



写真1 富岡製糸場

「1本の糸で日本をつなぎとめ」

明治16年、速水堅曹翁の喜びの一句です。このたった13文字に当時の日本における生糸と国のありようが象徴されています。この句を詠んだ堅曹翁は、前橋藩営器械製糸所を手がけ、富岡製糸所長も歴任しました。堅曹翁を始め、幕末からの動乱の中で蚕糸業に携わった先人達を学ぶと、その英知と気概に感動さえ覚えます。

平成19年1月にユネスコ世界遺産暫定一覧表に追加記載され、世界遺産候補となった「富岡製糸場と絹産業遺産群」。数年後には現実になるでしょうこの世界遺産登録を巡り「シルク・ルネッサンス」とも言える新たな風が吹き始めています。

○世界遺産候補「富岡製糸場と絹産業遺産群」とは

わが国は、非西洋圏で初めて産業革命を達成し、急速な近代化に成功しました。富岡製糸場と絹産業遺産群は、伝統的な生糸生産から近代の技術の移植を通じて日本の産業革命の先駆けとなった絹にかかる産業遺産群です。特に、国家主導による官営模範工場である富岡製糸場は、フランスの器械製糸技術を導入し、西欧の産業革命—近代化—という観点が「工場」という形で伝播した事例として重要です。

生糸生産及び輸出の拡大は、繭の増産を意図した特徴的な養蚕農家群や桑畑とともに独特の農村景観を生み出しました。また、蚕種（蚕の卵）を供給する蚕種生産農家、天然の冷蔵庫である風穴での蚕種貯蔵、養蚕の指導教育施設、在来的な座繰製糸を改良した養蚕・製糸農家組合、繭や生糸の輸



写真2 富沢家住宅

送に関する鉄道や倉庫等の施設等の一連の絹産業を拡大させました。

これらの絹産業の発展は、江戸時代に既に盛んであった養蚕・製糸業を基礎として、西欧から近代技術がもたらされたことにより開花したものです。

そして先進的な製糸技術が国内各地に伝播した結果、日本は明治42年（1909）に世界一の生糸輸出国となりました。更に日本が輸出した安価で良質な生糸は、米国等の近代的な絹産業の発達と相まって世界の絹の大衆化にも貢献しました。

富岡製糸場と絹産業遺産群は、以上のように日本の産業革命と近代世界における絹産業の発展に貢献した日本の絹産業遺産を代表する文化遺産が、群馬県という地域に集中的に保存されているものであり、この一連の文化遺産は世界遺産に相応しい価値を有していると考えています。

○世界遺産と観光

世界遺産と観光との関係について、あたかも観光目的に世界遺産を捉える風潮もありますが、それは間違いです。世界遺産登録とは、世界に誇れる文化遺産を保存し、適切に活用していくことがそもそもの目的です。

しかしながら、世界遺産を観光や地域の活性化に活用することは、文化遺産を守る地域住民の活動等をベースとし、その上でその価値を分かりやすく正確にPRするものであるならば、本来の目的に加えて奨励すべきことです。

○産業観光の可能性

最近、よく耳にするようになりました「産業観光」。平成16年に「観光立国戦略会議」報告書に産業観光の推進が提言されるに至りましたが、まだその歴史は浅く、産業観光の概念を始め、その手法などは発展途上であり、ビジネスモデルとしても未熟な状況です。

しかしながら産業観光への取組は、全国各地でますます盛んになっており、今後は海外からの観光客も呼び込める可能性も期待されている観光分野です。

このような情勢の中、群馬県では昨年10月に「全国産業観光フォーラム in 上州とみおか」が開催され、これからの産業観光の目玉として世界遺産候補の「富岡製糸場と絹産業遺産群」が関係者から注目を集めました。「シルク・ツーリズム」ともいえる先進国型の知的欲求を満たす産業観光の展開が期待されています。



写真3 碓氷峠鉄道施設・第三橋梁

○世界遺産は蚕糸業の救世主となるか

絹の文化遺産が世界遺産になることは、時を同じくしてわが国の蚕糸業にも注目が



写真4 荒船風穴

集まり、あたかも救世主になるであろうという期待の声が聞こえてきます。

確かに「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録が実現したその時には、日本の絹にかかる歴史や文化、今も生き続けるわが国の蚕糸業が、国内外のマスコミから注目される可能性は高いのではないのでしょうか。マスコミから日本の絹産業や絹文化が数多く紹介されることで、国民の意識の中に「シルク・ルネサンス」とも言える新たな風が吹き、絹製品の販売拡大や蚕糸業復興のチャンスになり得ると思います。

また、既に23万人以上の来場がある富岡製糸場が世界遺産になれば、50万人以上の来場者も夢ではないでしょう。絹に興味を持ち、絹に魅力を感じている富岡製糸場の来場者を対象に絹製品を販売することで直接のビジネスチャンスも増えるのではないのでしょうか。

いずれにしろ、数年後の世界遺産登録実現を目途に、今から、絹にかかる世界文化遺産を誕生させた日本にふさわしい絹製品を準備しておき、そのチャンスを蚕糸業の救世主にするよう蚕糸絹業関係者の連携した取り組みが望まれます。

○蚕糸・絹業提携緊急対策事業と世界遺産登録

現在、(財)大日本蚕糸会 蚕糸・絹業提携支援センターで蚕糸・絹業提携緊急対策事業が行われています。養蚕・製糸・絹織物・流通の関係者が提携し、国産繭・生糸の特徴や希少性を生かし、消費者が求める付加価値の高い純国産の絹製品を開発・販売するグループの育成が進められています。そして、この取り組みの成果が、国内の蚕糸業の存亡を左右するとも言われています。

この事業を成功裏に進めるために、世界遺産を取材するマスコミに対し、この事業により育成されたグループが開発した純国産の絹製品を紹介したいと考えています。マスコミが世界遺産の報道に加えて、純国産の絹製品の希少価値や付加価値を伝達する機会となるよう蚕糸絹業関係者との連携を深めたいと思っています。

この連携を通じて、蚕糸・絹業提携緊急対策事業の目的である、蚕糸業の再生と持続的発展を図ることに、少しでも貢献できるよう努めたいと考えています。

○製糸工場を残す

群馬県には、養蚕農家が組合員として運営する碓氷製糸農業協同組合が現存しています。この場を借りて、長年にわたる組合関係者の努力に敬意を表します。そして、この製糸工場を始め、全国にある数カ所の製糸工場を残すことは、わが国の蚕糸業のみならず、絹業にとっても大命題です。

最近では常識となった食品のトレーサビリティと同様に、この数カ所の製糸工場が製



写真5 碓氷製糸農業協同組合

造された生糸については、繭から製品までのすべての情報をインターネットで公開してはどうかと思います。企業秘密を守ることが大切ですが、純国産の絹製品が、消費者にとって分かりやすく、信頼を得るための仕組みとして検討してはどうでしょうか。

また、ものづくりからすると本道ではないものの、全国各地で盛り上がり始めています「産業観光」の目玉として製糸工場を売り出してはどうでしょうか。例えば、富岡製糸場と碓氷製糸をセットにした産業観光コースを全国に売り込みます。碓氷製糸でも入場料を徴収したり、純国産の絹製品の販売を強化したりすれば、かなりの収入増になるでしょうし、蚕糸業に対する国民の理解を醸成する良い機会にもなるのではないのでしょうか。

○蚕糸業も日本の宝

今日の近代的な蚕糸科学と技術は、主としてわれわれ日本人によって築き上げられたもので、単に蚕糸にとどまることなく他の分野にも適用され、これまで日本の発展

に大きな貢献をなしてきました。富岡製糸場から始まる器械製糸技術の発展、一代交雑種の利用やW転座などの遺伝子分野の研究、蚕の人工飼料の開発など、これら世界をリードしたわが国の蚕糸科学と技術は、今に至るものづくり大国日本の原点でもあると考えています。

日本人の絹に対するDNAを信じ、日本

人の心と技で結ばれたものづくりこそが、日本人に感動を与えます。やはりこれこそが日本の蚕糸業が生き残る唯一の道でしょう。

そして、世界遺産登録で吹くと思われる「シルク・ルネッサンス」の新たな風。

この風により、日本人が日本の絹を再発見することを心から祈っています。



写真6 富岡製糸場 東繭倉庫

つちや まさし
群馬県世界遺産推進課 補佐

国内産地情報

絹織物産地の概況（5月）

主要織物産地の生産量は年度始めより前年を上回り順調に推移している

<原糸>

中国の春繭は全般的に若干の減産が予想される。現物生糸の取引は繭不足と国内消費の好調から上昇している。中国の国内景気的好調とインフレの影響、物価の高騰、人件費の値上がりから生糸価格下がる要因はなく強含みと思われる。このため一部では積極的に手当てする産地もあったが、全般的に当用買いで推移している。

<白生地>

- ・丹後の縮緬生産は、前年比 107% で不振の中でも企画物等で健闘している。無地は前年比 137%、紋生地は 101% であった。しかし新規の商談が極端に減っている。
- ・長浜の生産は、前年比 131% で集散地に適品薄であることから、引き続き変り織を中心に引合いが順調であった。
- ・五泉は、生産は前年同月比 1.9% の増産であった。これは輸入物の羽二重等が値上がりしている関係もあるのではないかとと思われる。
- ・福島は、和装、スカーフともに受注の減少で生産量も、操業度も落ちている。
- ・石川は、合織もの平地薄地織物が好調でフル稼働しており、世界的に需要が高まっている。
- ・福井は、広幅羽二重は輸入品、国内品とも価格が上がり、生産は昨年比 107% であった。
- ・群馬・埼玉は、落込み一方の現況の中では健闘しているといえよう。

<先染織物>

- ・西陣の帯は、大手産地問屋の売出しがあったが、不振であった。しかし、価格は原材料高もあって在庫処分見切り売りは少なかった様に思われる。
- ・博多は、紋系は袋帯が 73% の減、平地は全般的に減少している。
- ・十日町は、留袖、付け下げが前年比 100% 以上と好調。
- ・米沢は、服地は減産傾向からやや緩和されつつあり、徐々に仕事は出てきている。
- ・山梨は、服地はサンプル生産が中心である。昨年より多い。ネクタイは一部に動きはあるようだが全般的に悪い状況が続いている。
- ・西陣のネクタイは、実需期であり、比較的稼働状態は順調である。しかし、国産離れが続いている。

*（社）日本生糸問屋協会月報 22.6.11 第 735 号による。

海外シルク情報

中国

中国絲綢（シルク）協会の 2010 年度事業計画概要

中国最大のシルク業界団体である中国シルク協会（会員数：500 社余）の本年度の事業計画が公表されている。今年度の中国シルク業界の動向を見るに参考になるので紹介する。

- 1、シルク業界における統計の整備及び情報事業の継続実施
（全国シルク生産統計系統（web）の建設強化、中国シルク年鑑の編集・発行等）
- 2、製糸行程について、保全工による全国自動繰糸機操作コンテストの開催
（“機械3分、保全7分”の諺のごとく生糸品質に直接影響するのは、自動機の保全にあるとの認識のもとに中国紡織工業協会、中国職業訓練センター及び中国煙草協会との共催により開催する。）
- 3、シルクデザインの向上対策の推進
（“生産大国、しかしデザイン小国”の汚名返上を目的、全国服装デザインコンテストを開催する。）
- 4、各種シルクの検査、規格標準の向上及びシルク標準の国際化の推進
（生糸電子計測格付規定及びその試験方法の I S O 国際標準の取得工作の推進等）
- 5、中国高級シルクマークの普及拡大促進事業の継続実施
（2002 年 12 月に国家工商行政管理総局商標局より認可取得、2004 年 8 月より正式に市場で使用されるようになった。当時の取得企業 14 社、現在の取得者は 30 社余。）
- 6、関係政府部門との連携のもとにシルク産業にかかる「12・5（第 12 次 5 ヶ年計画）」（2011 年より実施）の策定
- 7、業界発展のための各種工作活動の展開
（通常のシルク協会秘書長（主任、経理）会議及び各蚕期前のシルク情勢分析会議のほか、今期は「中国西部シルク高級フォーラム」（4 月於：四川省南充）、「国際文化産業博覧会」（5 月於：深圳）を開催する。）

本年 1～3 月、中国原料生糸類の輸出状況

中国海関（税関）統計によれば、本年 1～3 月の原料生糸類輸出状況は、数量が 67,800 俵で対前年比 18% 減少したものの、同輸出金額は 1.2 億ドルで対前年比 10.6% の増加、同平均価格（単価）については 29.5 ドル／k g で対前年比 34% と大幅増加し、今年に入って

からの繭糸価格高騰の影響を受けている事情が窺える。ちなみに、この輸出金額は中国シルク商品輸出総額の18%を占めている。

詳細にみると、

1、原料生糸類輸出品目の主要三商品は、生糸、絹撚糸及び絹紡糸の三種類であり、この三つの合計輸出数量は、原料生糸類全体の約8割を占めている。

個別にみると、生糸輸出数量は20,900俵（対前年比約2割の減少）、同輸出金額は4,237万ドル（対前年比約2割の増加）、同輸出単価は33.8ドル/kg（対前年比47.6%と大幅に増加）となった。

絹撚糸輸出数量は、13,900俵（対前年比25%減少）、同輸出金額は3,054万ドル（対前年比4%の増加）、同輸出単価は36.7ドル/kg（対前年比38%と大幅増加）となった。

絹紡糸の輸出は19,100俵（対前年比23%減少）、同輸出金額2,308万ドル（対前年比17%減少）同輸出単価20.16ドル/kg（対前年比8%増加）となった。

2、対輸出相手国別ではインド向けとパキスタン向けが減少しているものの、韓国向けが前年より約25%増加し、その他の地域向けはほぼ前年と同様の傾向になった。

原料生糸類輸出をその対輸出相手国別にみると、数量順に、インド、パキスタン、日本、イタリア、韓国となっている。一位と二位のインドとパキスタンでは現在、在庫で需要を充足している状況下であり、昨今の中国の輸出価格の高騰から両国のバイヤーは購入契約を自重している模様である。

日本向けは、イタリアと同様に輸出単価の高い国であり、現在、21中の高格物で40ドル以上の水準にある。しかし、日本向け輸出は、以前のように短期間でまとまった数量でのオーダーではないために、昨今、日本の要望する織度（20中など）が中国で容易に生産・入手されない困った傾向にある。

*日本生糸問屋協会月報 22.5.13 第734号及び 22.6.11 第735号による。

イベント情報

イベント情報

イベント名	企画内容および展示内容	開催期間	場所および主催者
ちりめん創作人形展 —記憶のかたち—	ちりめんは「しぼ」と呼ばれる布表面の凹凸が特徴の絹織物。今回は、ちりめんの古裂などを使い、昔の日常生活をモチーフにした創作人形を製作している作家の竹本京(高崎市在住)さんの作品を中心とした、表情豊かな人形のほか、ちりめん細工など約100点を展示する。 観覧料:一般200円(160円)、大高生100円(80円) ()内は20名以上の団体料金 中学生以下及び身体障害者手帳等お持ちの方とその介護者1名様無料	平成22年5月29日(土)～ 7月12日(月) AM9:30～PM5:00 (火曜日休館)	会場・主催・お問合わせ 群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町888-1 Tel:027-360-6300 Fax:027-360-6301 http://www.nipon-kinunosato.or.jp 協力:人形工房 竹本 京
夏休みこども展 —カイコとチョウ—	主な展示内容 ○レモン色や黒い縞のカイコなど珍しいカイコの紹介 ○カイコの飼い方の紹介 ○緑色や赤色に光る繭、スパイダーシルクなどの紹介 ○カイコとチョウ・ガをくらべてみると ○青く輝くモルフォチョウや大きなトリバネアゲハなど標本 観覧料:一般200円(160円)、大高生100円(80円) ()内は20名以上の団体料金 中学生以下及び身体障害者手帳等お持ちの方とその介護者1名様無料	平成22年7月17日(土)～ 8月30日(月) AM9:30～PM5:00 (火曜日休館)	会場・主催・お問合わせ 群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町888-1 Tel:027-360-6300 Fax:027-360-6301 http://www.nipon-kinunosato.or.jp 協力:群馬の蝶を語る会、群馬県蚕糸技術センター
JSC 絹まつり	ジャパンシルクセンター恒例の夏季特別セール(多数の絹愛好家の皆様をお待ちしております。)	平成22年7月5日(月) ～7月8日(木) 始めの3日間は10:00～18:30 最終日は10:00～17:00	会場:ジャパンシルクセンター 東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館1階 主催:ジャパンシルクセンター Tel:03-3215-1212
2010 Silk Summer Seminar in Okaya —第63回 製糸夏期大学—	製糸夏期大学は、昭和23年に開催以来多くの関係者に参集頂きましたが、今年で最後の開催となります。多数の方々のご参加をお待ちしております。 演題 7月22日(午後1時から)・最終記念 式典 ・製糸夏期大学63年の歩み(高林会長) ・糸繰りの道(信大名誉教授嶋崎昭典氏) ・生物資源イノベーションと新カイコ産業の創出(東京大学特任教授妹尾堅一郎氏) 7月23日(午前9時から)・蚕糸業の発展を支えた技術開発((独)農業生物資源研究所理事 新保 博氏) ・きものからのメッセージ(きもの文化研究者中谷比佐子氏) ・岡谷の製糸を語る(共栄工業(株)会長 吉澤英三氏) (午後12時45分から)見学会(近代化産業遺産めぐり) 参加費:1,000円、教材費:1,000円、記念誌:2,000円、懇親会費:6,000円、見学会費:1,000円	平成22年7月22日(木)～ 23日(金)	会場:ライフプラザ マリオ 長野県岡谷市長地権現町3-2-45 Tel:0266-28-8740 Fax:0266-28-8684 主催:(独)農業生物資源研究所、 製糸技術研究会 協賛:岡谷市、蚕糸懇話会 後援:岡谷商工会議所他 お問い合わせ・申し込み先 Tel:0266-22-3664 Fax:0266-22-3094 E-mail: silkseminar@nias.affrc.go.jp

イベント名	企画内容および展示内容	開催期間	場所および主催者
華麗なる能衣装 稔りの季	<p>展示内容 ◇能衣装:約45領◇鬘帯・腰帯:約60点◇能面 ◇関連写真</p> <p>会期中の土、日曜日に能衣装にまつわる講演会、作品解説会を開催します。(具体的にはお問い合わせください。)</p> <p>入館料:一般500円(400円)、大高生200円(150円)、65才以上300円(200円)小・中学生100円(50円) ()内は、団体割引(20人以上)の料金</p>	<p>平成22年6月1日(火)～ 8月29日(日) AM9:00～PM4:30 (毎週月曜日休館、但し7月19日 (月)開館、7月20日(火)休館)</p>	<p>会場・主催・お問い合わせ シルク博物館 〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町 1番地(シルクセンター2F) (みなとみらい線 日本大通り 駅下車3番出口)</p> <p>Tel:045-641-0841 http://www.silkmuseum.or.jp/ 協力:山口能装束研究所 後援: 神奈川県、横浜市、神奈川新聞社、NHK横浜放送局他</p>
「日本の絹展」 ～伝統工芸から創作デザインまで～	<p>染織作家・工房等の和装、洋装の純国産絹製品を中心にして、これに日本の伝統文化を代表する、きもの、帯などと全国各地の伝統工芸品から斬新な洋装品までを一堂に展示し、その素晴らしさを紹介します。</p> <p>実演 座繰り繰糸、真綿作り及び蚕の飼育</p> <p>入場無料</p>	<p>平成22年7月27日(火)～8月 2日(月)まで</p>	<p>会場: 東京・日本橋高島屋8階ホール 主催: (社)日本絹業協会 Tel:03-3214-1691</p> <p>後援: (財)大日本蚕糸会、(社)日本絹人繊維物工業会、(財)伝統的工芸品産業振興協会</p>
片倉シルク記念館 での開催イベント	<p>同記念館は、片倉工業(株)最後の製糸工場(熊谷)の繭倉庫を利用したものであり、同社の製糸業122年の歴史を末永く保存継承するために、熊谷工場の操業当時の製糸機械を展示し繭から糸になるまでの過程を紹介するとともに「繭クラフト講習会」等のイベントを開催しています。</p> <p>入場料:無料(繭クラフト講習会は実費必要)</p> <p>○夏休みイベント「蚕と繭展」 8月1日(日)～8月30日(月) 10:00～17:00 (火曜日休館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●蚕の飼育・雌雄の見分け方 ●座繰器・機織り機の実習 ●繭を使って自由工作 ●養蚕写真の展示 	<p>開館時間: 10:00～17:00 (火曜日休館)</p> <p>○フルート演奏会(無料) 8月7日(土) 14:00～15:00</p> <p>○蚕と繭のお話(無料) 8月8日(日) 14:00～</p> <p>○真綿作り講習会(無料) 8月21日(土) 10:00～15:00</p> <p>○繭クラフト講習会(実費) 8月22日(日) 10:00～15:00</p>	<p>会場:片倉シルク記念館 埼玉県熊谷市本石2-135 Tel:048-522-4316</p> <p>交通:JR熊谷駅から徒歩15分、タクシー5分。車の場合、関越自動車道の花園ICから約20分</p>

お知らせ

「群馬県立日本絹の里」の 指定管理者を公募	<p>群馬県では、県立日本絹の里の管理運営業務を効果的かつ効率的に受託できる団体を公募いたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所在地 高崎市金古町888番地1 ・指定管理期間 平成23年4月1日～平成28年3月31日までの5年間 ・募集スケジュール 募集要項・申請書の配布:平成22年7月1日～7月23日 申請受付期間:平成22年8月16日～8月31日 (現地説明会:平成22年7月30日) <p>*指定管理業務の範囲や申請方法など詳細はお問い合わせください。</p>	<p>【この件の問い合わせ先】 〒371-8570 前橋市大手町一丁目1番1号 群馬県農政部蚕糸園芸課蚕糸係 電話 027-226-3092 FAX 027-243-7202 e-mail:sanshi-kinu@pref.gunma.jp</p> <p>http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=39257</p>
--------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

登録コーディネーター一覧

蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業コーディネーター登録者一覧（五十音順）

平成 22 年 6 月 17 日現在

登録番号	氏名	所属・役職名
21-026	青山 繁	株式会社二葉きもの営業部
21-021	秋山 徹	
20-067	秋山 眞和	(株)あきやま綾の手紬染織工房主宰
20-052	旭 利彦	ロード・ニジュウイチ株式会社
20-013	阿部 末男	岩手県養蚕活性化推進協議会代表
20-036	阿部 雅一	株式会社マルシバ
21-003	天野 三吉	富士吉田織物協同組合開発部長
21-015	新井 園恵	新啓織物
21-014	新井 教央	新啓織物
21-011	碓山 俊光	西陣織工業組合専務理事
20-006	石田 克己	二十一世紀の絹を考える会世話人代表
20-019	伊藤 公一	株式会社伊と幸代表取締役社長
22-002	井上 英夫	有限会社いのうえ代表取締役
19-014	今村 幸文	碓氷製糸農業協同組合製造部長
20-059	宇野 浩嗣	京丹後市商工観光部丹後の魅力総合振興課主任
21-029	内海 康治	有限会社内海呉服店きもの千歳屋代表取締役
20-041	梅田 幸平	有限会社幸和代表取締役
21-023	江口 純一郎	日本刺繍紅会養蚕・繰糸担当
19-010	遠田 寿之	松岡株式会社監査役
20-048	大野 章	勝山織物株式会社
20-063	大竹 史朗	有限会社大竹商店代表取締役
21-001	岡田 心平	株式会社あきやま常務取締役
22-001	奥澤 武治	奥順株式会社専務取締役
21-007	小倉 進吾	株式会社小倉商店
20-044	小此木 エツ子	多摩シルクライフ21研究会代表
21-005	小山田 勉	株式会社オヤマダ代表取締役社長
20-037	角谷 美和子	ハクビ京都きもの学院学院長
21-004	柏木 幹弘	有限会社カシワギ代表取締役社長
20-035	片山 政明	山形県養蚕産地推進員
20-049	勝山 健史	勝山織物株式会社専務取締役
20-064	加藤 洋次	株式会社加藤技術士事務所所長
19-021	門倉 重行	門倉メリヤス株式会社代表取締役
20-030	金井 史郎	東北撚糸株式会社代表取締役社長
20-025	亀井 修一	株式会社伊と幸営業部
19-022	川瀬 久弥	樋口株式会社工場長
22-008	河田 明芳	りょうぜん天蚕の会
20-043	河田 芳宏	河芳織物有限会社代表取締役
20-020	北川 幸	株式会社伊と幸取締役社長室長
20-032	北丸 豊	豊栄繊維株式会社代表取締役社長
19-019	木下 幸太郎	株式会社マルシバ代表取締役社長
21-020	木村 正一	山形県先進国型養蚕推進協議会事務局長

(注) 標記名簿は公表を了承された方のみ掲載しております。

登録番号	氏名	所属・役職名
20-009	草間 健一	株式会社草間商会代表取締役
20-066	黒田 秀樹	株式会社伊と幸和装部次長
19-013	小板橋 広行	碓氷製糸農業協同組合参事
20-061	小口 和興	株式会社帛撰代表取締役
21-002	小林 嘉朗	有限会社コバヤシ代表取締役
20-002	薦田 智昌	ロード・ニジュウイチ株式会社代表取締役
20-012	昆野 和夫	前いわい東農業協同組合養蚕農家指導担当
20-045	境 京子	多摩シルクライフ21研究会
21-025	酒井 進	有限会社酒井代表取締役
20-074	佐々木 祥一	株式会社川島織物セルコン
20-001	笹口 晴美	有限会社ミラノリブ代表取締役
19-012	佐藤 信行	松岡株式会社常務取締役
20-004	佐藤 幸香	「香染」工房主宰
19-011	渋谷 健治	松岡株式会社シルク事業部課長
20-040	清水 武彦	(有) シンセイ (信州繭ブランド織物振興会会長)
22-003	下田 実	前新岩手農業協同組合
22-004	鈴木 政利	西川産業株式会社商品第一部ふとん2課課長
21-030	関根 實	有限会社関根商店代表取締役
20-018	都木 裕一郎	ニッケン通商株式会社生糸販売担当責任者
19-017	高橋 耕一	株式会社宮坂製糸所専務取締役
20-075	高橋 弘直	大門屋店主
20-071	竹下 和利	有限会社寿光織本舗取締役社長
20-076	田中 隆	田中種株式会社代表取締役
20-065	田中 裕司	株式会社布四季庵ヨネオリ代表取締役
20-014	俵 武司	株式会社千總友仙工場代表取締役
21-010	知識 勝博	宮崎県中部農林振興局営農相談員
20-005	土井 芳文	絹小沢株式会社業務推進役
21-008	道明 三保子	文化女子大学文化ファッション研究機構客員研究員
20-077	堂本 正	田中種株式会社営業部長
21-017	土肥 光四郎	株式会社トキワ商事代表取締役会長
21-012	富田 篤	株式会社富田染工芸代表取締役
20-053	内藤 吉雄	元艶金興業株式会社
20-058	永岩 則子	長崎絹業探究所所長
20-060	中尾 浩祥	株式会社丸万中尾取締役
21-006	中澤 豊	株式会社山桜代表取締役社長
20-072	中島 洋一	玉川大学非常勤講師
21-027	長島 誠	長島繊維株式会社
20-057	中野 豊	長崎絹業探究所製作担当
20-031	中谷 比佐子	株式会社秋櫻舎代表取締役社長
20-016	西尾 仁志	有限会社西尾呉服店代表取締役
21-022	似内 久俊	

登録番号	氏名	所属・役職名
20-024	野中 康雄	株式会社伊と幸装部次長
19-015	萩原 和憲	碓氷製糸農業協同組合総務主任
19-018	服部 芳和	有限会社織道楽塩野屋代表
22-005	濱田 俊哉	西川産業株式会社商品第一部ふとん2課
20-056	林 太一	昭和撚糸工業株式会社
20-038	原田 晶三	アンファンテリブル代表
20-015	原田 尹文	有限会社ハラダ代表取締役
20-027	東 宣江	群馬県蚕糸館主宰
20-008	兵頭 眞通	愛媛蚕種株式会社代表取締役
20-007	深田 祥二	株式会社深田商店専務取締役
22-006	福田 喜重	株式会社福田喜代表取締役
20-039	福田 隆	株式会社龍工房代表取締役
20-050	福地 圭一	丸八生糸株式会社
19-023	福永 吉穂	江一株式会社原糸事業部長
20-046	藤井 浩一	藤井絞株式会社取締役部長
20-069	藤井 美登利	川越むかし工房代表
20-011	星野 伸男	新增澤工業株式会社代表取締役
20-055	堀内 新也	農業、地域（繭）マイスター
20-051	舞鶴 一雄	株式会社西陣まいづる代表取締役社長
21-013	眞浦 正徳	山梨県中小企業団体中央会応援コーディネーター
21-019	前田 市郎	株式会社前田源商店取締役
20-054	前田 勝臣	株式会社日本クリエイティブセンター代表取締役
20-010	前田 進	有限会社スリーエスプランニング代表取締役
20-047	松井 慎一郎	加賀グンゼ株式会社代表取締役
20-028	松澤 清典	松澤製糸所
20-033	松本 信孝	有限会社ハック代表取締役
19-016	宮坂 照彦	株式会社宮坂製糸所代表取締役
20-026	宮沢 巳起代	有限会社塩野屋東京事務所スタッフ
20-022	宮 忠光	株式会社伊と幸取締役副部長
20-021	本橋 伸夫	株式会社伊と幸取締役営業本部長
20-070	藪内 猛之	株式会社ヤブウチ代表取締役
20-078	藪垣 茂仁	田中種株式会社仕入担当
20-068	山口 治之	丹波生糸株式会社代表取締役
21-018	山崎 泰洋	山崎織物株式会社代表取締役
20-017	山根 敏男	松村株式会社繊維原料部部門長
20-062	吉川 幸四郎	有限会社吉川商事代表取締役
20-073	渡邊 健次	渡文株式会社代表取締役専務
20-029	渡邊 英夫	橋本レース株式会社

登録番号	氏名	所属・役職名
20-024	野中 康雄	株式会社伊と幸和装部次長
19-015	萩原 和憲	碓氷製糸農業協同組合総務主任
19-018	服部 芳和	有限会社織道楽塩野屋代表
22-005	濱田 俊哉	西川産業株式会社商品第一部ふとん2課
20-056	林 太一	昭和撚糸工業株式会社
20-038	原田 晶三	アンファンテリブル代表
20-015	原田 尹文	有限会社ハラダ代表取締役
20-027	東 宣江	群馬県蚕糸館主宰
20-008	兵頭 眞通	愛媛蚕種株式会社代表取締役
20-007	深田 祥二	株式会社深田商店専務取締役
22-006	福田 喜重	株式会社福田喜代表取締役
20-039	福田 隆	株式会社龍工房代表取締役
20-050	福地 圭一	丸八生糸株式会社
19-023	福永 吉穂	江一株式会社原糸事業部長
20-046	藤井 浩一	藤井絞株式会社取締役部長
20-069	藤井 美登利	川越むかし工房代表
20-011	星野 伸男	新增澤工業株式会社代表取締役
20-055	堀内 新也	農業、地域（繭）マイスター
20-051	舞鶴 一雄	株式会社西陣まいづる代表取締役社長
21-013	眞浦 正徳	山梨県中小企業団体中央会応援コーディネーター
21-019	前田 市郎	株式会社前田源商店取締役
20-054	前田 勝臣	株式会社日本クリエイティブセンター代表取締役
20-010	前田 進	有限会社スリーエスプランニング代表取締役
20-047	松井 慎一郎	加賀グンゼ株式会社代表取締役
20-028	松澤 清典	松澤製糸所
20-033	松本 信孝	有限会社ハック代表取締役
19-016	宮坂 照彦	株式会社宮坂製糸所代表取締役
20-026	宮沢 巳起代	有限会社塩野屋東京事務所スタッフ
20-022	宮 忠光	株式会社伊と幸取締役副部長
20-021	本橋 伸夫	株式会社伊と幸取締役営業本部長
20-070	藪内 猛之	株式会社ヤブウチ代表取締役
20-078	藪垣 茂仁	田中種株式会社仕入担当
20-068	山口 治之	丹波生糸株式会社代表取締役
21-018	山崎 泰洋	山崎織物株式会社代表取締役
20-017	山根 敏男	松村株式会社繊維原料部部門長
20-062	吉川 幸四郎	有限会社吉川商事代表取締役
20-073	渡邊 健次	渡文株式会社代表取締役専務
20-029	渡邊 英夫	橋本レース株式会社

純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧

純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧

平成 22 年 6 月 16 日現在

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
1	株式会社 千總	後染織物（訪問着・付下・色無地、振袖）、胴裏地
2	株式会社 織匠田歌	先染反物、先染帯
3	有限会社 ミラノリブ	洋装品（婦人服（トップス、ボトム）、ソックス、ショール、ストール、スカート、ネクタイ、ニットタイ、ベスト）
4	株式会社 丸上	後染反物（色無地、小紋、付下、黒紋付）
5	株式会社 坂本屋	後染反物（色無地）、胴裏絹（灰汁浸け加工）
6	有限会社 平原	後染反物（色無地、黒紋付）
7	株式会社 信盛堂	後染反物（色無地、黒紋付）
8	株式会社 きものアイ	後染反物（色無地）
9	株式会社 上庵	後染反物（色無地、黒紋付）
10	有限会社 樹	後染反物（色無地、黒紋付）
11	株式会社 銀座もとじ	白生地、後染反物、大島紬、結城紬、染織作家製品、八掛、御召
12	河瀬満織物 株式会社	先染帯
13	有限会社 織匠小平	先染帯
14	門倉メリヤス 株式会社	洋装品（紳士靴下、ジャケット、セーター、カーディガン、パンツ、スカート、帽子）
15	株式会社 結華	後染反物（色無地、黒紋付）
16	株式会社 絹回廊	後染反物（色無地）
17	有限会社 琴路屋	後染反物（色無地、黒紋付）
18	有限会社 大善屋呉服店	後染反物（色無地、黒紋付）
19	丸善本店	後染反物（色無地、黒紋付）
20	呉服のささき	後染反物（色無地、黒紋付）
21	日本蚕糸絹業開発協同組合	胴裏、長襦袢地、白生地、八掛、比翼地、後染反物（作家もの、黒紋付）
22	宮階織物 株式会社	先染反物、後染反物
23	21世紀の絹を考える会	帯（草木染袋帯、唐織袋帯、先染袋帯）、後染反物（色無地、訪問着）
24	碓氷製糸農業協同組合	白生地
25	丸幸織物 有限会社	白生地
26	織匠 万勝	帯地、先染着尺、後染着尺
27	有限会社 織道楽塩野屋	洋装品（マフラー、シャツ）、ニット（ウォーマー・腹巻、手袋・靴下）
28	株式会社 丸万中尾	後染反物（江戸小紋、色無地、変一越）、帯
29	株式会社 むらかね	後染反物（色無地、黒紋付）
30	株式会社 高島屋	後染反物（振袖、七五三着物）、長襦袢地
31	株式会社 さが美	後染反物（冬用・夏用黒紋付、色無地）
32	有限会社 まるけい	後染反物（色無地、黒紋付）
33	有限会社 特選呉服専門店後藤	後染反物（色無地、黒紋付）
34	株式会社 小いけ	後染反物（色無地、黒紋付）
35	株式会社 伊と幸	後染反物（色無地）、白生地
36	株式会社 四季のきもの おおにし	後染反物（色無地、黒紋付）
37	株式会社 和幸	後染反物（色無地、黒紋付）
38	株式会社 栞屋高尾	帯（袋帯）
39	株式会社 つるや	後染反物（色無地、黒紋付）
40	株式会社 越後屋	後染反物（色無地、黒紋付）
41	株式会社 小倉商店	先染反物（結城紬）、帯（結城紬）
42	染織家 柳 崇	先染反物、帯
43	染織家 児玉 京子	先染反物
44	草木染工房山村	先染反物、帯、ストール
45	手織り よおん	先染反物、帯
46	祝嶺染織研究所	先染反物、帯
47	株式会社 龍工房	組紐
48	からん工房	先染反物（紋紬）、先染反物（緋）、帯
49	たわた工房	先染反物、帯
50	山音 株式会社	後染反物（変三越、駒紬）
51	やまと 株式会社	後染反物
52	株式会社 御園織物	先染反物、帯
53	桜井 株式会社	帯
54	有栖川織物 有限会社	帯
55	太田和 株式会社	先染反物（結城紬）、帯（結城紬）
56	株式会社 岩田	帯
57	有限会社 神原呉服店	後染反物（色無地、黒紋付）
58	浅山織物 株式会社	帯
59	株式会社 やまと	帯

蚕糸関係博物館一覽

名 称	〒	住 所	電 話
蚕糸・織物関連の展示を目的としている施設			
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-22-1325
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地 (敷島公園バラ園内)	027-231-9875
織物参考館“紫”(ゆかり)	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
きもの芸術館 ((財) 日本きもの文化協会)	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F ~ 8F	03-3400-0286
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2-24-16	042-388-7163
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3-22-7	03-3299-2387
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989-2	0426-76-4064
シルク博物館	231-0023	神奈川県横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
絹系紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ (株) 内	0268-41-1800
岡谷蚕糸博物館	394-0028	長野県岡谷市本町 4 丁目 1 番 39 号	0266-22-5854
浦野染織資料博物館	393-0066	長野県諏訪郡下諏訪町曙町 5350	0266-27-8503
常田館 (絹の資料館)	386-0018	長野県上田市常田 1-10-3 笠原工業 (株) 内	0268-22-1230
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
キナーレきもの歴史館	948-0003	新潟県十日町市本町 6 十日町ステージ越後妻有交流館内	0257-52-0117
まゆの資料館	410-3612	静岡県賀茂郡松崎町宮内 263-2	0558-42-3912
石川繊維資料館	400-0886	愛知県豊橋市東小田原町 109-1	0532-52-5265
川島織物セルコン、織物文化館	601-1123	京都府京都市左京区静海市原町 265	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都府京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都府京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
ゲンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 ゲンゼ (株) 周辺敷地内	0773-43-1050
上垣守国養蚕記念館	667-0311	兵庫県養父市大屋町大家市場 117	0796-69-1580
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町甲 1577 番地	0889-26-1002
展示の一部に蚕糸・織物関連がある施設			
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204-1	059-293-0010
佐野市郷土博物館	327-0003	栃木県佐野市大橋町 2047	0283-22-5111
大間々町歴史民族館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619-1	055-269-3399
日本司法博物館 (松本歴史の里)	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196-1	0263-47-4515
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564-1	0268-42-2158
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299-1	0574-28-1110
その他関連施設			
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
夕鶴の里資料館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025-2	0238-47-5800
松ヶ丘開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ丘 29	0235-62-3985
結城紬関連施設 (結城市伝統工芸館)	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018-1	0296-32-7949
たくみの里木織の家「椽」(つるばみ)	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-1308
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3-26-2	0424-81-7656
相模田名名家資料館	229-1124	神奈川県相模原市田名 4853 番 2 (大杉公園隣り)	042-761-7118
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618-4	0263-83-3835
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号 (上田城跡公園内)	0268-22-1274
塩沢つむぎ記念館 (織の文化館)	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227-1	0257-82-4888
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1-8-25	0258-83-4800
白山工房 (織りの資料館)	920-2501	石川県白山市白峰村ヌ 17	076-259-2859
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野 514	0749-37-4131
織元田勇 (田勇機業株式会社)	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112	0772-72-0307
まゆ村	616-8384	京都府京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
シルク染め織り館	699-5216	島根県鹿足郡津和野町池村 1997-4	0856-74-0784

【行 政】

農林水産省
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>
<http://www.meti.go.jp/>

【蚕糸絹業関係団体】

(財) 大日本蚕糸会
(社) 日本絹業協会 (シヤハ^ンシルクセンタ-)
(社) 日本生糸問屋協会
(財) 日本真綿協会
丹後織物工業組合
西陣織工業組合
T A F S (東京織物卸商業組合)
K O M S (京都織物卸商業組合)
京都和装産業振興財団
(財) 伝統的工艺品産業振興協会

<http://www.silk.or.jp>
<http://www.silk-center.or.jp>
<http://homepage1.nifty.com/nittonkyo/>
<http://www.mawata.or.jp/>
<http://www.tanko.or.jp/>
<http://www.nishijin.or.jp/>
<http://www.taafs.or.jp/>
<http://www.fashion-kyoto.or.jp/>
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>
<http://www.kougei.or.jp/>

【大学・試験研究機関】

(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室
<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>

(国) 東京農工大学農学部生物生産学科
<http://www.tuat.ac.jp/~aaseisan/>

(国) 東京農工大学工学部生命工学科
<http://www.tuat.ac.jp/~seimei/>

(国) 京都工芸繊維大学工学部応用生物学課程
<http://www.bio.kit.ac.jp/>

(国) 京都工芸繊維大学
<http://www.kit.ac.jp/>

(国) 信州大学繊維学部
<http://www.tex.shinshu-u.ac.jp/>

(国) 名古屋大学農学部
<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>

(国) 北海道大学応用分子生物学講座
http://www.hokudai.ac.jp/agricu/organization/bunya/l_in_bunshi_seibuts.html

(国) 九州大学大学院遺伝育種学講座蚕学研究室
<http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/agpm/sangaku/>

(国) 九州大学大学院遺伝子資源工学専攻
http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/grt/igr/new_lab/index.html

(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース
<http://www.news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/department/bio/biofunc/index.html>

(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科
<http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>

(独) 農業生物資源研究所
<http://www.nias.affrc.go.jp>

(財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所
http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html

(財) 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所
http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html

群馬県蚕糸技術センター (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>蚕糸技術センター)
http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=50545

群馬県繊維工業試験場 (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>繊維工業試験場)
http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=59241

京都府織物・機械金属振興センター
<http://www.silk.pref.kyoto.jp/index-sub.html>

京都市産業技術研究所繊維技術センター
<http://www.ktri.city.kyoto.jp/mainpage/sikenjo.html>

【学 会】

日本シルク学会
日本蚕糸学会

<http://www.silk.or.jp/ssstj/>
<http://www.soc.nii.ac.jp/jsss2/>

【博物館】

(財) シルクセンタ-国際貿易観光会館 シルク博物館
群馬県立日本絹の里
東京農工大学科学博物館

<http://www.silkmuseum.or.jp/>
<http://www.nippon-kinunosato.or.jp/>
<http://www.tuat.ac.jp/~museum/index.html>

統計資料目次

<国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	76
(2) 養蚕業の概要	77
(3) 養蚕農家数の推移	78
(4) 収繭量の推移	79
(5) 都府県別養蚕農家数、桑使用面積、収繭量 (2008年)	80
(6) 蚕品種別蚕種製造数量 (2008年)	81
(7) 生糸需給状況及び絹糸、絹織物の輸出入状況	82
(8) 生糸の織度別生産数量の推移	83
(9) 国内生糸価格実態	84
(10) 絹需給の推移 (生糸量換算試算)	86
(11) 品目別・二次製品輸入数量 (生糸量換算試算)	87
(12) 製糸工場の原料繭需給	88
(13) 製糸工場の操業状況	89
(14) 生糸在庫数量の内訳	90
(15) 蚕糸関係品目別輸入状況	91
(16) 生糸原産国別輸入状況	92
(17) 絹糸原産国別輸入状況	93
(18) 織物生産状況	94
(19) 丹後、長浜、西陣の絹織物生産状況	95
(20) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況	96

<海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	97
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	98
(3) 中国省別家蚕繭生産数量、生糸生産数量、製糸工場数	99
(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移	100
(5) 中国のシルク類 (生糸、絹糸、絹織物) の輸出状況	101
(6) ブラジルの繭、生糸の生産数量の推移	102
(7) ブラジルの生糸、絹糸及び副蚕糸の内需、輸出別販売状況	103

-資料・国内-

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk-Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production トン t	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer kg	生糸 生産量 Raw Silk Production 千俵 1,000 Bale of 60kg	運転 工場数 Number of Mills 工場 Number	稼働率 Operation ratio %	絹人織機 設備台数 (保有台 数) Number of 千台 1,000	絹織物 生産量 Silk Fabric Production 千㎡ 1,000 sq. meters
平成 3 年 1991	44,010	20,821	473	91.4	50	75	161.7	76,089
1992 4 年	34,880	15,553	446	84.1	49	75	148.8	72,901
1993 5 年	27,180	11,212	412	70.3	45	72	138.1	66,801
1994 6 年	19,040	7,724	406	64.5	39	69	102.7	61,653
1995 7 年	13,640	5,350	392	53.4	29	63	94.2	54,131
1996 8 年	7,890	3,021	383	42.7	26	58	84.7	53,815
1997 9 年	6,310	2,516	399	31.5	18	67	81.6	52,031
1998 10 年	5,070	1,980	390	18.4	13	76	74.5	38,673
1999 11 年	4,030	1,496	371	10.8	8	73	67.4	33,425
2000 12 年	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
2001 13 年	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
2002 14 年	2,360	880	373	6.5	17	68	51.2	26,826
2003 15 年	2,070	780	377	4.8	14	64	48.7	23,935
2004 16 年	1,850	683	369	4.4	13	62	45.6	21,895
2005 17 年	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
2006 18 年	1,345	505	375	2.0	9	82	41.6	18,507
2007 19 年	1,169	433	370	1.8	8	83	40.0	15,466
2008 20 年	1,021	382	374	1.6	6	80	38.1	14,043
2009 21 年	900	327	363	1.2	6	60	34.9	11,472
前年対比 (%)	88.1	85.6	97.1	75.0	100.0	75.0	91.6	81.7

資料・養蚕業及び製糸業は農林水産省生産局調査によるものである。
 ただし、平成13年以前の養蚕業は農林水産省統計部調査であり、平成21年以降の養蚕業は全国農業協同組合連合会調査である。
 ・絹業は経済産業省調査によるものである。平成18年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。
 (注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、平成14年以降はすべての製糸工場のものである。

Source: The Regional Products and Industrial Crops Division, Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling)
 The Statistic Department, MAFF (Sericultural industry, before 2001)
 National Federation of Agricultural Co-operative Associations (Sericultural industry, after 2009)
 The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all reeling mills)

(2) 養蚕業の概要

Outline of Sericultural Industry

項目 Item	養蚕農家数	桑栽培面積	桑使用面積	蚕種 掃立卵量	1箱当り 收繭量	收繭量	1戸当り 栽培面積	1戸当り 掃立卵量	1戸当り 收繭量
	Farm house- holds raising silk-worm	Growing area of mulberry	Harvested area of mulberry	Silk-worm eggs used 1,000cases	Cocoon production per box of silk-worm eggs used	Cocoon production	Growing area of mulberry per farm household raising silk-worm	Box of silkworm eggs used per farm household raising silk-worm	Cocoon production per farm household raising silk-worm
年次 Year	戸 number	100ha	100ha	1000箱 1,000cases	kg	t	a	箱 box	kg
1993	27,200	425	239	319	35	11,212	156	12	412
1994	19,000	339	173	228	34	7,724	178	12	406
1995	13,600	263	117	155	35	5,350	193	11	392
1996	7,890	193	66	87	35	3,021	244	11	382
1997	6,310	138	54	74	34	2,516	219	12	399
1998	5,070	103	44	60	33	1,980	203	12	390
1999	4,030	74	33	45	33	1,496	184	11	371
2000	3,280	59	27	37	33	1,244	179	11	379
2001	2,730	48	23	31	34	1,031	174	11	378
2002	2,360	43	22	26	34	880	182	11	373
2003	2,070	38	19	23	33	780	185	11	374
2004	1,850	34	18	21	38	683	186	11	369
2005	1,591	30	16	18	34	626	188	12	396
2006	1,345	27	14	15	34	505	198	11	375
2007	1,169	24	12	13	35	433	202	11	371
2008	1,021	20	10	11	36	382	197	10	374
対前年比 2008/07(%)	87.3	83.3	83.3	84.6	102.9	88.2	97.5	90.9	100.8

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、農林水産省生産局調査（2002年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001) .
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2002～) .

(3) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)
(Unit: number)

年次 Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
1993		27,180	24,160	17,450	20,740
1994		19,040	16,790	13,190	14,790
1995		13,640	12,450	9,560	9,580
1996		7,890	6,980	5,000	6,290
1997		6,310	5,650	4,420	5,120
1998		5,070	4,550	3,750	4,120
1999		4,030	3,600	2,710	3,280
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
2008		1,021	929	613	857
対前年比 2008/07 (%)		87.3	88.3	84.4	86.7

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年、参考数値）、
農林水産省生産局調査（2005年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004) .
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～) .

(4) 収繭量の推移
Cocoon Production

項目 Item 年次 Year	年計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm				桑使用面積 10a当たり 収繭量(年間) Cocoon production per farm harvested area of mulberry
	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	kg/10a
	t	t	t	t	kg	kg	kg	kg	kg/10a
1993	11,212	4,624	3,060	3,529	412	191	175	170	47
1994	7,724	3,036	2,044	2,644	406	181	155	170	46
1995	5,350	2,222	1,477	1,651	392	178	155	172	46
1996	3,021	1,184	747	1,090	382	170	149	173	46
1997	2,516	982	678	857	398	174	153	167	46
1998	1,980	769	588	623	390	169	157	151	45
1999	1,496	596	391	509	371	166	144	155	46
2000	1,244	500	320	424	379	169	148	157	47
2001	1,031	391	275	365	378	162	147	161	47
2002	880	330	231	320	373	166	134	167	40
2003	775	313	210	253	374	167	140	144	40
2004	675	256	176	243	369	158	128	157	38
2005	626	243	165	218	396	171	156	162	40
2006	505	209	122	173	375	172	143	157	36
2007	433	175	110	148	371	166	152	150	37
2008	382	147	96	139	374	158	157	162	39
対前年比 2008/07 (%)	88.2	84.0	87.3	93.9	100.8	95.2	103.3	108.0	105.4
構成比 (%)	100.0	38.5	25.1	36.4					

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年、参考数値）、
農林水産省生産局調査（2005年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～).

(5) 都府県別養蚕農家数・桑使用面積・収繭量 (2008年)

Farm households raising silk-worm, Harvested area of mulberry and Cocoon production by prefectures in 2008

項目 Item Each Prefecture	年計 Annual total			春繭 spring silk-worm		初秋繭 Early autumn silk-worm		晩秋繭 late autumn silk-worm	
	養蚕農家数	桑使用面積	収繭量	養蚕農家数	収繭量	養蚕農家数	収繭量	養蚕農家数	収繭量
	Farm households raising silk-worm	Harvested area of mulberry	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production
	number	ha	t	number	t	number	t	number	t
岩手 Iwate	29	30	11.0	22	2.8	21	4.0	26	4.2
宮城 Miyagi	39	37	13.0	28	4.6	28	3.8	32	4.5
山形 Yamagata	15	24	5.6	12	2.2	11	1.3	13	2.2
福島 Fukushima	104	116	51.3	99	18.1	33	14.2	89	19.1
茨城 Ibaragi	39	30	14.5	39	5.8	32	3.8	33	5.0
栃木 Tochigi	50	86	39.4	48	14.8	35	7.4	46	17.2
群馬 Gunma	417	471	161.2	383	63.2	249	40.9	370	57.2
埼玉 Saitama	97	75	32.8	93	12.1	74	8.7	83	12.0
千葉 Chiba	13	6	3.9	12	1.4	6	0.7	10	1.8
神奈川 Kanagawa	12	..	2.3	11	0.9	9	0.6	12	0.9
山梨 Yamanashi	34	26	11.7	30	5.6	15	2.3	22	3.8
長野 Nagano	46	32	13.2	42	5.4	37	3.4	35	4.4
岐阜 Gifu	28	12	4.4	24	2.1	13	0.5	22	1.7
徳島 Tokushima	23	10	4.6	22	2.4	13	1.0	16	1.2
愛媛 Ehime	22	19	7.6	16	2.8	21	2.5	18	2.4
熊本 Kumamoto	11	4	1.3	11	0.9	6	0.2	7	0.2
その他 Others	42	14	4.0	37	1.6	10	0.7	23	1.3
全国計 Total	1,021	992	381.8	929	146.7	613	96.0	857	139.1

資料：農林水産省生産局調査。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(6) 蚕品種別蚕種製造数量 (2008年)

Production by Sort of Silk-worm Eggs

	2007年夏秋蚕用 for summer & autumn rearing		2008春蚕用 for spring rearing		2008夏秋蚕用 for summer & autumn rearing		合 計 Total	
	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate
錦 秋 × 鐘 和	2,600	73.5			2,380	67.9	4,980	33.5
春 嶺 1 号 × 鐘 月 1 号			2,390	30.6	360	10.3	2,750	18.5
ぐ ん ま × 200	302	8.5	1,575	20.2	210	6.0	2,087	14.1
錦 秋 1 号 × 鐘 和 1 号			1,910	24.5			1,910	24.5
春 嶺 × 鐘 月			1,100	14.1			1,100	14.1
朝 ・ 日 × つくば・ね			100	1.3	500	14.3	600	4.0
新 小 石 丸	119	3.4	243	3.1			362	2.4
改 良 あ け ぼ の	180	5.1	80	1.0	50	1.4	310	2.1
世 ・ 紀 × 二 ・ 一	108	3.1	99	1.3			207	1.4
上 州 絹 星	101	2.9	101	1.3			202	1.4
ぐ ん ま 黄 金	14	0.4	125	1.6	3	0.1	142	1.0
芙 ・ 蓉 × つくば・ね	100	2.8					100	0.7
蚕 太			41	0.5			41	0.5
新 青 白	11	0.3	23	0.3			34	0.3
小 石 丸			24	0.3			24	0.3
合 計 Total	3,535	23.8	7,811	52.6	3,503	23.6	14,849	100.0

資 料 : 農林水産省生産局調査。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export Balance of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量 Production (A)	輸入数量 Imports (B)	輸出数量 Exports (C)	国内引渡 数量 Domestic Deliveries (D)	期末在庫 数量 Ending Stocks (E)	輸入数量 Imports (F)	輸出数量 Exports (G)	輸入数量 Imports (H)	輸出数量 Exports (I)
暦年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2003	4,791	30,827	1,510	34,166	25,897	33,044	183	12,544	7,111
2004	4,387	26,008	12,500	29,585	14,207	29,774	331	13,127	7,274
2005	2,508	22,017	4,125	26,429	8,178	32,700	609	15,999	8,252
2006	1,956	19,974	—	20,752	9,356	31,524	568	12,959	7,578
2007	1,747	12,601	—	15,624	7,879	19,439	404	11,355	7,184
2008	1,588	15,031	—	20,115	4,584	22,636	466	11,640	7,126
2009	1,161	12,085	—	13,775	4,055	16,647	388	8,996	6,269
生糸年度 Silk Year									
2002	5,953	30,510	—	35,462	26,794	28,150	154	11,747	6,986
2003	4,517	30,411	6,635	33,333	21,754	33,261	182	13,036	7,206
2004	3,868	20,154	11,500	27,002	7,274	30,204	565	14,130	7,286
2005	2,024	26,365	—	25,737	9,926	36,113	500	16,121	8,655
2006	1,794	13,394	—	16,873	8,241	21,561	534	10,730	7,152
2007	1,762	15,564	—	20,286	5,281	22,936	433	12,255	6,087
2008	1,378	12,137	—	14,638	4,158	18,716	378	10,320	6,806
2009 -									
2	109	516	—	989	4,210	801	6	424	581
3	111	921	—	880	4,362	1,213	19	730	591
4	111	529	—	797	4,205	1,459	26	834	574
5	91	1,379	—	1,517	4,158	1,092	33	727	526
6	101	800	—	1,218	3,841	1,363	54	900	514
7	94	927	—	957	3,905	1,656	49	793	504
8	88	921	—	847	4,060	1,646	37	683	469
9	94	1,174	—	1,117	4,211	1,525	31	603	448
10	93	1,083	—	1,440	3,947	1,664	26	737	657
11	86	1,060	—	1,365	3,728	1,525	65	733	476
12	82	1,771	—	1,526	4,055	1,423	37	715	529
2010 -									
1	71	1,061	—	1,239	3,948	1,683	21	781	444
2	78	722	—	930	3,818	1,435	4	563	485
3	87	1,182	—	1,437	3,650	1,051	13	600	618
09.6~10.3	874	10,701	—	12,076	3,818	14,971	337	7,108	5,114
08.6~09.3	1,176	10,229	—	12,324	3,650	16,165	319	8,798	5,706

資料 : (A) (C) (D) (E) 農林水産省生産局調査。(B) 財務省関税局調査、ただし96年1月から08年3月までの輸入は、農畜産業振興機構調査の実需者輸入分と一般者輸入分を合わせた数値。(F) (G) (H) (I) 財務省関税局調査。

備考 : 1. 国内引渡数量(D) = {前月在庫数量+(A)+(B)} - {(C)+(E)}。
2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : (A) (C) (D) (E) The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.
(B) The Customs Bureau, Ministry of Finance. But the figures for raw silk imports have been based on date of the Agriculture & Livestock Industries Corporation since Jan. 1996 until Mar. 2008, excluding bonded silk.
(F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Domestic deliveries(D) = {Stock at end of the previous month+(A)+(B)} - {(C)+(E)}.
2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(8) 生糸の織度別生産数量の推移

Raw Silk Production by Sizes

(単位：60kg俵)

(Unit: Bales of 60kg)

年 月 Year & Month	項 目 Item	生 糸 Raw Silk					
		計 Total	18デニール以下 17/19or 17/19 finer	21デニール 20/22	27デニール 26/28	31デニール 30/32	その他 Others
暦 年 Calendar Year							
2003		4,791	13	343	2,865	1,038	533
2004		4,387	2	471	2,389	948	581
2005		2,508	8	337	834	799	527
2006		1,956	4	240	531	653	523
2007		1,747	5	259	495	514	474
2008		1,588	4	289	421	368	503
2009		1,152	1	243	392	251	262
生糸年度 Silk Year							
2002		5,953	8	316	3,273	1,649	706
2003		4,517	7	334	2,689	955	530
2004		3,868	4	482	1,845	918	622
2005		2,024	6	261	510	726	518
2006		1,794	4	269	480	562	475
2007		1,762	5	276	443	495	537
2008		1,378	1	291	447	280	360
2009 -	2	109	—	29	33	20	28
	3	111	—	31	42	14	24
	4	111	—	32	32	21	26
	5	91	0	17	25	23	25
	6	101	0	11	37	23	29
	7	94	0	19	37	23	14
	8	88	0	11	39	17	20
	9	94	0	14	36	22	22
	10	93	0	24	26	24	18
	11	86	0	12	25	25	24
	12	73	0	20	26	11	16
2010 -	1	70	0	25	15	10	19
	2	78	0	10	42	8	17
	3	87	0	19	28	27	13

資 料：農林水産省生産局調査。

備 考：kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks : Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(9)国産生糸価格実態

Japanese Raw Silk Actual Condition Price

単位:円/kg

(Unit:Yen/kg)

織度 Size	21d	27d	31d	平均 Average
平成 17 年	3,870	3,173	3,107	3,383
平成 18 年	4,617	4,267	4,080	4,321
平成 19 年	3,961	3,625	3,573	3,720
平成 20 年	4,266	3,754	3,489	3,836
平成 21 年	4,171	3,598	3,136	3,635
平成 20 年 10 月	4,363	3,885	3,539	3,929
11 月	4,140	3,809	3,461	3,803
12 月	4,087	3,883	3,403	3,791
平成 21 年 1 月	4,209	3,652	3,374	3,745
2 月	4,020	3,695	3,380	3,698
3 月	4,160	3,655	3,139	3,836
4 月	4,400	3,665	3,167	3,744
5 月	4,318	3,402	3,243	3,654
6 月	3,917	3,499	3,068	3,494
7 月	4,106	3,562	2,914	3,527
8 月	4,186	3,841	2,912	3,646
9 月	4,150	3,627	2,986	3,588
10 月	4,149	3,450	3,195	3,598
11 月	4,461	3,547	3,145	3,718
12 月	3,980	3,581	3,055	3,539
平成 22 年 1 月	3,900	3,876	3,643	3,806
2 月	4,200	3,682	3,281	3,721
3 月	4,000	3,758	3,327	3,695

注 :国産生糸価格実態は、調査対象生糸売買業者の平均取引価格である。

資料:(社)日本生糸問屋協会

Remarks: Japan raw silk actual condition price is average trade price among domestic dealers

Source:Japan Raw Silk Dealers Association

(参考) 中国生糸電子取引値段

China Raw Silk Monthly Prices of Electric Contract Traded

生糸A類(21デニール5A)
Standard Raw Silk:21d 5A

上段単位:元/kg、下段:円/kg
(Upper Sec Unit:Yuan/kg,Lower Sec Unit:Yen/kg)

	限月 Month	単位	始値 Open	安値 Low	高値 High	終値 Close
4月中	4月	元	261.06	261.06	261.90	261.90
		円	3,524	3,524	3,536	3,536
	5月	元	261.24	261.24	262.80	262.80
		円	3,527	3,527	3,548	3,548
	6月	元	258.00	258.00	259.38	259.38
		円	3,483	3,483	3,502	3,502
	7月	元	255.96	255.96	258.30	258.30
		円	3,455	3,455	3,487	3,487
	8月	元	255.06	255.06	257.46	257.46
		円	3,443	3,443	3,476	3,476
	9月	元	253.44	253.44	256.20	256.20
		円	3,421	3,421	3,459	3,459
	10月	元	260.70	260.70	264.00	264.00
		円	3,520	3,520	3,564	3,564
	11月	元	251.04	251.04	253.68	253.68
		円	3,389	3,389	3,425	3,425
	1月	元	250.68	250.68	253.44	253.44
		円	3,384	3,384	3,421	3,421
3月	元	250.62	250.62	253.98	253.98	
	円	3,383	3,383	3,429	3,429	

	限月 Month	単位	始値 Open	安値 Low	高値 High	終値 Close
5月中	5月	元	268.80	268.80	269.03	269.03
		円	3,629	3,629	3,632	3,632
	6月	元	265.13	265.13	265.58	265.58
		円	3,579	3,579	3,585	3,585
	7月	元	266.55	266.55	267.08	267.08
		円	3,598	3,598	3,606	3,606
	8月	元	266.10	266.10	266.78	266.78
		円	3,592	3,592	3,601	3,601
	9月	元	265.50	265.50	266.03	266.03
		円	3,584	3,584	3,591	3,591
	10月	元	264.60	264.60	264.90	264.90
		円	3,572	3,572	3,576	3,576
	11月	元	263.33	263.33	263.93	263.93
		円	3,555	3,555	3,563	3,563
	1月	元	263.18	263.18	263.63	263.63
		円	3,553	3,553	3,559	3,559
	3月	元	265.58	265.58	265.80	265.80
		円	3,585	3,585	3,588	3,588

円換算レートは、1元=13.50円である。

資料: 中国繭絲綢交易市場(浙江省嘉興)

Remarks: Rate 1Yuan = 13.50Yen

Source: China Silk Exchange (Zhejiang Sheng Jia Xing)

(10) 絹需給の推移 (生糸量換算試算)

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位: 千俵)

(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④						期末 在庫 Ending Stocks ④	
	期初 在庫 Opening Stocks	生産 Produc- tion	輸 入 Import					輸 出 Export					内 需 Domestic Demand ②-③			
			計 Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second	計 ③ Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second				
1990	462	164	95	203	35	16	59	93	290	13	—	0	9	4	277	172
1991	494	172	92	230	46	29	62	93	327	11	0	0	7	4	316	167
1992	460	167	85	208	26	21	60	101	308	11	—	0	7	4	297	152
1993	483	152	71	260	25	38	65	132	345	11	—	0	7	4	334	138
1994	525	138	65	322	26	37	64	195	390	10	—	0	7	3	380	135
1995	515	135	54	326	30	31	61	204	377	11	0	1	8	2	366	138
1996	507	138	43	326	35	49	62	180	374	13	0	0	9	4	361	133
1997	401	133	32	236	34	35	43	124	270	14	0	0	11	3	256	131
1998	345	131	18	196	28	23	28	117	222	13	0	0	11	2	209	123
1999	361	123	11	227	41	28	31	127	242	13	0	0	11	2	229	119
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
2008	276	71	2	203	15	23	20	145	213	16	0	0	15	1	197	63
2009	237	63	1	173	12	16	15	130	190	16	0	0	15	1	174	47
対前年比 2009/08 (%)	86	89	50	85	80	70	75	90	89	100	—	—	100	100	88	75

資 料 : 蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報より、農林水産省生産局がとりまとめたものである。

ただし、2000年以降は農林水産省生産局の協力により、日本生糸問屋協会が試算推計したものである。

Source : "Silk balance and price situation monthly", "Trade Statistics" (arranged by Agricultural Production Bureau, MAFF)

After 2000, estimated by Raw Silk Dealer's Association through collaboration with Agricultural Production Bureau, MAFF.

(11) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）

Breakdown of Silk Second Products Imports (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000 Bales of 60kg)

項目 Item	暦年 Calendar Year	2003	2004	2005	2006	2007	2008	前年比% y/y	構成比% ratio
	布 は く 製 Product made in cloth	男子用外衣類 Men's upper garments	3.4	2.6	2.7	3.7	3.9	2.5	64.1
女子用外衣類 Women's upper garments		52.0	54.2	59.9	56.6	50.0	40.2	80.4	27.6
うちブラウス Blouse of the inside		3.5	3.5	3.7	3.5	3.0	3.4	113.3	2.3
男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth		5.7	6.3	5.8	5.7	2.2	1.6	72.7	1.1
女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth		14.7	14.7	16.1	15.1	15.0	16.3	108.7	11.2
ハンカチ Handkerchief		0.9	0.8	1.9	1.0	0.5	0.5	100.0	0.3
ショール、スカーフ類 Shawl, scarves		3.5	3.5	3.4	2.7	3.0	2.9	96.7	2.0
ネクタイ類 Ties		26.1	26.4	25.2	21.4	21.6	20.8	96.3	14.3
メリヤス、クロセス編物 Knit. kurose knitting		18.0	19.3	19.9	18.5	21.2	19.8	93.4	13.6
その他の洋装類 Other western clothes		24.1	25.0	26.7	26.3	25.4	23.7	93.3	16.3
洋装類計 Western clothes subtotal	14.7	152.8	161.6	151.0	143.0	128.3	74.2	88.2	
和装類計 Japanese clothes subtotal	12.8	13.5	17.4	18.4	15.5	14.7	94.8	10.1	
うち絹製の帯小物等 Silk obi accessories of the inside	9.4	10.0	14.1	16.0	12.9	12.1	106.6	8.3	
その他 Others	1.5	1.5	2.1	2.5	2.5	2.4	96.0	1.7	
合計 Total		161.7	167.8	181.0	171.9	161.0	145.4	90.3	100.0

資料：財務省「日本貿易月報」により（社）日本生糸問屋協会で作成したものである。

注：ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance "Trade Statistics"
(arranged by Raw Silk Dealer's Association)

Note: Total may not added up due to round off.

(12) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills (単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month	項 目 Item	総 計 Grand Total		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year				
	2003	1,598	1,612	761
	2004	1,291	1,500	553
	2005	866	830	589
	2006	600	646	541
	2007	548	581	505
	2008	393	518	379
	2009	319	388	319
生糸年度 Silk Year				
	2002	1,921	1,972	525
	2003	1,477	1,554	448
	2004	1,056	1,280	224
	2005	839	673	390
	2006	562	599	349
	2007	502	583	266
	2008	399	452	222
Year	Month			
2009	— 2	△ 2	36	320
	3	10	39	291
	4	△ 1	36	253
	5	△ 1	31	222
	6	21	33	209
	7	88	31	266
	8	56	30	292
	9	27	32	287
	10	9	31	265
	11	103	29	340
	12	5	26	319
2010	— 1	16	24	312
	2	△ 1	26	285
	3	△ 1	28	257

資 料：農林水産省生産局調査。

備 考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks : 1. This table includes reelable, dupion and waste cocoons.

2. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

(13) 製糸工場の操業状況
Activities of Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
			運転可能 Operable	運 転 Operating			
暦 年 Calendar Year							
	2002	17	607	414	68	290	263
	2003	14	444	285	64	290	228
	2004	13	426	262	62	292	208
	2005	10	203	126	62	269	111
	2006	9	114	94	82	266	103
	2007	8	112	93	83	266	100
	2008	6	112	90	80	266	90
	2009	6	118	71	60	259	82
	2008 — 3	6	112	96	86	22	99
	4	6	112	100	89	23	101
	5	6	112	100	89	22	101
	6	6	112	95	85	23	100
	7	6	112	92	82	23	99
	8	6	112	91	81	21	92
	9	6	112	84	75	23	91
	10	6	112	87	78	24	92
	11	6	112	94	84	21	89
	12	6	112	90	80	22	90
	2009 — 1	6	112	91	81	20	85
	2	6	118	89	75	21	88
	3	6	118	90	76	22	89
	4	6	118	86	73	22	85
	5	6	118	77	65	20	80
	6	6	118	77	65	23	83
	7	6	118	72	61	23	83
	8	6	118	75	64	20	82
	9	6	118	77	65	22	82
	10	6	118	77	65	24	82
	11	6	118	74	63	21	81
	12	6	118	71	60	21	82
	2010 — 1	6	118	79	67	20	81
	2	6	118	77	65	21	80
	3	6	118	80	68	22	80

資 料 : 農林水産省生産局調査。

備 考 : 1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks : 1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.

2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.

3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(14) 生糸在庫数量の内訳

Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)

(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item	総計 Grand Total	一 般 在 庫 Stock in markets					農畜産業振興機構 Stock of Agriculture & Livestock Industries Corporation		
		計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸市場 売買業者 Dealers	生糸市場外 売買業者 Domestic Dealers	生糸輸出 入業者 Ex and Importers	受入 数量 Accepts	引渡 数量 Deliveries	在庫数量 Ending Stocks
年月 Year & Month									
暦年 Calendar Year									
2003	25,897	8,001	1,663	235	5,784	319	30,827	32,954	17,896
2004	14,207	10,082	2,055	183	7,360	484	26,008	39,779	4,125
2005	8,178	8,178	721	139	7,008	310	22,017	26,142	—
2006	9,356	9,356	446	50	8,606	254	19,974	19,974	—
2007	8,080	8,080	359	20	7,358	343	12,601	12,601	—
2008	4,584	4,584	310	15	3,536	723	1,459	1,459	—
2009	4,055	4,055	355	10	3,162	528			
生糸年度 Silk Year									
2002	26,794	6,771	1,837	445	4,207	282	30,510	30,617	20,023
2003	21,754	9,163	1,842	560	6,516	245	30,411	37,843	12,591
2004	7,274	7,274	1,636	50	5,170	418	20,154	32,745	—
2005	9,926	9,926	373	170	8,923	460	26,365	26,365	—
2006	8,241	8,241	473	20	7,564	184	13,394	13,394	—
2007	5,281	5,281	305	15	4,241	720			
2008	4,158	4,158	376	15	3,266	501			
2009 —									
2	4,210	4,210	329	10	3,261	610			
3	4,362	4,362	333	10	3,366	653			
4	4,205	4,205	361	15	3,248	581			
5	4,158	4,158	376	15	3,266	501			
6	3,841	3,841	382	15	3,056	388			
7	3,898	3,898	381	15	3,062	440			
8	4,060	4,060	362	15	3,156	527			
9	4,211	4,211	345	15	3,264	587			
10	3,947	3,947	339	15	3,055	538			
11	3,728	3,728	359	10	2,926	433			
12	4,055	4,055	355	10	3,162	528			
2010 —									
1	3,948	3,948	355	10	2,995	588			
2	3,818	3,818	351	10	2,961	496			
3	3,650	3,650	342	0	2,863	445			

資料：農林水産省生産局調査。

備考：製糸工場は器械製糸、国用製糸、繭品質評価機関及び玉糸製糸の合計である。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks：Figures for filatures are the sum total of the closing stocks in machine-reeling filatures, reelers of raw silk for domestic use, cocoon quality appraisal stations and doupion reelers.

(15) 蚕系関係品目別輸入状況(平成17年～22年3月)

Breakdown of Silk-Related Products Imports (2005～Mar 2010)

	単位 Unit	平成22年(2010)		平成21年 (2009)	平成20年 (2008)	平成19年 (2007)	平成18年 (2006)	平成17年 (2005)	21年/20年 2009/08 (%)
		(3月) Mar	(累計) Accumulated Total						
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bales of 60kg	1,182	2,965	12,085	15,242	12,858	21,148	22,915	79.3
絹糸 Silk Yarn	俵 Bales of 60kg	1,051	4,169	16,647	22,636	19,439	31,524	32,699	73.5
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bales of 60kg	—	—	149	317	333	430	520	47.0
繭 Cocoon	kg	—	7,000	9,800	4,000	13,750	18,565	16,300	33.7
真綿 Floss Silk	kg	—	—	—	29,071	28,660	34,176	45,186	—
ペニ Peigne	kg	—	—	35,331	2,770	6,336	19,760	15,068	1275.5
くず繭 Waste Cocoon	kg	187	6,494	33,450	23,770	17,184	1,020	3,650	140.7
絹ノイル Silk Noil	kg	—	—	—	202,220	242,082	234,894	216,422	—
その他の絹 くず Other Silk Waste	kg	14,933	37,615	103,122	193,125	238,507	255,951	319,072	53.4
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	15,120	44,109	171,903	450,956	532,769	545,801	878,398	38.1
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other	kg	20,447	99,433	335,710	526,662	608,270	756,065	847,200	63.7
絹紡糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	8,061	36,667	97,554	143,585	117,265	208,913	202,901	67.9
絹織物 Silk Fabrics	m ²	600,363	1,944,637	8,996,010	11,540,335	11,355,333	12,989,059	15,999,327	78.0

資料：財務省関税局

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance

(16) 生糸の原産国別輸入数量
Raw Silk Imports

(単位：60kg 俵)
(Unit: Bales of 60kg)

年 月 Year & Month	国 名 Country	計	中国	ブラジル	ベトナム	タイ	その他	
		Total	China	Brazil	Vietnam	Thailand	Others	
暦年 Calendar Year	2007	12,858 (149)	8,804 (124)	3,848 (25)	-	206 (-)	-	
	2008	15,242 (137)	11,024 (102)	4,101 (35)	-	117 (-)	-	
	2009	12,085 (72)	8,169 (51)	3,855 (21)	11 (-)	50 (-)	-	
生糸年度 Silk Year	2006	13,460 (166)	8,385 (119)	4,454 (42)	5 (5)	174 (-)	-	
	2007	16,185 (93)	11,410 (69)	4,607 (24)	-	168 (-)	-	
	2008	12,138 (103)	8,572 (89)	3,435 (14)	11	122	-	
2008	- 3	1,484 (14)	1,036 (10)	448 (4)	-	-	-	
	4	505	314	191	-	-	-	
	5	3,574 (29)	2,542 (20)	1,026 (9)	-	6	-	
	6	1,362 (5)	1,128	233 (5)	-	1	-	
	7	1,517 (21)	1,090 (21)	407	-	20	-	
	8	1,129 (29)	726 (15)	385 (14)	-	18	-	
	9	1,135 (21)	906 (21)	212	-	17	-	
	10	1,280	913	347	-	20	-	
	11	682 (5)	512	151 (5)	-	20	-	
	12	684 (10)	397 (10)	272	-	14	-	
	2009	- 1	1,004	693	309	-	2	-
		2	516	195	321	-	-	-
3		921 (7)	820 (7)	97	-	5	-	
4		529 (18)	333 (10)	181 (8)	11	5	-	
5		1,379 (5)	859 (5)	520	-	-	-	
6		800	636	162	-	2	-	
7		927	842	79	-	6	-	
8		921 (10)	819 (10)	96	-	7	-	
9		1,174	890	284	-	-	-	
10		1,083 (15)	776 (2)	299 (13)	-	7	-	
11		1,060 (16)	500 (16)	553	-	7	-	
12		1,771	807	954	-	10	-	
2010	- 1	1,061	857	205	-	-	-	
	2	722	490	229	-	3	-	
	3	1,182 (5)	639	512 (5)	-	31	-	

資料：財務省関税局調査

備考：1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。
2. () 書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Country volume may not add up the total volume due to round off.
2. Figures in parenthesis indicate the break down for doupion silk imports.

(17) 絹糸の原産国別輸入数量
Silk Yarn Imports

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

年月 Year&Month	国名 Country	計 Total	韓国 S Korea	中国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others	
暦年 Calendar Year										
2006		31,524	94	17,019	8,706	27	—	5,675	3	
2007		19,439	21	11,726	4,743	12	1	2,930	7	
2008		22,636	30	12,513	6,865	12	—	3,204	12	
2009		16,647	—	9,655	5,096	10	—	1,742	144	
生糸年度 Silk Year										
2005		36,113	143	21,337	8,983	18	—	5,621	8	
2006		21,561	78	11,212	5,735	18	1	4,518	3	
2007		22,936	7	13,263	6,344	15	—	3,297	10	
2008		18,716	23	10,677	5,700	11	—	2,242	64	
2008	—	3	1,689	7	871	418	1.0	—	390	2
	4	2,220	—	1,187	660	5	—	366	2	
	5	2,067	—	1,146	615	—	—	304	2	
	6	2,087	23	1,302	600	—	—	161	1	
	7	2,459	—	1,502	555	2	—	400	—	
	8	2,311	—	1,275	753	1	—	282	—	
	9	1,979	—	1,103	644	1	—	226	5	
	10	1,451	—	781	462	—	—	208	—	
	11	1,518	—	645	687	—	—	186	1	
	12	1,065	—	609	279	2	—	174	1	
2009	—	1	1,281	—	842	278	—	—	159	2
	2	801	—	253	463	—	—	65	19	
	3	1,213	—	734	300	3	—	176	—	
	4	1,459	—	959	317	—	—	148	35	
	5	1,092	—	672	362	2	—	57	—	
	6	1,363	—	768	489	—	—	106	—	
	7	1,656	—	1,046	438	—	—	171	—	
	8	1,646	—	842	664	—	—	140	—	
	9	1,525	—	911	447	4	—	106	58	
	10	1,664	—	808	563	0	—	293	—	
	11	1,525	—	800	604	—	—	120	0	
	12	1,423	—	1,021	170	—	—	202	30	
2010	—	1	1,683	—	1,086	478	—	—	118	1
	2	1,435	—	713	491	2	—	230	—	
	3	1,051	—	506	343	1	—	132	68	

資料：財務省関税局調査。

備考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：Country volume may not add up the total volume due to round off.

(18) 絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics

(単位 : 1,000m²)
(Unit : 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics								
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics	
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crape	先 練 (先染) Dyed Yarn		
年 月 Year & Month										
暦 年 Calendar Year										
2003	23,935	8,374	3,801	2,464	2,109	11,509	7,747	3,762	4,052	
2004	21,895	7,510	3,511	2,182	1,817	10,875	7,431	3,444	3,510	
2005	19,816	6,669	2,965	1,903	1,801	10,248	6,930	3,318	2,849	
2006	18,507	6,105	2,732	1,727	1,646	9,311	5,966	3,345	3,090	
2007	15,466	5,215	2,276	1,547	1,392	7,709	4,671	3,038	2,542	
2008	14,043	4,887	2,061	1,419	1,407	6,929	4,263	2,666	2,228	
2009	11,472	3,733	1,445	1,205	1,083	6,094	3,966	2,128	1,645	
2010 — 1	834	271	105	88	78	443	288	155	119	
2	939	305	118	99	88	499	325	175	134	
3	965	314	122	101	91	512	334	179	138	

資 料 : (社) 日本絹人織織物工業会。

備 考 : 絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver`s Association.

Remarks : Spun and mixed fabrics included .

Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics in Tango, Nagahama and Nishijin

項目 Item	絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
暦年 Calendar Year								
2003	23,935	88.5	1,171,145	99.3	208,660	91.0	922,533	92.4
2004	21,895	91.7	1,119,897	95.6	189,426	90.8	780,082	84.6
2005	19,816	90.3	1,058,571	94.5	170,061	89.8	691,780	88.7
2006	18,507	90.6	912,027	86.2	132,448	77.9	598,040	86.4
2007	15,466	83.6	712,560	78.1	97,204	73.4	977,719	163.5
2008	14,043	90.8	656,919	92.2	88,401	90.9	867,490	88.7
2009	11,472	81.7	503,365	76.6	73,681	83.3	746,538	86.1
2008 —								
1	1,101	93.1	38,929	90.2	7,511	102.5	56,667	60.9
2	1,300	97.5	65,845	100.1	7,288	81.1	93,343	86.2
3	1,282	95.3	65,402	111.1	7,959	82.4	78,494	97.2
4	1,200	90.1	57,356	91.7	7,964	90.1	74,391	87.8
5	1,201	96.5	55,793	110.6	6,381	82.2	67,669	95.0
6	1,263	92.2	65,862	95.4	9,352	130.5	57,541	68.1
7	1,184	91.4	53,644	86.7	7,548	104.3	84,867	95.5
8	1,028	91.2	46,770	97.9	5,302	87.2	66,629	74.4
9	1,156	86.7	54,846	79.4	7,416	87.8	100,298	142.6
10	1,123	86.9	49,981	85.2	7,817	83.2	62,123	101.9
11	1,127	85.7	53,365	84.4	7,973	97.1	69,923	89.7
12	1,078	83.2	49,096	79.0	5,890	72.7	55,604	82.4
2009 —								
1	876	79.5	27,931	71.7	5,428	72.3	70,227	123.9
2	1,033	79.5	48,523	73.7	5,994	82.2	80,196	85.9
3	999	77.9	43,968	67.2	6,664	83.7	70,816	90.2
4	987	82.2	43,957	76.6	6,766	85.0	70,733	95.1
5	935	77.8	39,715	71.2	5,162	80.9	49,997	86.9
6	1,009	79.9	45,800	69.5	6,492	69.4	59,496	103.4
7	958	80.9	40,343	75.2	6,448	85.4	62,673	73.8
8	853	83.0	37,632	80.5	5,642	106.4	42,766	64.2
9	963	83.3	44,281	80.7	6,077	81.9	53,568	53.4
10	944	84.1	40,356	80.7	6,027	77.1	57,802	93.0
11	978	86.8	47,618	89.2	6,920	86.8	66,104	94.5
12	937	86.9	43,241	88.1	6,061	102.9	61,841	111.2
1	834	95.2	31,911	114.2	5,989	110.3	64,521	91.9
2	939	90.9	46,194	95.2	6,366	106.2	68,288	85.2
3	965	96.6	43,859	99.8	7,813	117.2	75,704	106.9
4			44,458	101.1	7,506	110.9		

資料：絹織物生産数量は(社)日本絹人織織物工業会調査。主要3産地の生産量、出荷数量は社団法人日本生糸問屋協会調査。

備考：2006年1月以降の西陣の帯生産数量には、帯裏地等を含む。

Source：Japan Silk & Rayon Weaver's Association and Japan Raw Silk Dealer's Association.

Remarks：Since Jan. 2006, sash linings are included in sash production.

(20)全国全世帯被服類品目別消費支出状況

Consumption Expenditures of Total Households

項目 Item	消費支出総額 Total		被服及び履物 Clothing & footwear		和服 Japanese clothing		洋服 Clothing		シャツ・セーター Shirts & sweaters		下着類 Underwear	
	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)
年月 Year & Month												
暦年 Calendar Year												
2004	304,203	0.5	13,572	▲ 2.8	559	10.5	5,257	▲ 3.5	2,936	0.9	1,213	▲ 4.7
2005	300,903	▲ 1.1	13,440	▲ 1.0	440	▲ 7.8	5,122	▲ 2.6	2,911	▲ 0.9	1,260	3.9
2006	294,943	▲ 2.0	12,776	▲ 1.0	342	▲ 7.8	5,007	▲ 2.6	2,694	▲ 0.9	1,184	3.9
2007	297,782	1.0	12,933	1.2	345	0.9	5,066	1.2	2,727	1.2	1,164	▲ 1.7
2008	296,932	▲ 0.3	12,523	▲ 3.2	299	▲ 13.3	4,890	▲ 3.5	2,598	▲ 4.7	1,133	▲ 2.7
2009	291,737	▲ 0.2	11,994	▲ 3.3	261	▲ 12.0	4,622	▲ 4.2	2,468	▲ 4.0	1,098	▲ 2.9
2008 - 3	312,565	▲ 1.6	14,035	▲ 0.8	128	▲ 75.0	6,445	▲ 2.6	2,482	5.3	957	8.4
4	310,695	▲ 2.7	12,778	▲ 4.1	86	▲ 52.5	4,965	▲ 7.7	2,509	▲ 3.9	984	▲ 2.5
5	288,128	▲ 3.2	12,762	▲ 4.9	211	31.6	4,635	1.3	2,840	▲ 11.7	1,123	▲ 7.7
6	281,951	▲ 1.8	11,894	▲ 13.8	123	▲ 70.1	4,206	▲ 10.0	2,934	▲ 16.7	1,081	▲ 19.8
7	298,366	▲ 0.5	13,702	3.2	341	▲ 13.1	4,634	▲ 1.5	3,637	9.1	1,346	9.7
8	291,154	▲ 4.0	9,945	▲ 0.5	769	48.6	3,124	▲ 1.5	2,259	▲ 0.7	1,060	4.1
9	281,433	▲ 2.3	10,021	1.2	221	10.9	3,667	1.6	2,094	▲ 0.6	904	▲ 7.9
10	291,504	▲ 3.8	12,755	▲ 6.0	393	61.9	4,807	▲ 8.5	2,697	▲ 8.2	1,120	▲ 14.6
11	284,762	▲ 0.5	14,547	1.3	158	▲ 68.5	6,205	7.3	2,646	▲ 1.9	1,490	2.1
12	336,976	▲ 4.6	13,644	▲ 8.4	346	168.6	5,429	▲ 12.2	2,449	▲ 14.7	1,558	▲ 0.5
2009 - 1	291,440	▲ 5.9	13,679	▲ 1.4	337	▲ 32.6	6,371	4.0	2,528	▲ 7.1	1,034	▲ 4.4
2	266,044	▲ 3.5	8,879	▲ 12.9	165	▲ 45.8	3,883	▲ 10.7	1,669	▲ 9.5	704	▲ 21.4
3	310,680	▲ 0.4	13,466	▲ 3.6	526	314.6	6,307	▲ 1.4	2,027	▲ 16.8	849	▲ 11.4
4	306,340	▲ 1.3	12,533	▲ 1.6	360	324.5	4,569	▲ 7.4	2,451	▲ 1.9	976	▲ 1.0
5	285,530	0.3	12,623	▲ 1.0	181	▲ 13.2	4,451	▲ 3.6	2,755	▲ 2.7	1,060	▲ 6.0
6	277,237	0.2	11,815	▲ 0.3	117	▲ 3.5	3,929	▲ 6.0	2,935	0.9	1,143	5.5
7	285,078	▲ 2.0	11,873	▲ 12.7	209	▲ 38.1	3,871	▲ 15.6	3,029	▲ 15.8	1,299	▲ 3.3
8	290,972	2.6	8,882	▲ 10.2	368	▲ 51.7	2,820	▲ 9.2	2,185	▲ 2.2	907	▲ 14.1
9	277,110	1.0	9,651	▲ 2.5	215	▲ 2.4	3,273	▲ 8.4	2,141	2.1	932	3.3
10	287,789	1.6	12,287	▲ 2.3	75	▲ 80.8	4,685	0.1	2,705	1.0	1,220	9.3
11	284,740	2.2	13,698	▲ 4.3	236	50.0	5,558	▲ 7.8	2,512	▲ 4.3	1,392	▲ 6.0
12	337,887	2.1	14,546	8.7	344	▲ 0.3	5,750	9.2	2,678	11.0	1,656	7.7
2010 - 1	291,918	1.7	12,997	▲ 3.7	102	▲ 69.3	5,969	▲ 3.4	2,383	▲ 6.2	1,045	2.4
2	261,918	▲ 0.5	9,325	6.1	440	167.8	4,012	4.9	1,678	0.1	717	3.4
3	319,991	4.4	13,147	▲ 1.1	235	▲ 55.3	6,289	1.3	2,116	4.9	860	3.2

資料:総務省統計局「家計調査報告」。2人以上で構成される8,000世帯を集計。

備考:「被服及び履物」は右に並ぶ内訳4費目以外の費目も含む。年数値は月平均。

Source: Family Income and Expenditure Survey by Statistics Bureau, MIC.

Added up 8,000 two-or-more-person households.

Remarks: Clothing & footwear includes Japanese clothing, clothing, shirts & sweaters and other items.

Year value is mean of the each month.

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2003年	2004年	2005年
日本	Japan	780 トン	683 トン	626 トン
中国	China	480,774	547,091	621,461
インド	India	117,000	120,000	126,000
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	9,966	8,005	7,146
タイ	Thailand	10,500	10,650	10,650
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	20,000
イラン	Iran	3,200	3,200	2,543
トルコ	Turkey	169	169	170
ブルガリア	Bulgaria	0.3	20	42
ギリシャ	Greece	60	70	70
フィリピン	Philippines	23	22	14.4
シリア	Syria	15	11.5	5.5
主要国の計	Total	663,487	730,922	809,728

区 分		2006年	2007年	2008年
日本	Japan	505 トン	433 トン	382 トン
中国	China	739,715	779,261	683,387
インド	India	135,000	150,000	133,316
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	8,051	8,617	6,266
タイ	Thailand	10,100	1,785	7,700
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	25,760
イラン	Iran	2,104	1,665	1,185
トルコ	Turkey	350	130	126
ブルガリア	Bulgaria	65	55	48
ギリシャ	Greece	100	104	0
フィリピン	Philippines	16	9	6
シリア	Syria	3	2.5	2.5
主要国の計	Total	937,009	983,062	879,179

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド織維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会(ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 不明な数値は空欄とした。ただし、シェアの大きいベトナム、ウズベキスタンは、前者は2003年以降、後者は2002年以降2007年までを不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2003) and Uzbekistan (since 2002 until 2007) are not reported, they are taken as the same amount as previous year because they constitute high proportion of total.

(2)世界主要国の家蚕生糸生産数量

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2003年		2004年		2005年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	287	4,800	263	4,400	151	2,500
中国	China	83,763	1,396,100	80,231	1,337,200	87,761	1,462,700
インド	India	13,970	232,800	14,620	243,700	15,445	257,400
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,563	26,100	1,512	25,200	1,285	21,400
タイ	Thailand	1,500	25,000	1,420	23,700	1,420	23,700
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,100	18,300
イラン	Iran	500	8,300	500	8,300	395	6,600
トルコ	Turkey	28	500	28	500	30	500
ブルガリア	Bulgaria	0	0	3	100	6	100
ギリシャ	Greece	4	100	4.5	100	4	100
フィリピン	Philippines	3	100	3	100	1.1	0
シリア	Syria	2	0	1.5	0	0.7	0
主要国の計	Total	104,970	1,749,600	101,936	1,699,100	109,849	1,830,800

区 分		2006年		2007年		2008年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	119	2,000	105	1,800	95	1,600
中国	China	93,105	1,552,000	108,420	1,807,000	98,620	1,643,700
インド	India	16,525	275,400	18,320	305,300	18,370	306,200
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,387	23,100	1,220	20,300	1,177	19,600
タイ	Thailand	1,080	18,000	760	12,700	1,100	18,300
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,417	23,600
イラン	Iran	324	5,400	253	4,200	180	3,000
トルコ	Turkey	25	400	20	300	15	300
ブルガリア	Bulgaria	5	100	7.5	100	7.5	100
ギリシャ	Greece	4	100	0	0	0	0
フィリピン	Philippines	1.6	0	1	0	1	0
シリア	Syria	0.5	0	0	0	0.4	0
主要国の計	Total	115,926	1,932,300	132,457	2,207,500	123,233	2,053,900

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会(ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 不明な数値は空欄とした。ただし、シェアの大きいベトナム、ウズベキスタンは、前者は2003年以降、後者は2002年以降2007までを不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2003) and Uzbekistan (since 2002 until 2007) are not reported, they are taken as the same amount as previous year because they constitute high proportion of total.

(3) 中国省別家蚕繭生産量・生糸生産量・製糸工場数
Domesticated Cocoon Production, Raw Silk Production, and Number of Filatures in China

省 Province	区分	家蚕繭生産量 Domesticated Cocoon Production (トン、%)(MT, %)			生糸生産量 Raw silk Production (トン、%)(MT, %)		
		2007	2008	対前年比 2008/07	2007	2008	対前年比 2008/07
山 西	Shanxi	5,800	6,033	104	130	64	49
河 北	Hebei	1,020	1,000	-	-	-	-
江 蘇	Jiangsu	104,119	95,476	92	22,000	20,450	93
浙 江	Zhejiang	83,900	64,319	77	18,500	17,950	97
安 徽	Anhui	38,100	33,400	88	5,200	5,500	106
江 西	Jiangxi	12,400	10,015	81	2,500	2,570	103
山 東	Shandong	40,500	34,530	85	7,200	5,530	77
河 南	Henan	13,700	11,641	85	3,300	2,800	85
湖 北	Hubei	15,800	21,200	134	470	332	71
湖 南	Hunan	4,200	4,300	102	60	58	97
広 東	Guangdong	81,127	70,693	87	1,400	1,513	108
広 西	Guangxi	205,163	170,900	83	11,000	14,069	128
重 慶	Chongqing	24,800	22,110	89	7,800	5,497	70
四 川	Sichuan	83,700	68,576	82	24,700	16,400	66
貴 州	Guizhou	2,532	3,626	143	-	23	-
雲 南	Yunnan	36,600	40,348	110	1,640	2,871	175
陝 西	Shaanxi	24,600	23,800	97	2,300	2,868	125
甘 肅	Gansu	500	420	84	-	-	-
寧 夏	Ningxia	500	520	104	50	30	60
新 疆	Xinjiang	200	480	240	-	30	-
内 蒙 古	Inner Mongolia	-	-	-	60	65	108.33
合 計	Total	779,261	683,387	88	108,310	98,620	91

製糸工場数 (件) Number of Filatures		
2006	2008	前年比 2008/06
702	682	97

資料：中国絲綢協会資料による

注：合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(4) 中国省別家蚕繭生産量の推移 Domesticated Cocoon Production in China (1997年～2008年)

(単位：万トン) (Unit: 10,000ton)

地域	Area	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	前年比 08/07(%)
北 京	Beijing													
天 津	Tianjin													
河 北	Hebei		0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1				0.1	0.1	100.0
山 西	Shanxi	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.4	0.6	0.6	0.6	100.0
内 蒙 古	Inner Mongolia													
遼 寧	Liaoning													
吉 林	Jilin													
黒 龍 江	Heilongjiang													
上 海	Shanghai								0.0	0.0				
江 蘇	Jiangsu	8.6	8.5	8.2	9.0	10.1	11.9	10.7	11.1	10.1	11.8	10.4	9.5	91.3
浙 江	Zhejiang	9.5	10.4	9.4	9.5	11.0	9.9	7.9	7.6	7.5	8.5	8.4	6.4	76.2
安 徽	Anhui	2.4	2.5	2.1	2.5	2.7	2.8	2.6	2.7	3.4	3.8	3.8	3.3	86.8
福 建	Fujian													
江 西	Jiangxi	0.5	0.4	0.3	0.3	0.5	0.7	0.8	1.0	1.1	1.2	1.2	1.0	83.3
山 東	Shandong	3.4	4.2	4.2	5.3	6.9	6.9	6.7	3.5	3.7	4.0	4.0	3.5	87.5
河 南	Henan	1.3	0.6	1.2	1.3	1.5	1.7	1.1	0.7	0.9	1.3	1.4	1.2	85.7
湖 北	Hubei	1.2	1.4	1.4	1.2	1.2	1.3	1.2	1.1	1.4	1.6	1.6	2.1	131.3
湖 南	Hunan	0.1	0.1			0.1	0.1	0.2	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	100.0
広 東	Guangdong	2.1	2.1	2.3	3.1	4.5	5.3	5.2	2.7	3.4	6.9	8.1	7.1	87.7
広 西	Guangxi	1.5	1.8	1.9	3.0	5.6	7.4	8.7	9.2	14.8	18.5	20.5	17.1	83.4
海 南	Hainan													
重 慶	Chongqing		2.9	2.4	3.0	3.2	3.4	2.8	2.6	3.1	2.4	2.5	2.2	88.0
四 川	Sichuan	8.5	9.3	8.1	8.7	9.2	9.3	9.3	8.3	7.8	7.8	8.4	6.9	82.1
貴 州	Guizhou	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	0.4	200.0
雲 南	Yunnan	0.7	0.7	0.7	0.7	0.9	1.1	1.3	1.9	2.0	3.1	3.7	4.0	108.1
チベット	Tibet													
陝 西	Shaanxi	1.4	1.6	1.5	1.5	1.6	1.7	1.9	1.6	2.0	1.8	2.5	2.4	96.0
甘 肅	Gansu								0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	
青 海	Qinghai													
寧 夏	Ningxia								0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	
新 疆	Xinjiang	0.3	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	
合 計	Total	42.3	47.5	44.7	50.1	60.2	64.5	61.1	55.0	62.2	73.9	77.9	68.3	87.7

資料：2003年までは中国国家统计局「中国統計年鑑」、2004年以降は中国絲綢協会資料による。

合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: Until 2003, "China Statistical Yearbook" National Bureau of Statistics of China

Since 2004, China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

中国のシルク類の輸出状況
Silk Exports of China
(2009年1月～12月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕生糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2009年実績	09/08(%)	2009年実績	09/08(%)
1 インド	India	6,569,701	78.43	169,347	85.25
2 韓国	South Korea	535,549	95.45	15,298	102.90
3 日本	Japan	452,022	68.23	13,085	68.07
4 ベトナム	Vietnam	375,651	59.74	10,753	65.15
5 イタリア	Italy	256,086	30.89	7,581	32.41
6 ルーマニア	Romania	255,816	22.80	7,174	23.79
7 パキスタン	Pakistan	177,598	71.93	4,587	79.16
8 バングラデッシュ	Bangladesh	151,813	78.57	3,798	84.36
9 シンガポール	Singapore	129,035	189.66	3,251	208.51
10 ミャンマー	Myanmar	65,661	118.00	1,594	122.07
11 その他	Others	258,273	37.59	7,053	39.69
合計	Total	9,227,205	68.70	243,521	72.97

相手国	Country	絹糸 Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2009年実績	09/08(%)	2009年実績	09/08(%)
1 インド	India	2,477,192	456.28	63,805	427.09
2 日本	Japan	596,647	95.02	18,318	91.10
3 パキスタン	Pakistan	464,458	111.39	13,203	112.44
4 イタリア	Italy	412,419	44.99	12,492	43.37
5 ドイツ	Germany	296,058	74.82	9,325	67.56
6 韓国	South Korea	202,018	463.33	5,923	398.83
7 タイ	Thailand	88,127	41.63	2,647	41.30
8 インドネシア	Indonesia	78,856	162.88	2,102	159.86
9 シンガポール	Singapore	69,474	287.05	1,617	256.15
10 ベトナム	Vietnam	56,380	1124.45	1,416	588.72
11 その他	Others	184,838	106.93	5,381	126.61
合計	Total	4,926,467	144.64	136,229	128.62

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2009年実績	09/08(%)	2009年実績	09/08(%)
1 インド	India	65,737,464	112.31	160,690	115.57
2 パキスタン	Pakistan	45,144,585	221.13	88,970	212.78
3 イタリア	Italy	36,326,731	80.82	105,440	73.08
4 香港	Hong Kong	17,155,562	61.78	75,032	61.09
5 韓国	South Korea	17,005,031	83.70	63,282	79.55
6 日本	Japan	11,401,420	83.87	29,884	79.73
7 シンガポール	Singapore	10,373,370	144.46	36,621	190.37
8 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	9,144,231	132.50	28,526	127.03
9 マレーシア	Malaysia	9,118,447	134.96	30,400	132.01
10 アメリカ	United States	5,460,308	65.40	30,024	62.19
11 その他	Others	35,259,585	101.90	116,842	92.90
合計	Total	262,126,734	105.13	765,711	95.27

資料: 中国税関
Source: Customs General Administration in China

中国のシルク類の輸出状況
Silk Exports of China
(2010年1月～3月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕生糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2010年実績	10/09(%)	2010年実績	10/09(%)
1 インド	India	1,164,785	75.74	39,673	118.97
2 韓国	South Korea	112,338	175.52	3,905	242.99
3 ベトナム	Vietnam	106,775	345.39	3,496	479.42
4 日本	Japan	97,805	142.38	3,613	205.50
5 イタリア	Italy	58,917	69.17	2,135	89.52
6 バングラデッシュ	Bangladesh	56,826	150.38	1,905	231.19
7 パキスタン	Pakistan	42,597	110.83	1,423	174.45
8 ミャンマー	Myanmar	31,708	183.73	1,032	283.28
9 ルーマニア	Romania	25,806	28.37	0,902	39.06
10 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	15,056	1,643.67	0,498	2,351.55
11 その他	Others	61,298	54.85	2,082	78.60
合計	Total	1,773,911	85.13	60,664	129.60

相手国	Country	絹糸 Spun Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2010年実績	10/09(%)	2010年実績	10/09(%)
1 インド	India	240,295	44.83	8,482	65.52
2 日本	Japan	138,180	136.36	5,373	178.32
3 パキスタン	Pakistan	134,572	101.93	4,970	147.53
4 イタリア	Italy	123,408	85.08	4,654	109.22
5 ドイツ	Germany	53,933	65.95	1,905	59.82
6 韓国	South Korea	26,318	122.44	0,974	168.36
7 タイ	Thailand	26,083	91.44	1,009	59.82
8 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	22,841	-	0,806	-
9 インドネシア	Indonesia	21,720	253.53	0,770	379.73
10 イラク	Iraq	7,706	-	0,123	-
11 その他	Others	36,605	69.57	1,473	93.46
合計	Total	831,661	75.10	30,539	103.57

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2010年実績	10/09(%)	2010年実績	10/09(%)
1 イタリア	Italy	11,555,060	131.32	36,715	140.09
2 インド	India	10,325,094	83.51	29,095	104.19
3 パキスタン	Pakistan	8,141,548	112.43	20,092	147.13
4 香港	Hong Kong	3,842,482	90.91	17,825	95.74
5 韓国	South Korea	3,744,761	103.90	15,198	111.50
6 日本	Japan	2,653,041	102.68	8,198	118.34
7 シンガポール	Singapore	2,031,300	103.77	8,759	131.09
8 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	1,869,574	111.67	5,917	105.20
9 マレーシア	Malaysia	1,512,700	63.77	5,947	76.15
10 トルコ	Turkey	1,422,861	145.41	5,387	169.08
11 その他	Others	9,214,676	141.52	35,100	140.16
合計	Total	56,313,097	107.65	188,233	120.01

資料: 中国税関
Source: Customs General Administration in China

(6)ブラジルの繭・生糸生産量推移
Cocoon and Raw Silk Production in Brazil

シルク年度 Silk Year (9～8月) (Sep-Aug)	繭生産量 Cocoon Production (トン)(Ton)	暦年 Calendar Year	生糸生産量 Raw Silk Production (kg)	生糸生産量 Raw Silk Production (俵換算) (Bale value)
1985/86	11,353	1985	1,553,776	25,896
1986/87	10,575	1986	1,663,976	27,733
1987/88	11,830	1987	1,658,375	27,640
1988/89	11,470	1988	1,748,996	29,150
1989/90	15,829	1989	1,696,622	28,277
1990/91	17,221	1990	1,693,206	28,220
1991/92	17,586	1991	2,077,155	34,619
1992/93	19,134	1992	2,296,053	38,268
1993/94	18,260	1993	2,325,809	38,763
1994/95	16,260	1994	2,535,440	42,257
1995/96	15,368 (95%)	1995	2,467,524 (97%)	41,125
1996/97	14,811 (96%)	1996	2,242,000 (91%)	37,367
1997/98	14,594 (99%)	1997	2,120,129 (95%)	35,335
1998/99	10,305 (71%)	1998	1,820,745 (86%)	30,346
1999/2000	8,473 (82%)	1999	1,553,722 (85%)	25,895
2000/01	9,916 (117%)	2000	1,389,356 (89%)	23,156
2001/02	10,238 (103%)	2001	1,484,905 (107%)	24,748
2002/03	9,966 (97%)	2002	1,607,485 (108%)	26,791
2003/04	8,005 (80%)	2003	1,562,563 (97%)	26,043
2004/05	7,146 (89%)	2004	1,512,133 (97%)	25,202
2005/06	8,051 (113%)	2005	1,284,510 (85%)	21,409
2006/07	8,617 (107%)	2006	1,387,289 (108%)	23,121
2007/08	6,266 (73%)	2007	1,219,562 (88%)	20,326
2008/09	4,835 (77%)	2008	1,176,885 (97%)	19,615
2009/10 [見込み] [Estimate]	4,586 (95%)	2009 [見込み] [Estimate]	850,000 (72%)	14,167

資料:ブラジル製糸協会

注:()内は対前年比

[]内の見込みは2009年10月現在

Source: ABRASSEDA

Note: Figures in parenthesis are compared to the previous year.

Estimates are as of October 2009.

(7) ブラジル生糸、絹撚糸及び副蚕糸の内需・輸出別販売状況
 Domestic Demand and Exports of Raw Silk, Twisted Silk Yarn and Secondary
 Silk Yarn in Brazil

単位：ト、()内は60kg俵
 Unit: ton, Figures in Parenthesis: Bales of 60kg

区分		2003年 実績	2004年 実績	2005年 実績	2006年 実績	2007年 実績	2008年 実績	2009年予測 forecast	09/08 (%)
生糸 Raw Silk	内需 Domestic Demand	90 (1,500)	106 (1,767)	118 (1,967)	72 (1,200)	84 (1,400)	70 (1,167)	56 (933)	80.0
	輸出 Export	1,057 (17,617)	837 (13,950)	676 (11,267)	782 (13,033)	876 (14,600)	721 (12,017)	624 (10,400)	86.5
	計 Total	1,147 (19,117)	943 (15,717)	794 (13,233)	854 (14,233)	960 (16,000)	791 (13,183)	680 (11,333)	86.0
絹撚糸 Twisted Silk Yarn	内需 Domestic Demand	77 (1,283)	71 (1,183)	92 (1,533)	74 (1,233)	78 (1,300)	89 (1,483)	79 (1,317)	88.8
	輸出 Export	431 (7,183)	516 (8,600)	454 (7,567)	392 (6,533)	274 (4,567)	274 (4,567)	145 (2,417)	52.9
	計 Total	508 (8,467)	587 (9,783)	546 (9,100)	466 (7,767)	352 (5,867)	363 (6,050)	224 (3,733)	61.7
糸類計 Total	内需 Domestic Demand	167 (2,783)	177 (2,950)	210 (3,500)	146 (2,433)	162 (2,700)	159 (2,650)	135 (2,250)	84.9
	輸出 Export	1,488 (24,800)	1,353 (22,550)	1,130 (18,833)	1,174 (19,567)	1,150 (19,167)	995 (16,583)	769 (12,817)	77.3
	計① Total①	1,655 (27,583)	1,530 (25,500)	1,340 (22,333)	1,320 (22,000)	1,312 (21,867)	1,154 (19,233)	904 (15,067)	78.3
副蚕糸 Secondary Silk Yarn	内需 Domestic Demand	264	123	43	84	72	76	49	64.5
	輸出 Export	217	386	295	241	256	182	147	80.8
	計② Total②	481	509	338	325	328	258	196	76.0
	②/①	29.1	33.3	25.2	24.6	25.0	22.4	21.7	

資料：ブラジル製糸協会

注：俵換算は、合計で一致しない場合がある。

Source: ABRASSEDA

Note: Bale value may not add up.

※「シルクレポート」の主要記事と統計データは、当支援センターのホームページでもご覧になれます。

<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

シルクレポート 2010年7月号 NO.13 平成22年7月1日発行

編集 / 発行
(問い合わせ先)

(財) 大日本蚕糸会 蚕糸・絹業提携支援センター
〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館5階
TEL : 03-3214-3500
FAX : 03-3214-3511
URL:<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

製本 / 印刷 株式会社 正大印刷社

無断転載禁ず